

III 調査結果

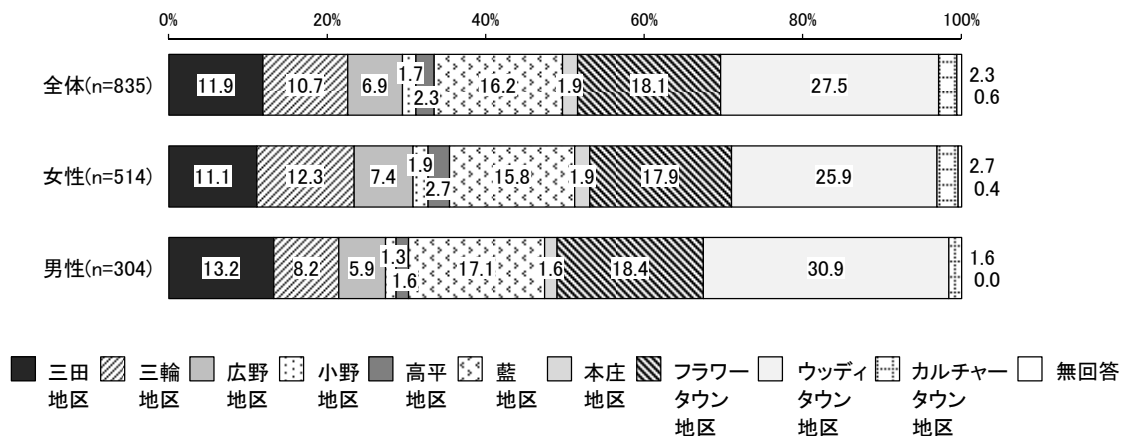
1. 回答者自身と家族のことについて

(1) 居住地区

問1 あなたのお住まいの地区はどちらですか。【〇は1つ】

居住地区は、「ウッディタウン地区」が27.5%で最も高く、次いで「フラワータウン地区」が18.1%、「藍地区」が16.2%、「三田地区」が11.9%、「三輪地区」が10.7%となっています。

図 性別 居住地区

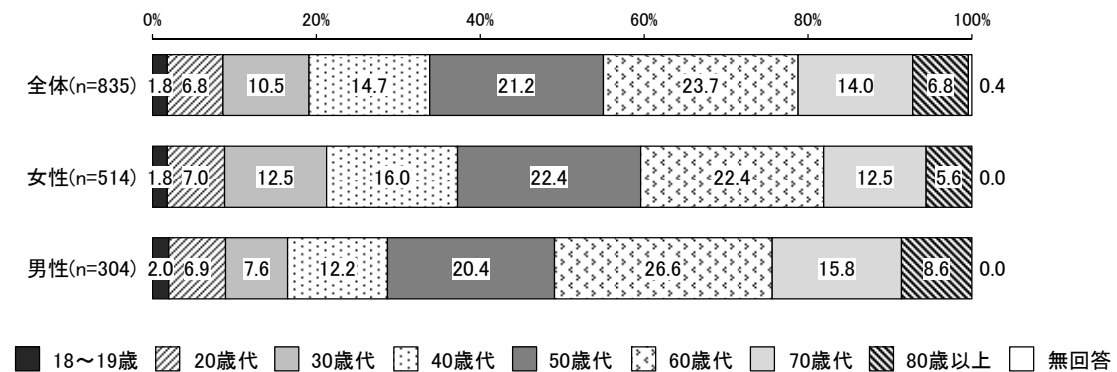


(2) 年齢

問2 あなたの年齢はいくつですか。【〇は1つ】

回答者の年齢構成は、「60歳代」が23.7%で最も高く、次いで「50歳代」が21.2%、「40歳代」が14.7%、「70歳代」が14.0%となっており、50歳以上の回答者が合計65.7%となっています。

図 性別 年齢

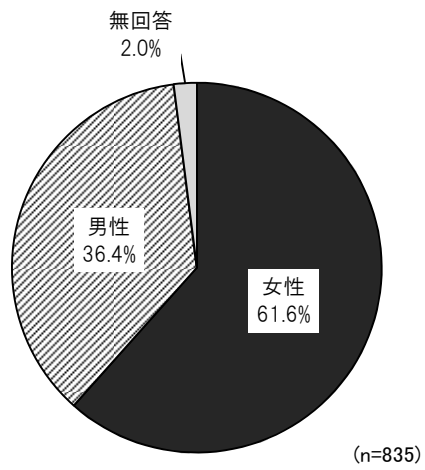


(3)性別

問3 あなたの性別をご記入ください。

回答者の性別は、「女性」が61.6%、「男性」が36.4%と、「女性」の割合が高くなっています。

図 性別



(4) 配偶関係

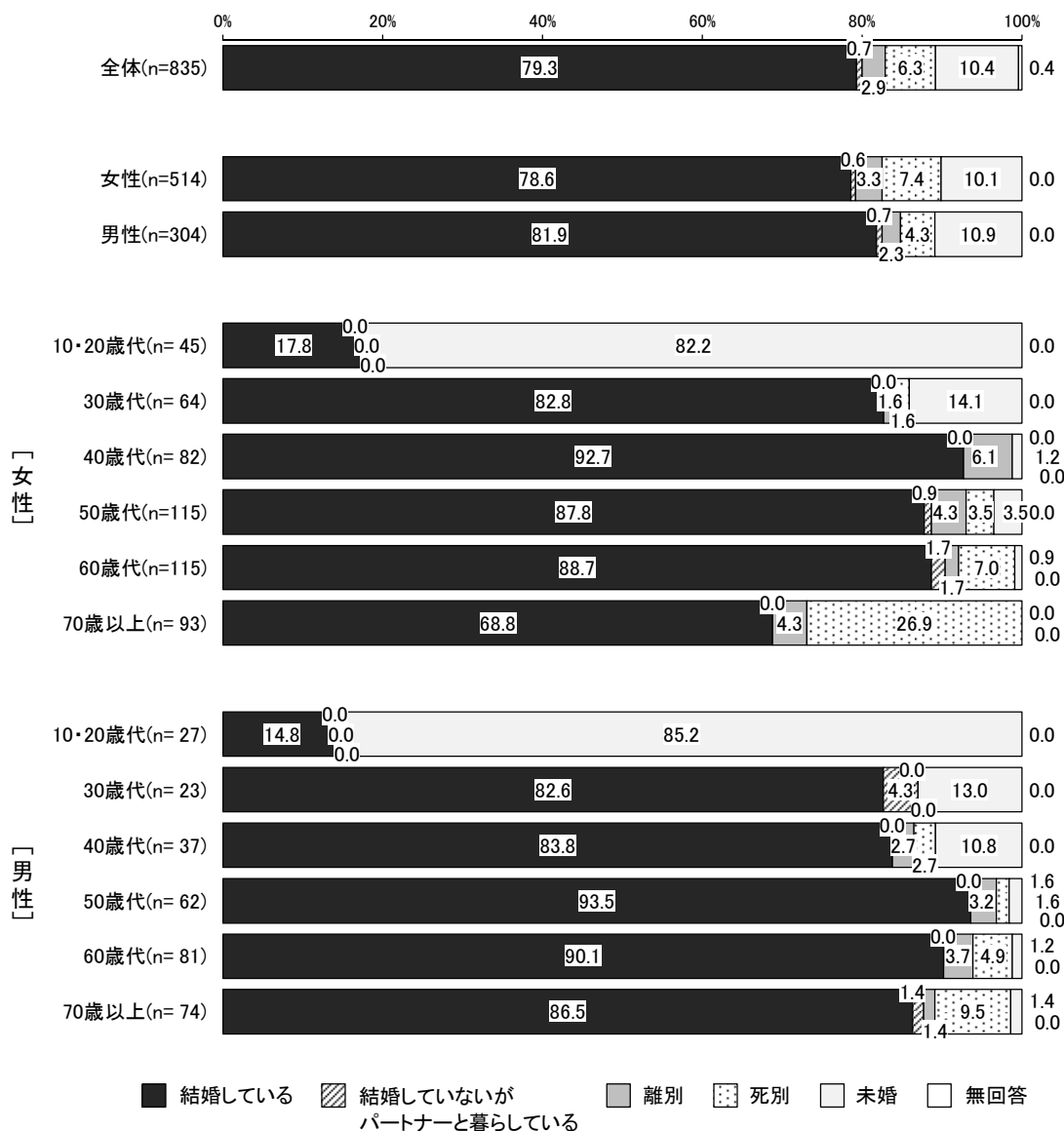
問4 あなたは結婚されていますか。【〇は1つ】

配偶関係は、「結婚している」が79.3%で最も高く、次いで「未婚」が10.4%、「死別」が6.3%、「離別」が2.9%、「結婚していないがパートナーと暮らしている」が0.7%となっています。

性別にみると、「死別」は女性7.4%・男性4.3%で、女性の方がやや高くなっています。

年齢別にみると、10・20歳代は「未婚」が女性82.2%・男性85.2%と高く、30～60歳代の男女では「結婚している」が80%以上となっています。70歳以上は女性で「死別」が26.9%となっています。

図 性別、年齢別 配偶関係



(5) 家族構成

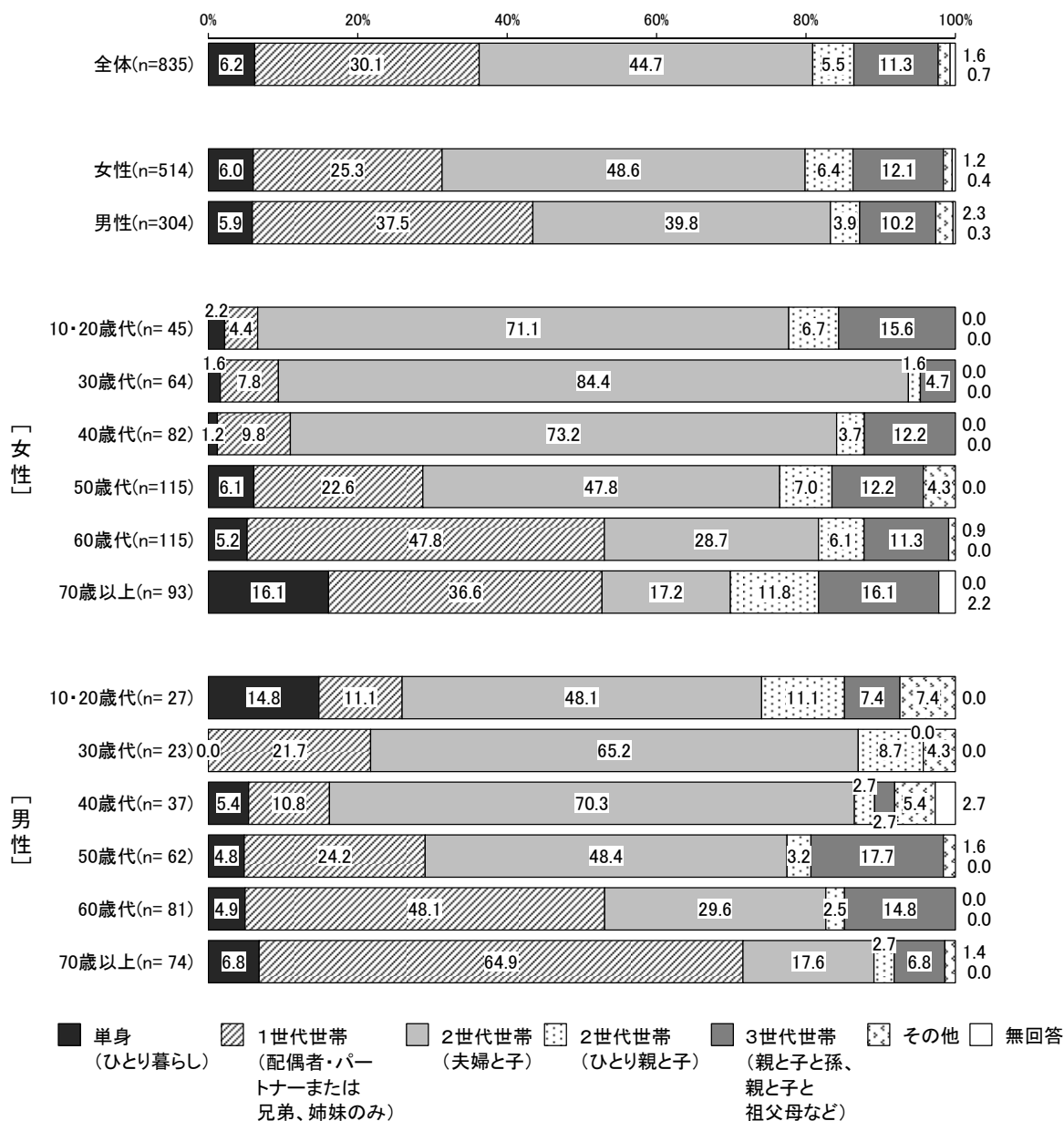
問5 あなたのご家族の構成は次のどれですか。【〇は1つ】

家族構成は、「2世代世帯（夫婦と子）」が44.7%で最も高く、次いで「1世代世帯（配偶者・パートナーまたは兄弟、姉妹のみ）」が30.1%、「3世代世帯（親と子と孫、親と子と祖父母など）」が11.3%となっています。

性別にみると、女性では「2世代世帯（夫婦と子）」が48.6%を占め、続く「1世代世帯（配偶者・パートナーまたは兄弟、姉妹のみ）」は25.3%となっています。男性では、「2世代世帯（夫婦と子）」は39.8%、「1世代世帯（配偶者・パートナーまたは兄弟、姉妹のみ）」は37.5%となっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて、「2世代世帯（夫婦と子）」の割合が低くなり、「1世代世帯（配偶者・パートナーまたは兄弟、姉妹のみ）」の割合が高くなる傾向がみられます。「単身（ひとり暮らし）」の割合については、女性の70歳以上、男性の10・20歳代で10%を超えています。

図 性別、年齢別 家族構成



(6) 職業

問6 あなたのご職業は次に示す項目のうちどれにあたりますか。【〇は1つ】

職業は、「常時雇用されている一般従業者」が28.3%で最も高く、次いで「パート・アルバイト・派遣社員等」が21.6%、「無職」が20.7%、「家事専業」が20.1%となっており、就業者の合計は55.0%、非就業者の合計は44.5%となります。

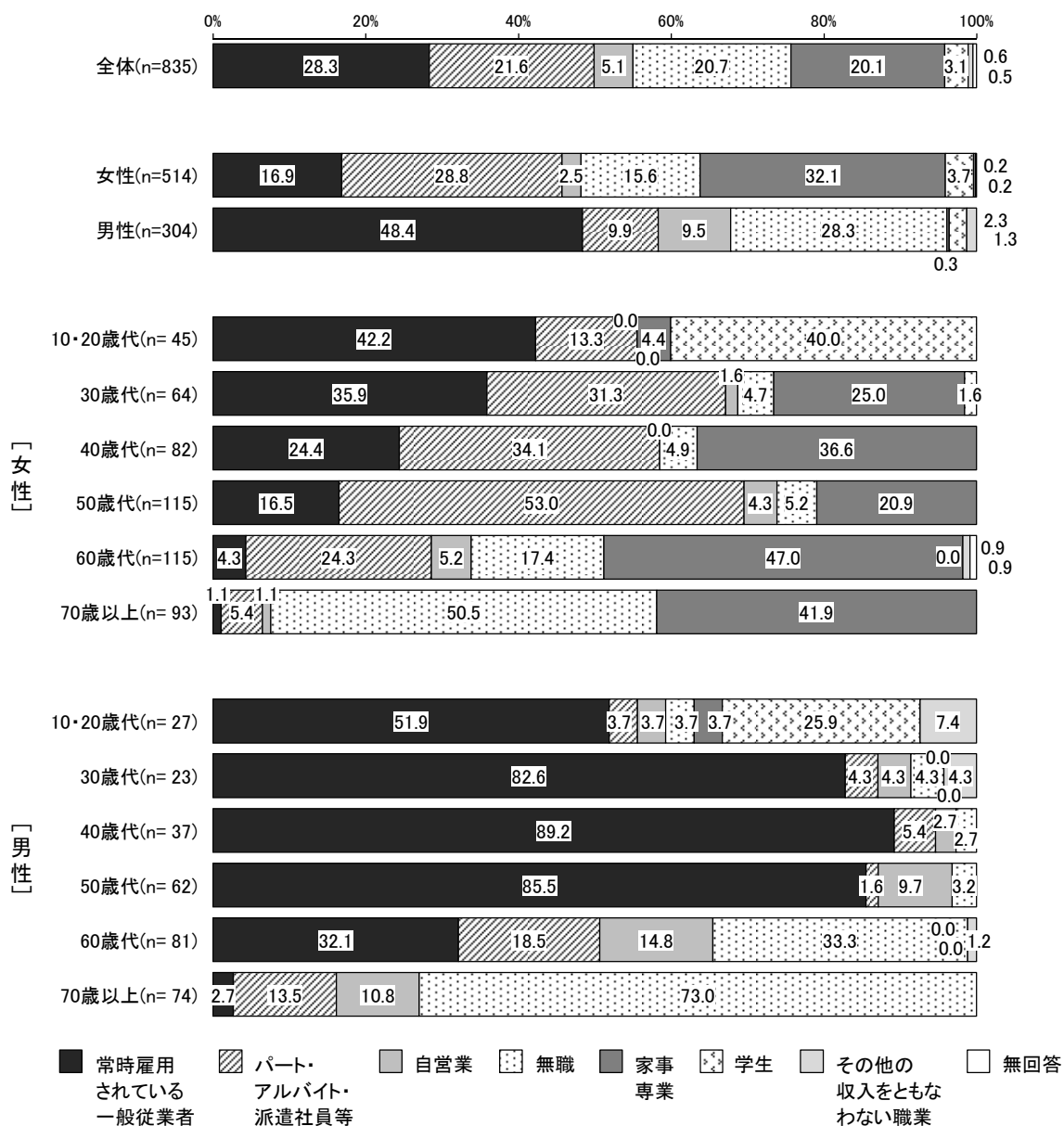
性別にみると、女性は、「家事専業」が32.1%で最も高く、次いで「パート・アルバイト・派遣社員等」が28.8%、「常時雇用されている一般従業者」が16.9%となっています。

男性は、「常時雇用されている一般従業者」が48.4%で最も高く、次いで「無職」が28.3%となっています。

年齢別にみると、女性は年齢が高くなるにつれて「常時雇用されている一般従業者」の割合が低くなり、40歳代と60歳代では「家事専業」、50歳代では「パート・アルバイト・派遣社員等」の割合が最も高くなっています。

男性では、30～50歳代では、「常時雇用されている一般従業者」が約80～90%を占めています。

図 性別、年齢別 職業



(7) 週あたり労働時間

問7は、問6で「1 常時雇用されている一般従業者」「2 パート・アルバイト・派遣社員等」「3 自営業」と答えた方におたずねします。

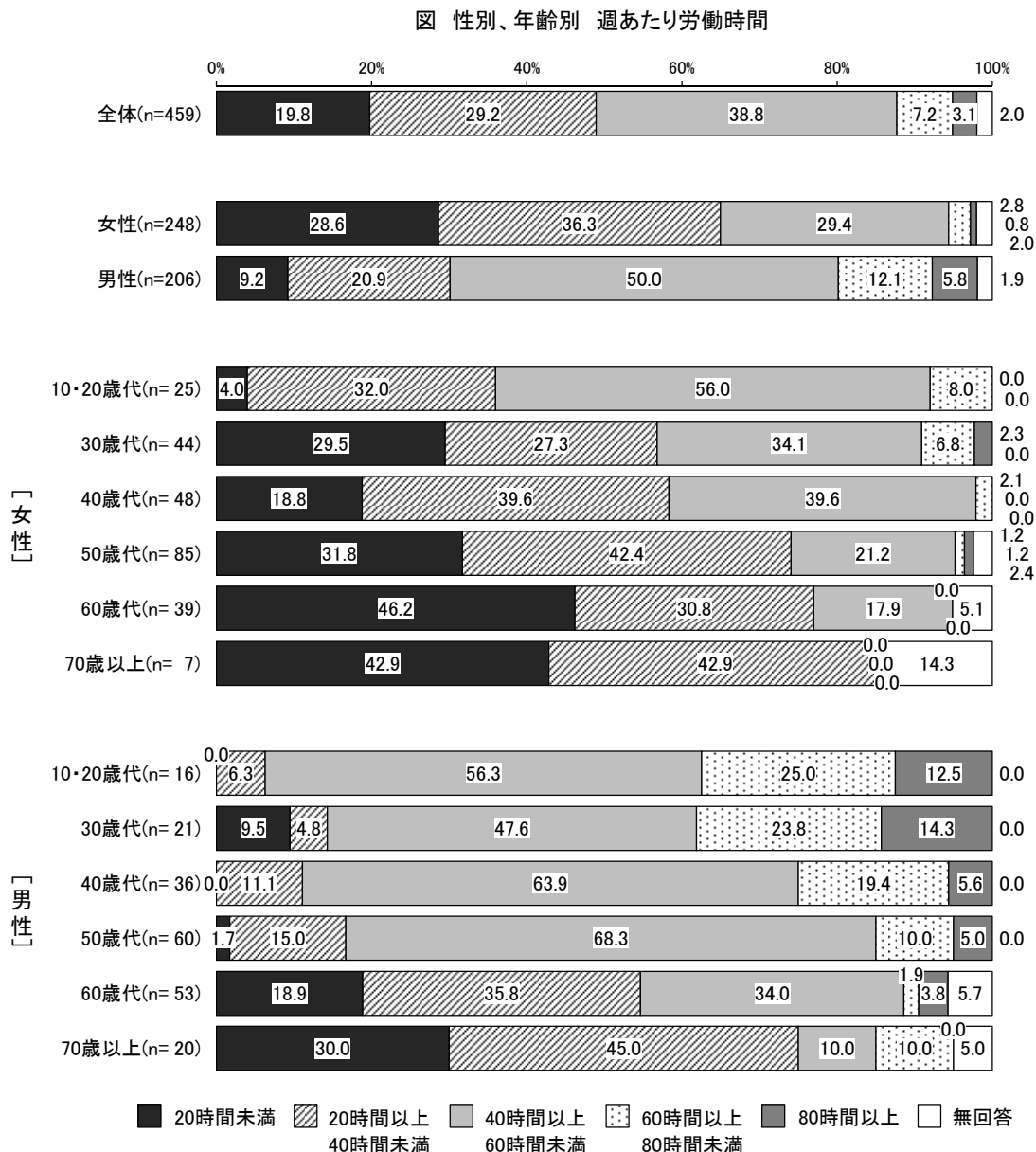
問7 あなたの週あたりの労働時間（残業時間を含む）は次のうちどれにあたりますか。【〇は1つ】

就業者の週あたり労働時間は、「40時間以上60時間未満」が38.8%で最も高く、次いで「20時間以上40時間未満」が29.2%、「20時間未満」が19.8%となっています。

性別にみると、40時間未満の合計は女性で64.9%となっており、男性の30.1%より34.8ポイント高くなっています。

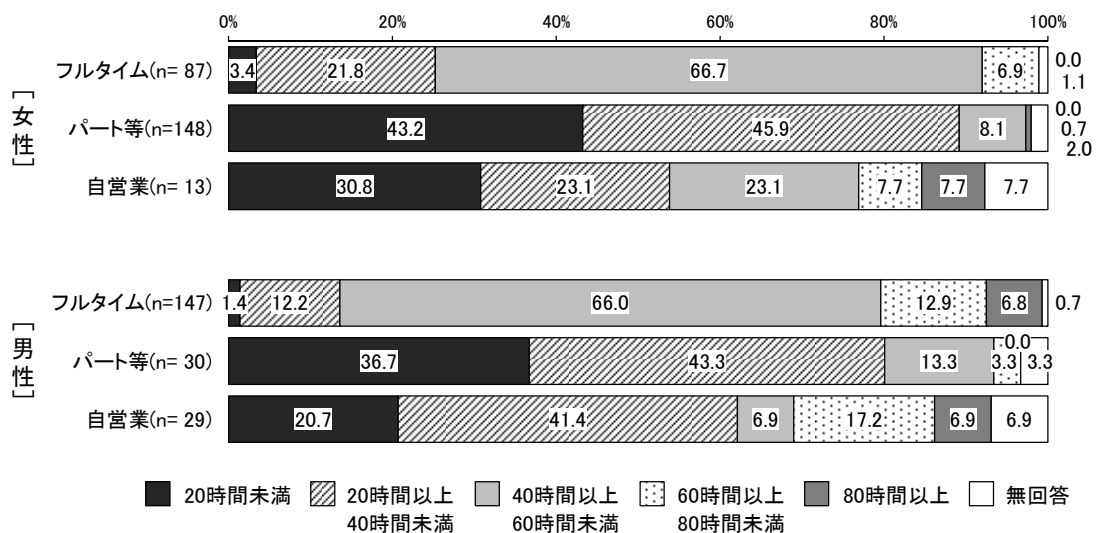
年齢別にみると、女性では10・20歳代は40時間以上の合計が64.0%を占めていますが、30歳以上では40時間未満の合計が50%を超えています。

男性では、50歳代以下は40時間以上の合計が約80~90%を占めており、40歳代以下では『60時間以上』（「60時間以上80時間未満」と「80時間以上」の合計）の割合が特に高くなっています。



職業別にみると、フルタイムでは、「40時間以上60時間未満」が女性66.7%・男性66.0%と高くなっています。パート等では、「20時間未満」が女性43.2%・男性36.7%、「20時間以上40時間未満」が女性45.9%・男性43.3%となっています。

図 職業別 週あたり労働時間



(8) 1日あたり家事時間

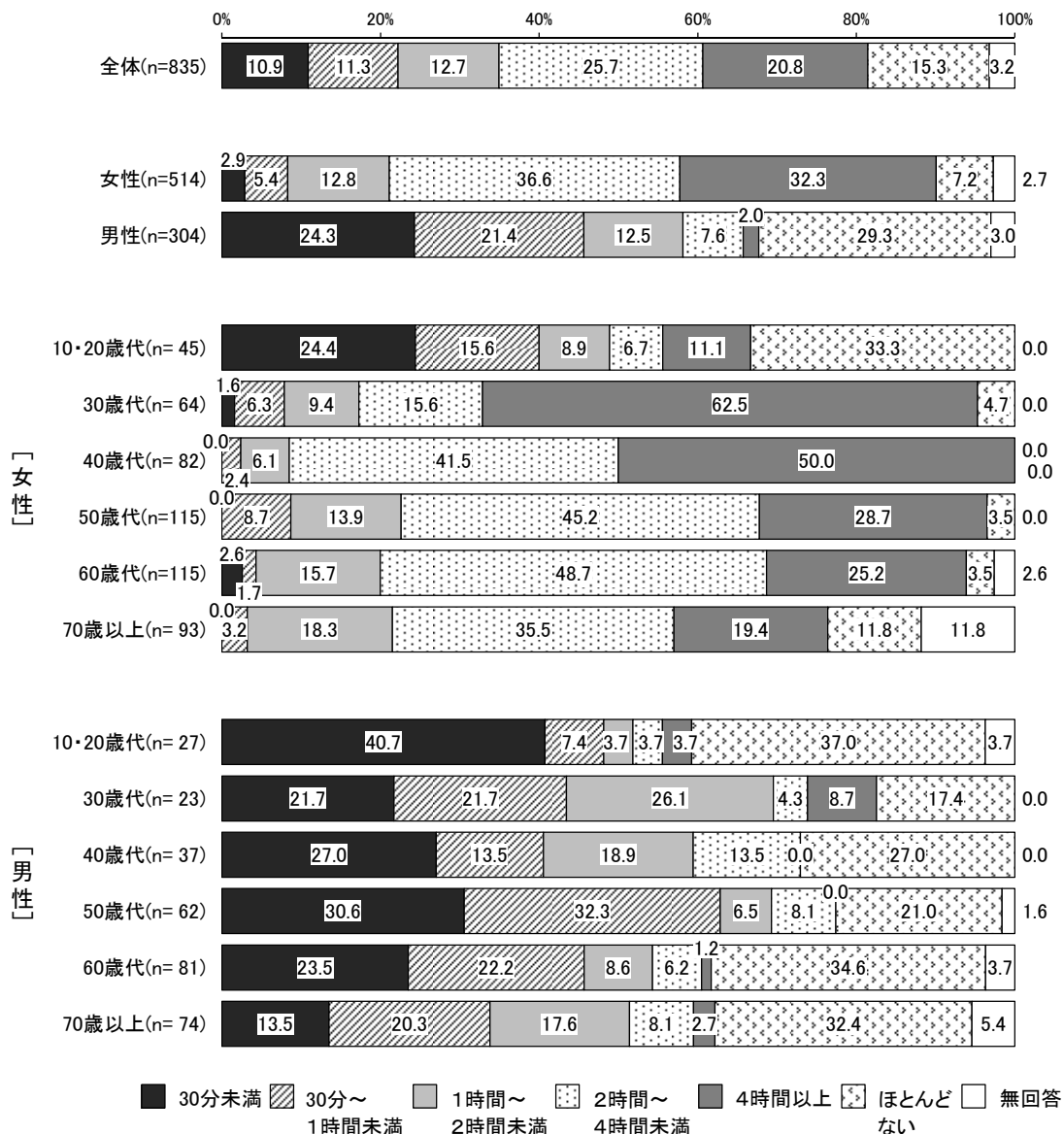
問8 あなたが1日に家事や子育て、介護に費やす時間は平均すると次のうちどれにあたりますか。【○は1つ】

1日に家事や子育て、介護に費やす時間は、「2時間～4時間未満」が25.7%で最も高く、次いで「4時間以上」が20.8%、「ほとんどない」が15.3%となっています。

性別にみると、女性は、「2時間～4時間未満」が36.6%、「4時間以上」が32.3%となっています。男性は、「ほとんどない」が29.3%、「30分未満」が24.3%、「30分～1時間未満」が21.4%となっており、1時間未満が合計75.0%となっています。

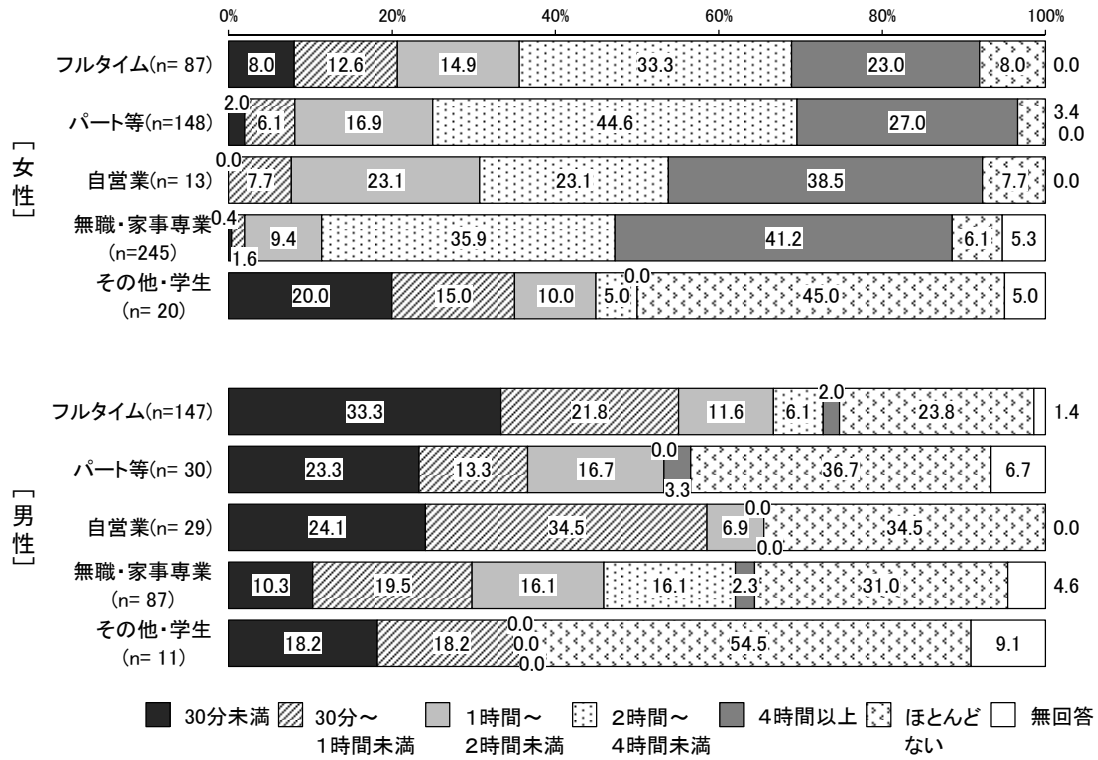
年齢別にみると、10・20歳代は、「ほとんどない」が女性33.3%・男性37.0%、「30分未満」が女性24.4%・男性40.7%と高くなっています。女性では30歳代・40歳代は「4時間以上」が50%以上を占め、50歳以上は「2時間～4時間未満」の割合が最も高くなっています。男性では、30・40歳代では、1時間以上の合計が30%を超えています。

図 性別、年齢別 1日あたり家事時間



職業別にみると、女性のフルタイムとパート等では、「2時間～4時間未満」、自営業と無職・家事専業では「4時間以上」の割合が最も高くなっています。男性では、「30分未満」と「ほとんどない」の合計が、フルタイム、パート等、自営業で約60%となっています。

図 職業別 1日あたり家事時間



(件)

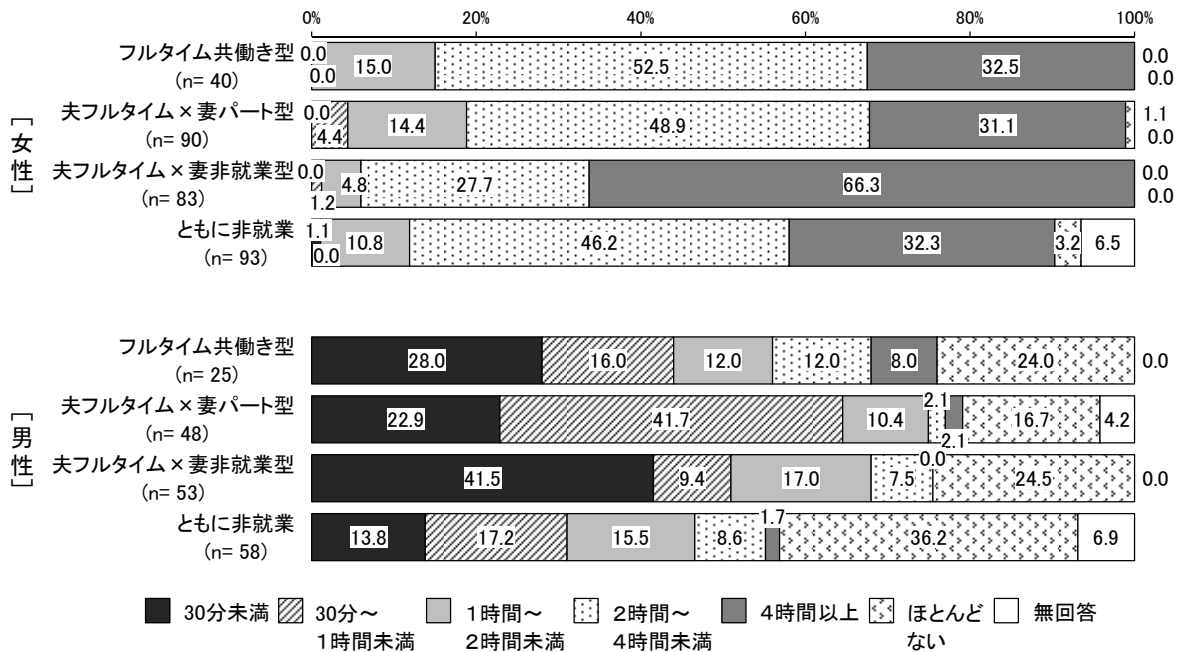
回答者本人と配偶者・パートナーとの職業の組み合わせ（右表）のうち、該当者数が多い組み合わせ（夫フルタイム×妻フルタイム（フルタイム共働き型）、夫フルタイム×妻パート型、夫フルタイム×妻非就業型、夫非就業×妻非就業型（ともに非就業））について家事時間をみたところ、フルタイム共働き型と夫フルタイム×妻パート型では、女性は「2時間～4時間未満」が約50%、「4時間以上」が約30%となっています。男性は、『30分未満の合計』（「30分未満」と「ほとんどない」の合計）がフルタイム共働き型で52.0%、夫フルタイム×妻パート型で39.6%となっており、2時間以上の合計はフルタイム共働き型で20.0%、夫フルタイム×妻パート型で4.2%となっています。

		妻の職業※1			
		フルタイム	パート等	自営業	非就業
夫の職業※2	フルタイム	65	138	6	136
	パート等	8	22	1	20
	自営業	6	18	9	26
	非就業	4	25	3	151

夫フルタイム×妻非就業型では、女性は「4時間以上」が66.3%、男性は「30分未満」が41.5%となっています。

ともに非就業では、女性は「2時間～4時間未満」が46.2%で最も高く、男性は「ほとんどない」が36.2%で最も高くなっています。

図 配偶者・パートナーとの就労類型別 1日あたり家事時間



※1 女性回答者の本人の職業、または、男性回答者の配偶者・パートナーの職業

※2 男性回答者の本人の職業、または、女性回答者の配偶者・パートナーの職業

(9) 配偶者の職業

問9～11 は、問4で「1 結婚している」「2 結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方におたずねします。

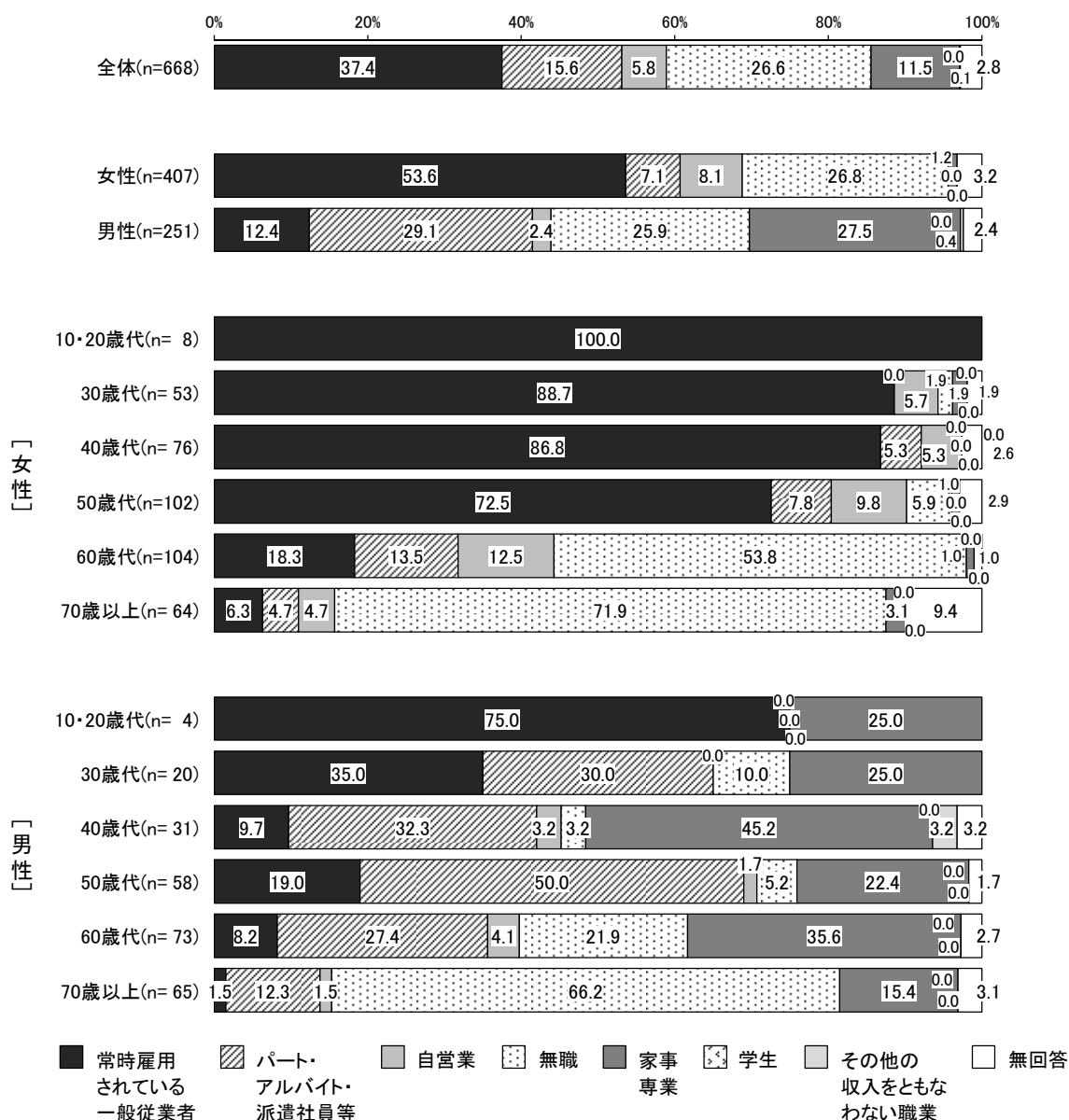
問9 あなたの配偶者・パートナーのご職業は次のうちどれにあたりますか。【〇は1つ】

配偶者の職業は、「常時雇用されている一般従業者」が37.4%で最も高く、次いで「無職」が26.6%、「パート・アルバイト・派遣社員等」が15.6%、「家事専業」が11.5%となっています。

性別にみると、女性では「常時雇用されている一般従業者」が53.6%を占め、男性では「パート・アルバイト・派遣社員等」が29.1%、「家事専業」が27.5%となっています。

年齢別にみると、女性の10～50歳代では「常時雇用されている一般従業者」が70%以上を占めています。男性では、40歳代は「家事専業」が45.2%、50歳代は、「パート・アルバイト・派遣社員等」が50.0%と高くなっています。

図 性別、年齢別 配偶者の職業



注) 割合が0.0%の項目は、グラフ上の数値を省略している場合があります。

(10) 配偶者の週あたり労働時間

問10は、問9で「1 常時雇用されている一般従業者」「2 パート・アルバイト・派遣社員等」「3 自営業」と答えられた方におたずねします。

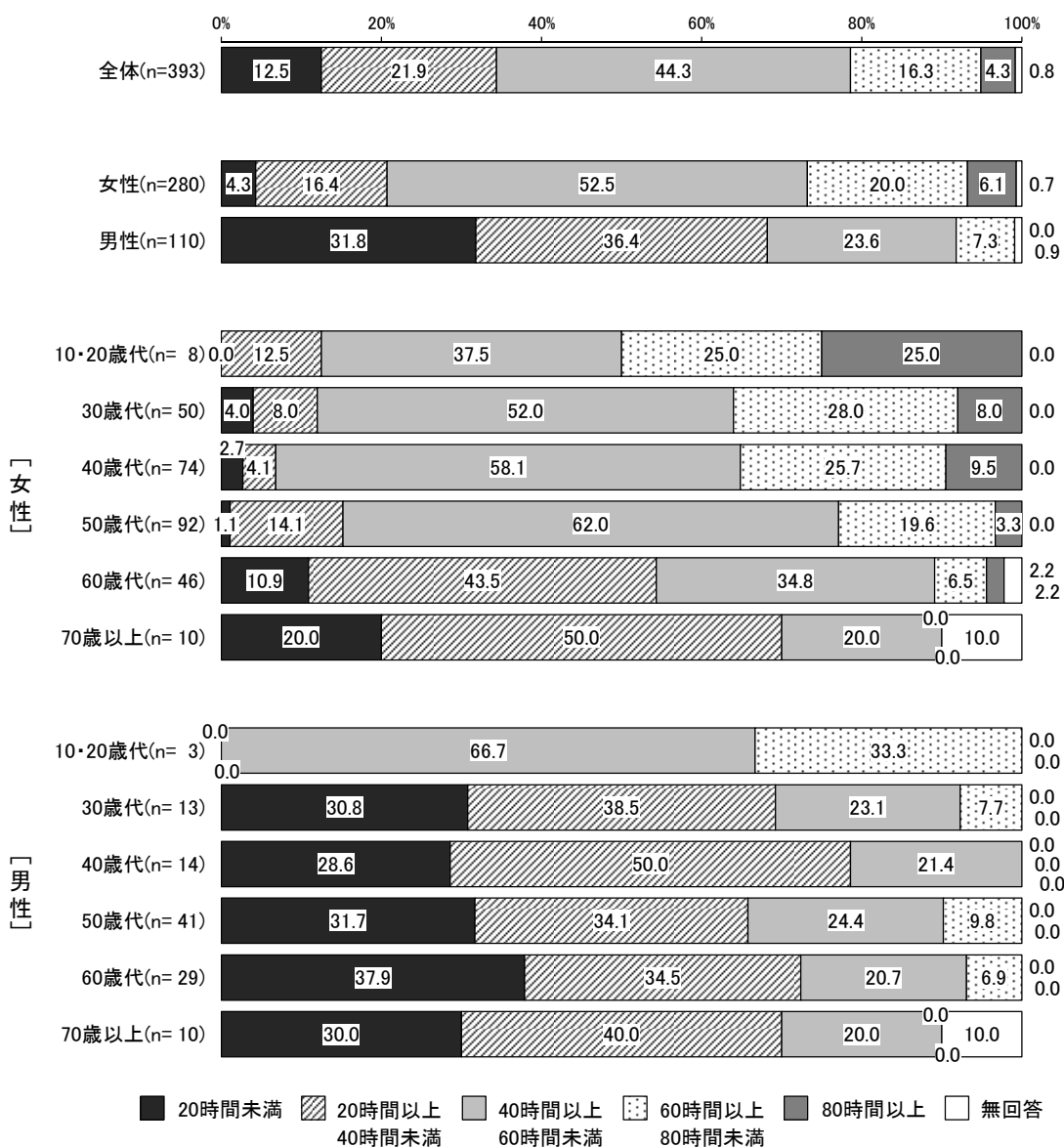
問10 あなたの配偶者・パートナーの週あたりの労働時間（残業時間を含む）は次のうちどれにあたりますか。【〇は1つ】

就業している配偶者の週あたりの労働時間は、「40時間以上60時間未満」が44.3%で最も高く、次いで「20時間以上40時間未満」が21.9%、「60時間以上80時間未満」が16.3%、「20時間未満」が12.5%となっています。

性別にみると、女性では「40時間以上60時間未満」が52.5%を占めています。男性では、「20時間以上40時間未満」が36.4%、「20時間未満」が31.8%となっています。

年齢別にみると、女性の10～50歳代ではいずれも40時間以上の合計が80%を超えています。男性は、30歳以上では「20時間未満」が約30～40%、「20時間以上40時間未満」が約30～50%となっています。

図 性別、年齢別 配偶者の週あたり労働時間



(11) 配偶者の1日あたり家事時間

問 11 あなたの配偶者・パートナーの一日あたりの家事や子育て、介護に費やす時間は平均すると次のうちどれにあたりますか。【〇は1つ】

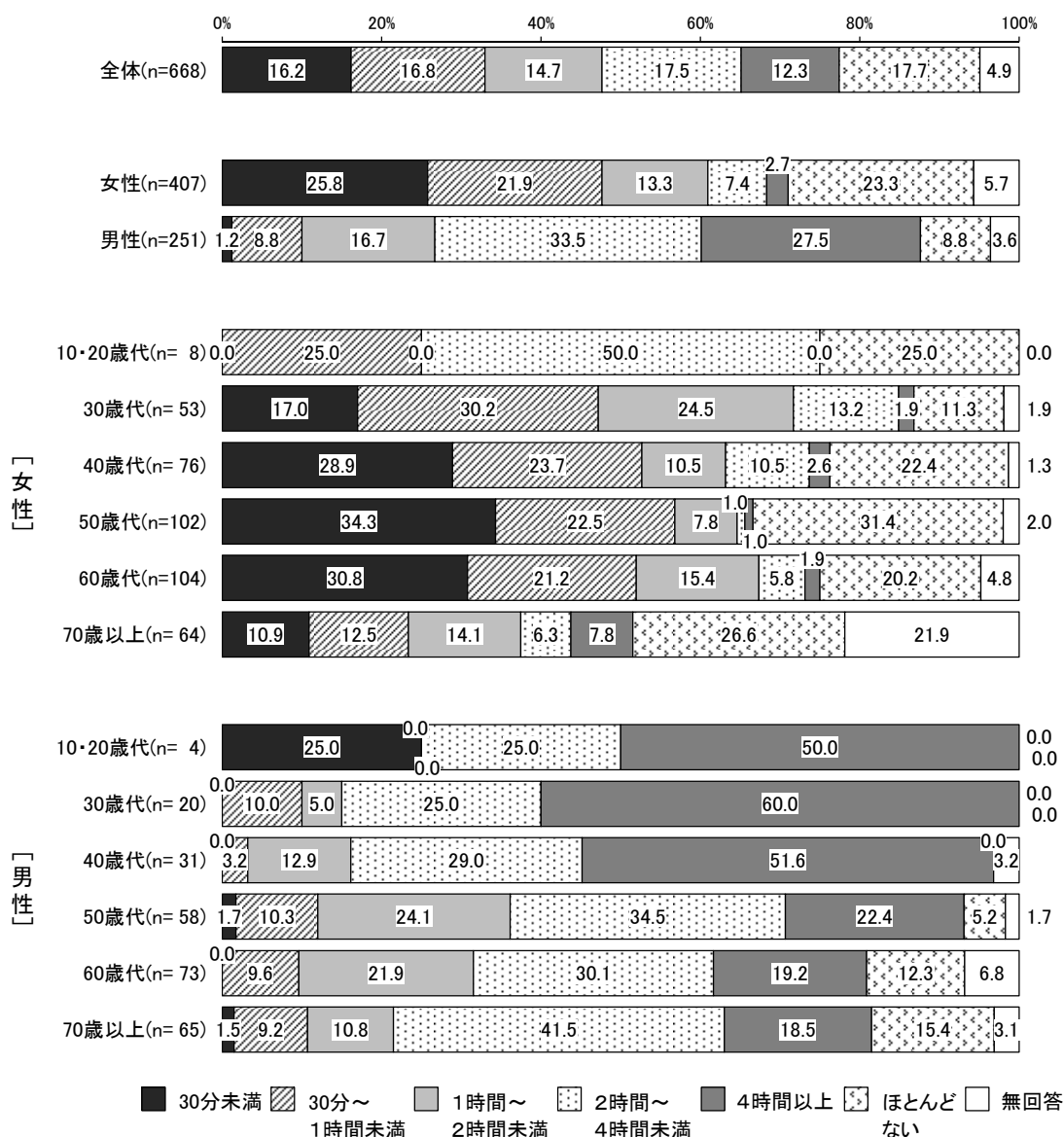
配偶者の1日あたりの家事時間をたずねたところ、「ほとんどない」が17.7%で最も高く、次いで「2時間～4時間未満」が17.5%、「30分～1時間未満」が16.8%、「30分未満」が16.2%、「1時間～2時間未満」が14.7%、「4時間以上」が12.3%となっています。

性別にみると、女性では、「30分未満」「ほとんどない」「30分～1時間未満」がいずれも20%以上となっています。男性では、「2時間～4時間未満」が33.5%、「4時間以上」が27.5%と2時間以上の合計が61.0%となっています。

年齢別にみると、女性では30歳代は「30分～1時間未満」が30.2%で最も高く、次いで「1時間～2時間未満」が24.5%となっていますが、40～60歳代では、「30分未満」が約30%、「ほとんどない」が約20～30%となっています。

男性では、10～40歳代では「4時間以上」が50%以上、50歳以上では「2時間～4時間未満」が約30～40%で最も高くなっています。

図 性別、年齢別 配偶者の1日あたり家事時間



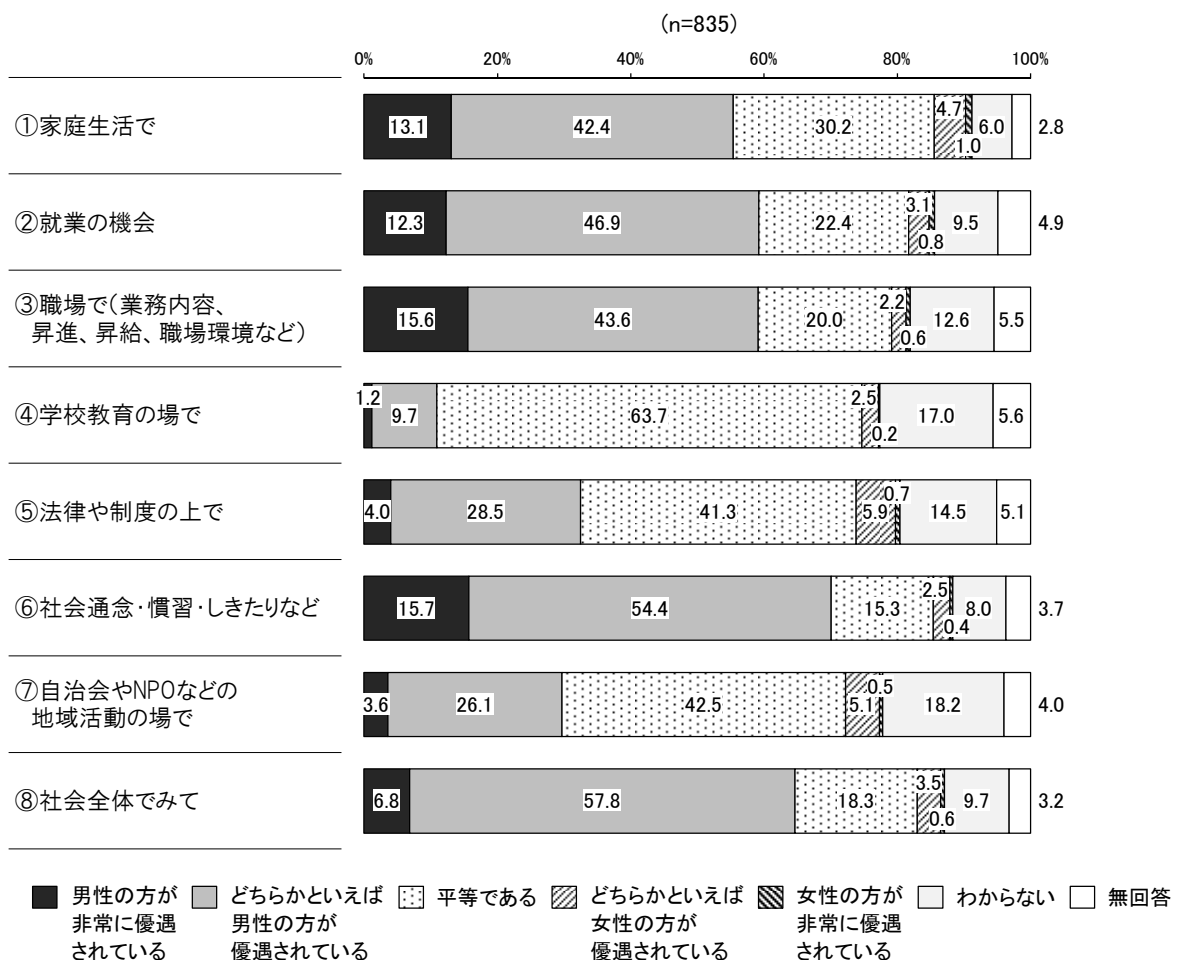
2. 男女平等に関する意識について

(1) 各分野及び社会全体における男女の地位の平等についての意識

問12 あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。各項目についてあなたのお考えに最も近いものをお答えください。【〇は各項目1つ】

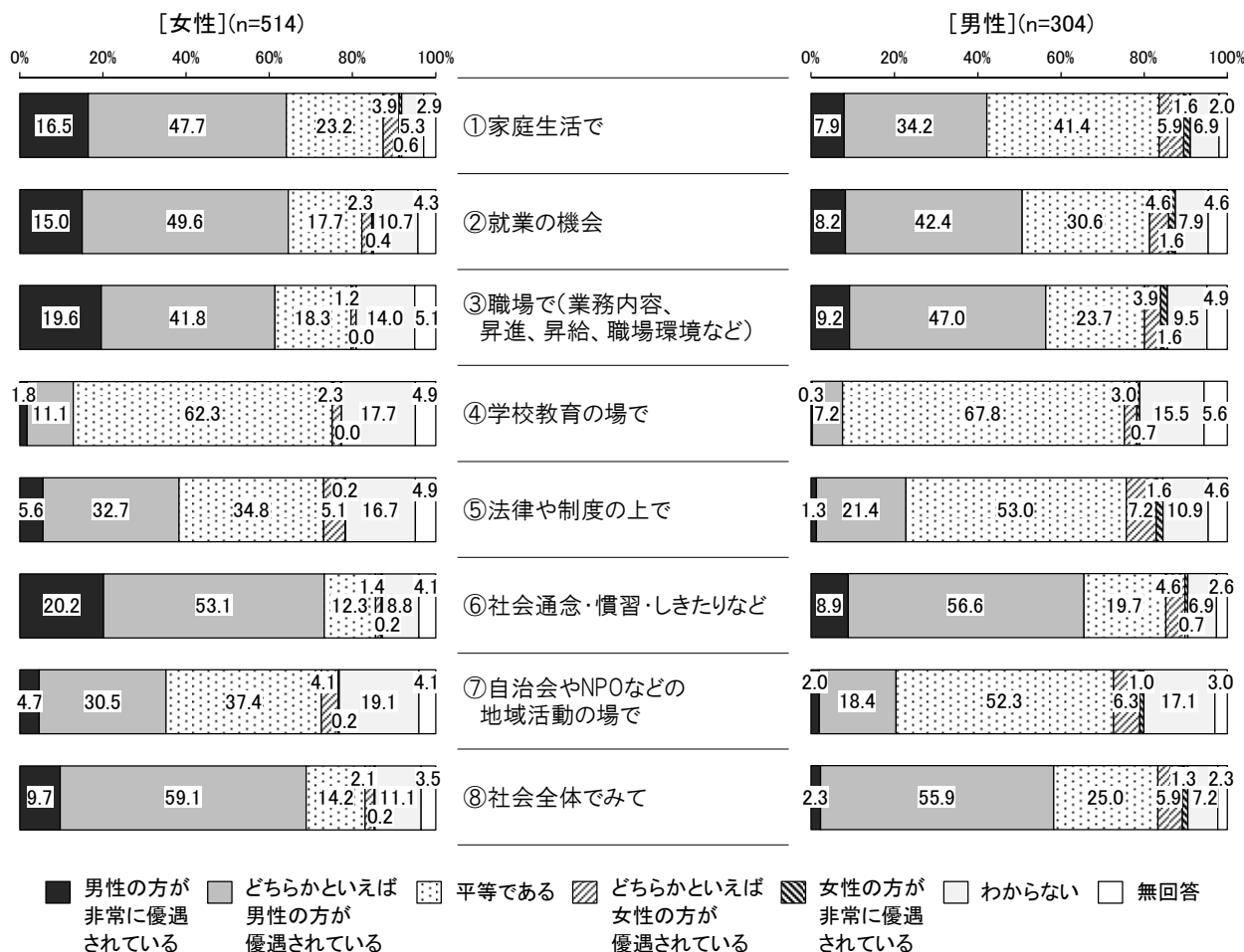
各分野及び社会全体における男女の地位の平等についての意識をたずねたところ、「④学校教育の場で」では「平等である」が63.7%と高く、また、「⑤法律や制度の上で」「⑦自治会やNPOなどの地域活動の場で」では「平等である」が40%以上となっています。一方、「①家庭生活で」「②就業の機会」「③職場で（業務内容、昇進、昇給、職場環境など）」「⑥社会通念・慣習・しきたりなど」では、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が50%を超えており、「⑧社会全体でみて」は、『男性優遇』が64.6%、「平等である」が18.3%となっています。

図 各分野及び社会全体における男女の地位の平等についての意識



性別にみると、いずれの分野でも女性は男性と比べて「平等である」の割合が低く、『男性優遇』の割合が高くなっています。なかでも、「①家庭生活で」「②就業の機会」「⑤法律や制度の上で」「⑦自治会やNPOなどの地域活動の場で」の各分野は、男性に比べて女性は『男性優遇』とする割合が約10～20ポイント高くなっています。

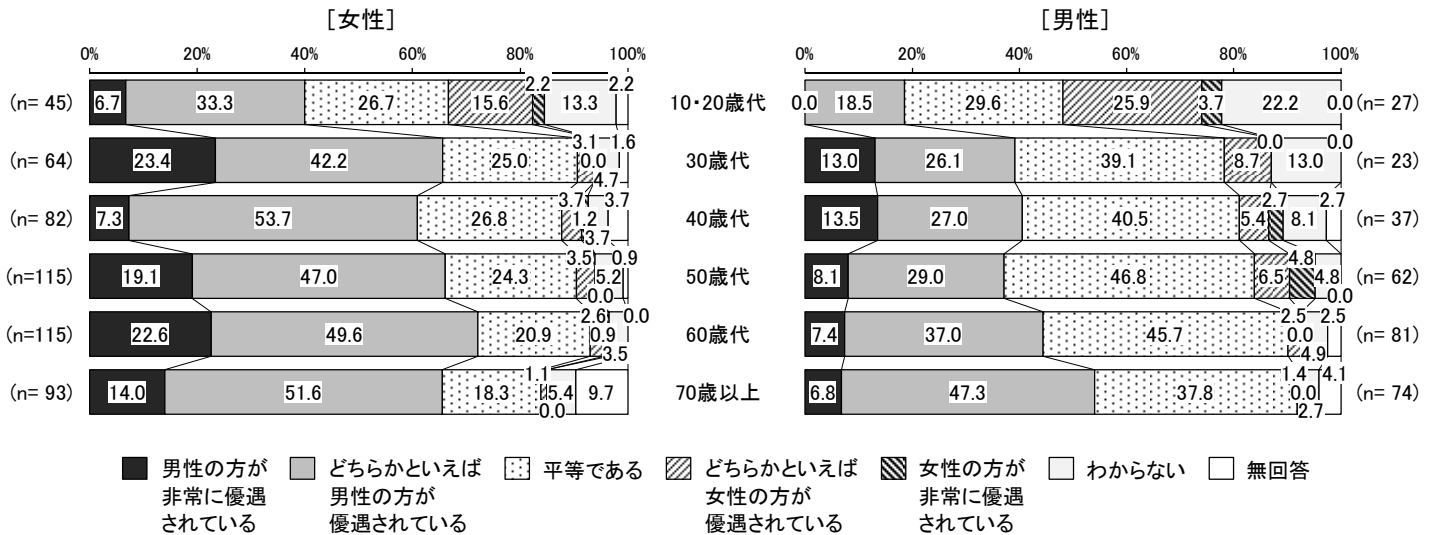
図 性別 各分野及び社会全体における男女の地位の平等についての意識



①家庭生活で

年齢別にみると、10・20歳代の男女は30歳以上と比べて『男性優遇』の割合が低く、『女性優遇』（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の合計）と「わからない」の割合が高くなっており、男性の10・20歳代では『女性優遇』が『男性優遇』よりも高くなっています。30歳以上では、女性はいずれの年代でも『男性優遇』が60%以上を占めています。男性は、『男性優遇』が30～50歳代で約40%、60歳代で44.4%、70歳以上で54.1%と、年齢が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられます。

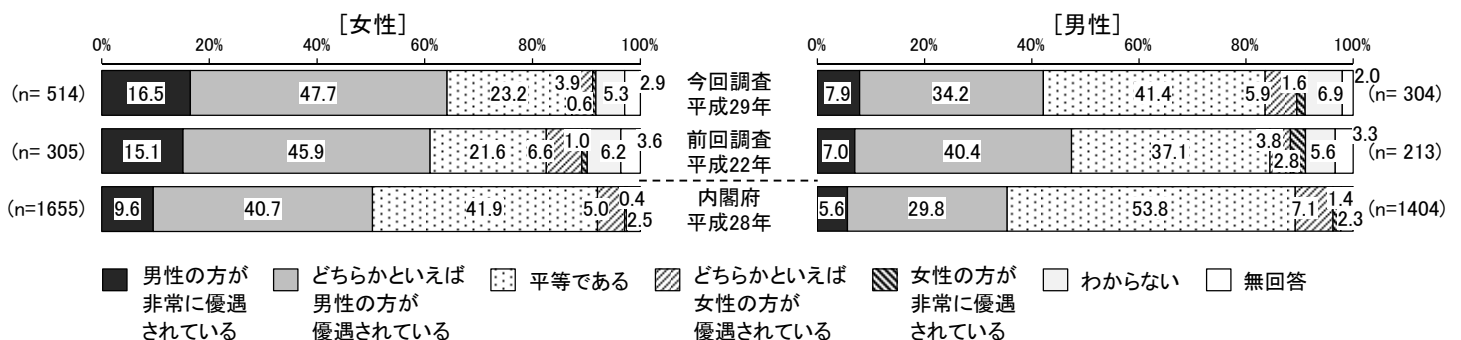
図 年齢別 家庭生活における男女の地位の平等についての意識



前回調査（平成22年）と比較すると、前回調査よりも女性は『男性優遇』が3.2ポイント高く、男性は「平等である」が4.3ポイント高くなっています。

内閣府が実施した全国調査（平成28年）と比較すると、今回調査の「平等である」の割合は女性で18.7ポイント、男性で12.4ポイント全国調査よりも低く、『男性優遇』の割合が高くなっています。

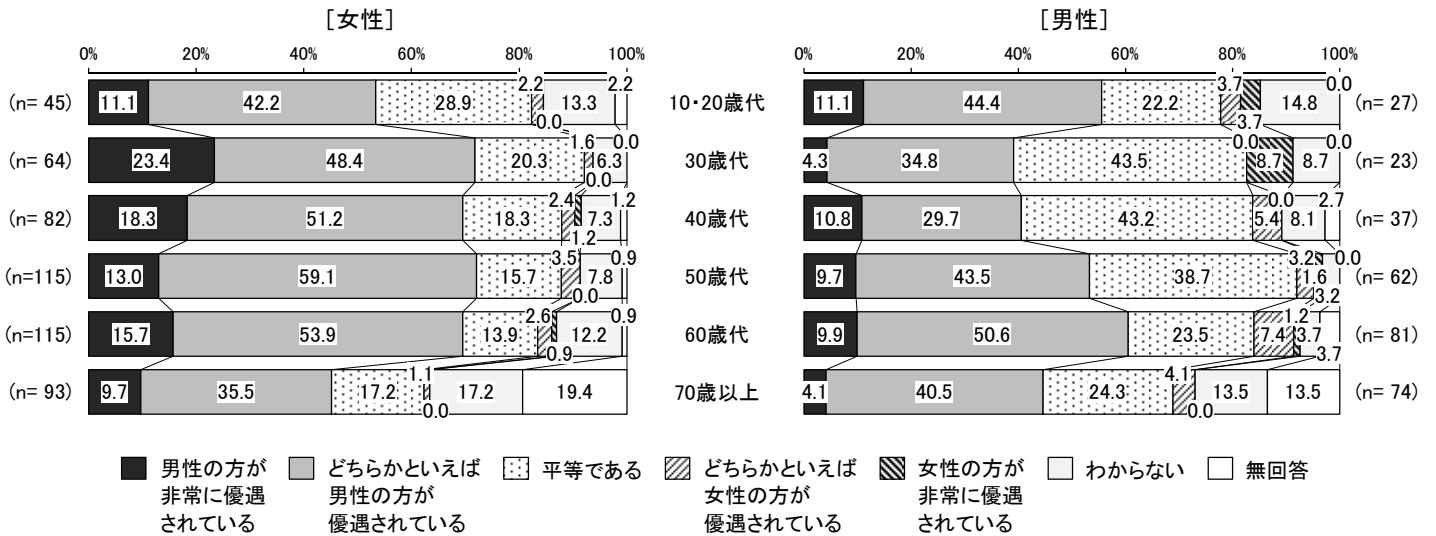
図 性別 家庭生活における男女の地位の平等についての意識 — 前回調査、全国調査との比較



②就業の機会

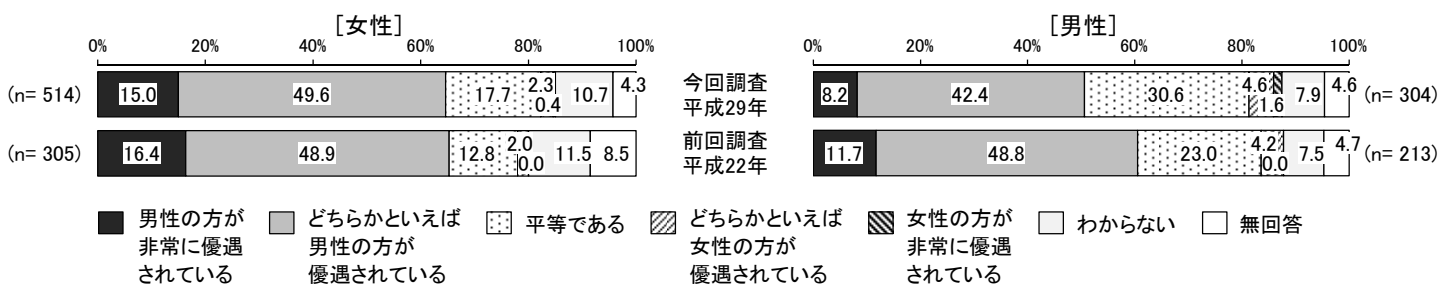
年齢別にみると、女性の30～60歳代では『男性優遇』がいずれも約70%と高くなっています。男性では、10・20歳代と50歳代、60歳代で『男性優遇』が50%以上となっています。

図 年齢別 就業の機会における男女の地位の平等についての意識



前回調査（平成22年）と比較すると、女性では、『男性優遇』の割合に違いはみられないものの、「平等である」の割合は前回調査よりも4.9ポイント高くなっています。男性では、前回調査より『男性優遇』が9.9ポイント低く、「平等である」が7.6ポイント高くなっています。

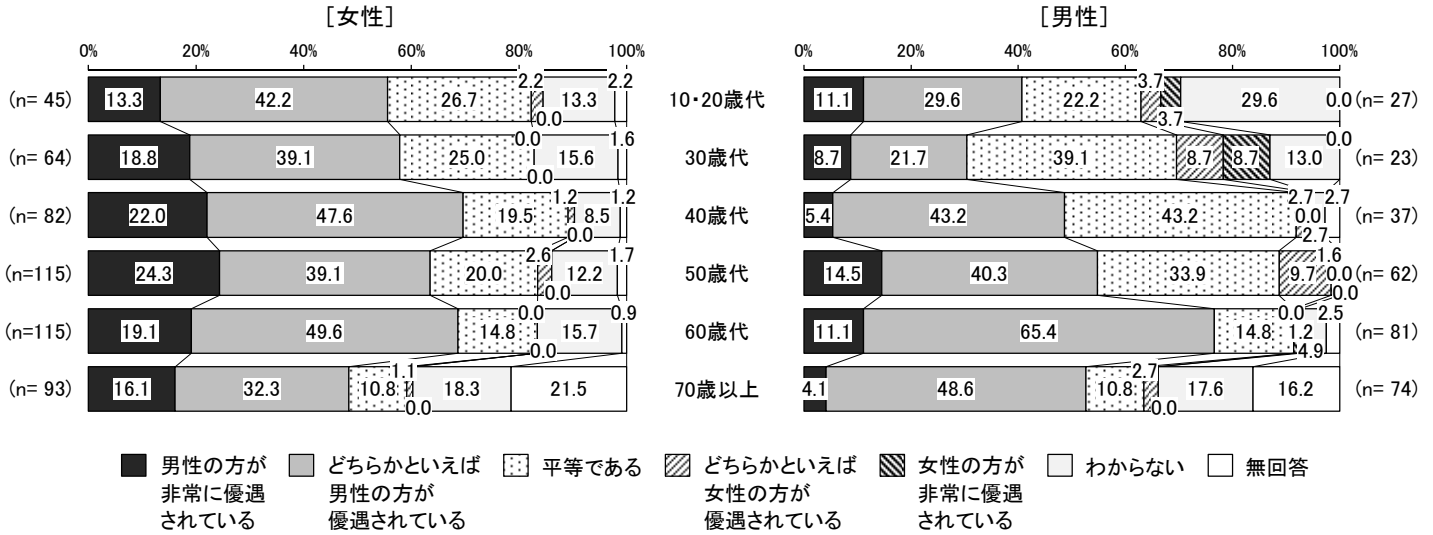
図 性別 就業の機会における男女の地位の平等についての意識 — 前回調査との比較



③職場で(業務内容、昇進、昇給、職場環境など)

年齢別にみると、女性は、『男性優遇』が10～30歳代で50%以上、40～60歳代で60%以上といずれの年代でも高くなっています。男性は、『男性優遇』が10・20歳代で40.7%、30歳代で30.4%と比較的低くなっていますが、60歳代では76.5%と高くなっています。

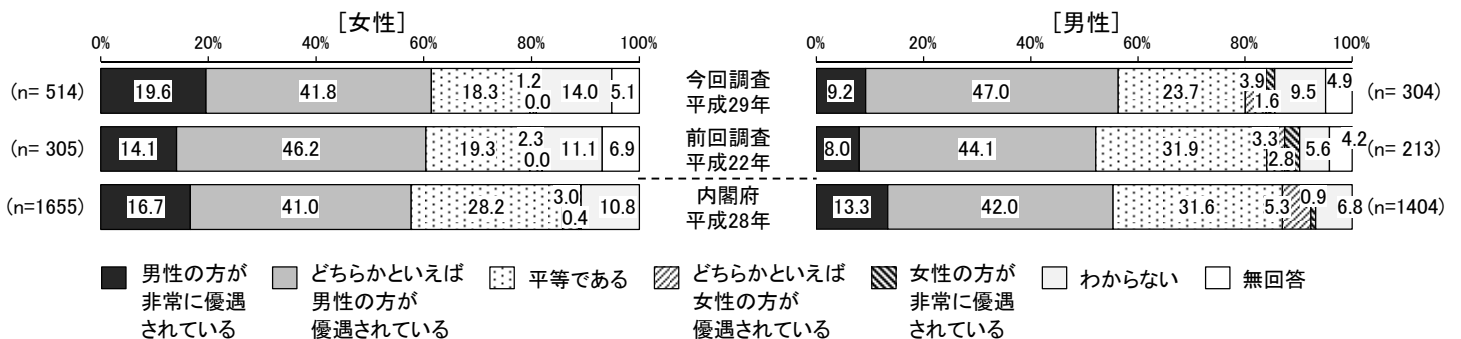
図 年齢別 職場における男女の地位の平等についての意識



前回調査(平成22年)と比較すると、女性では『男性優遇』の割合に違いはみられませんが、「男性の方が非常に優遇されている」の割合は今回調査19.6%・前回調査14.1%で、今回調査が5.5ポイント高くなっています。男性では、前回調査より「平等である」が8.2ポイント低く、『男性優遇』が4.1ポイント高くなっています。

全国調査(平成28年)と比較すると、今回調査の「平等である」の割合は女性で9.9ポイント、男性で7.9ポイント全国調査よりも低くなっています。

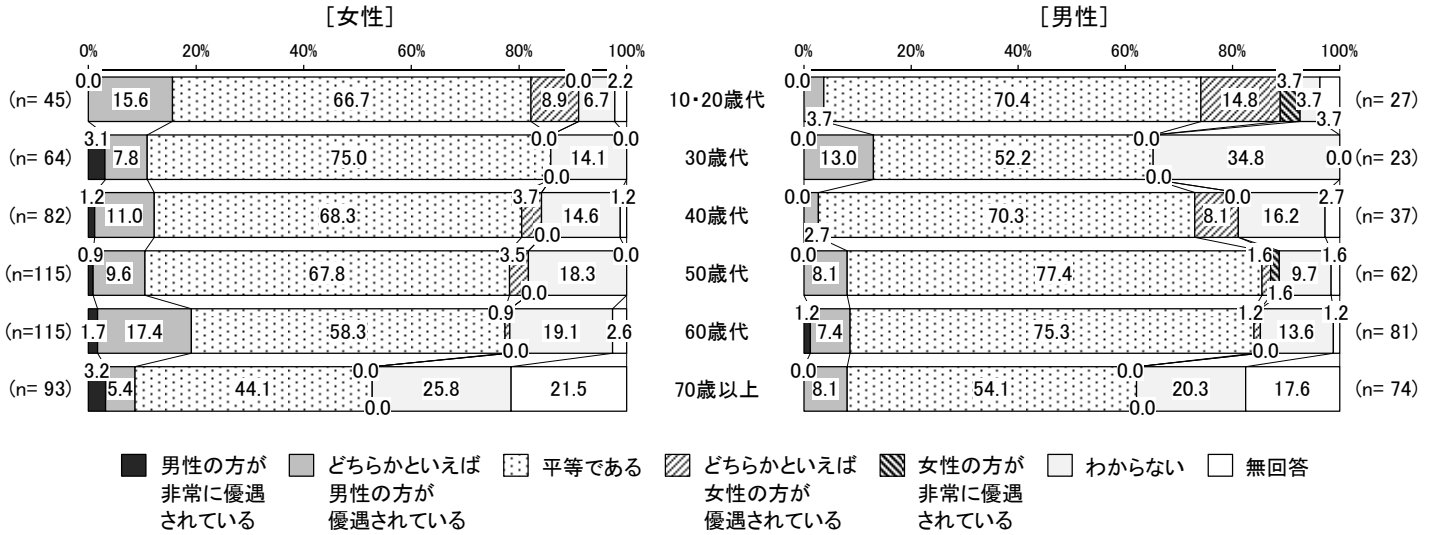
図 性別 職場における男女の地位の平等についての意識 - 前回調査、全国調査との比較



④学校教育の場で

年齢別にみると、10～60歳代の男女ではいずれも「平等である」が50%以上を占めていますが、女性の10・20歳代と60歳代では『男性優遇』、男性の10・20歳代では『女性優遇』が15%を超えています。

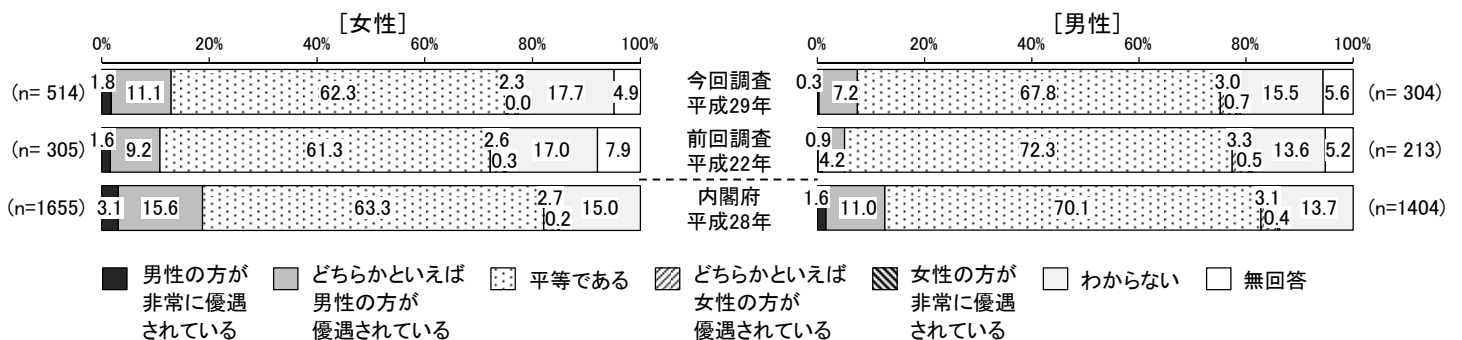
図 年齢別 学校教育の場における男女の地位の平等についての意識



前回調査（平成22年）と比較すると、今回調査は男女ともに前回調査よりも『男性優遇』の割合がわずかに高くなっています。

全国調査（平成28年）と比較すると、今回調査の『男性優遇』の割合は女性で5.8ポイント、男性で5.1ポイント全国調査よりも低くなっています。

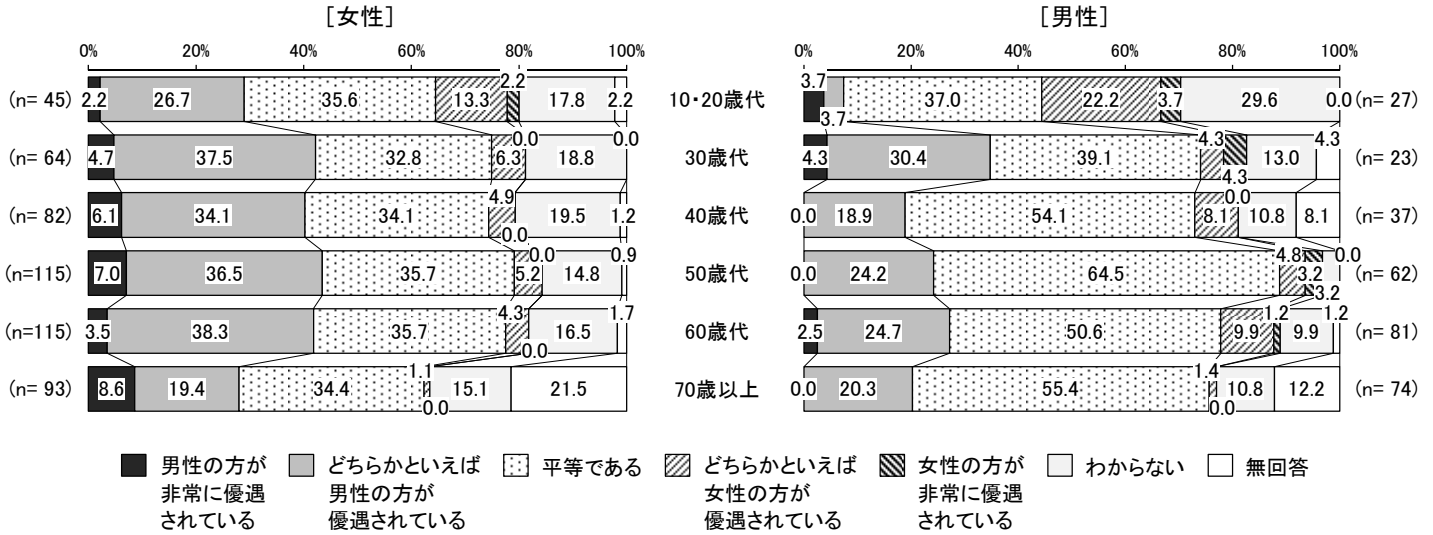
図 性別 学校教育の場における男女の地位の平等についての意識 — 前回調査、全国調査との比較



⑤法律や制度の上で

年齢別にみると、女性の30～60歳代では『男性優遇』が40%以上となっています。男性では、10・20歳代では『女性優遇』が25.9%、30歳以上の年代では、『男性優遇』が約20～30%となっています。

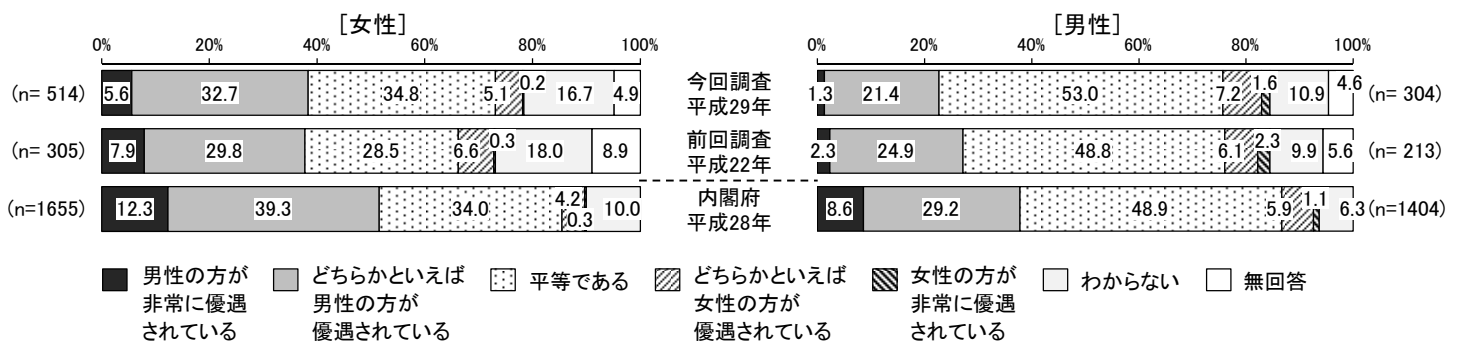
図 年齢別 法律や制度における男女の地位の平等についての意識



前回調査（平成22年）と比較すると、今回調査は前回調査よりも『平等である』の割合が女性で6.3ポイント、男性で4.2ポイント高くなっています。

全国調査（平成28年）と比較すると、女性は全国調査よりも『男性優遇』が13.3ポイント低く、「わからない」が6.7ポイント高くなっています。男性は全国調査よりも『男性優遇』が15.1ポイント低く、「平等である」が4.1ポイント高くなっています。

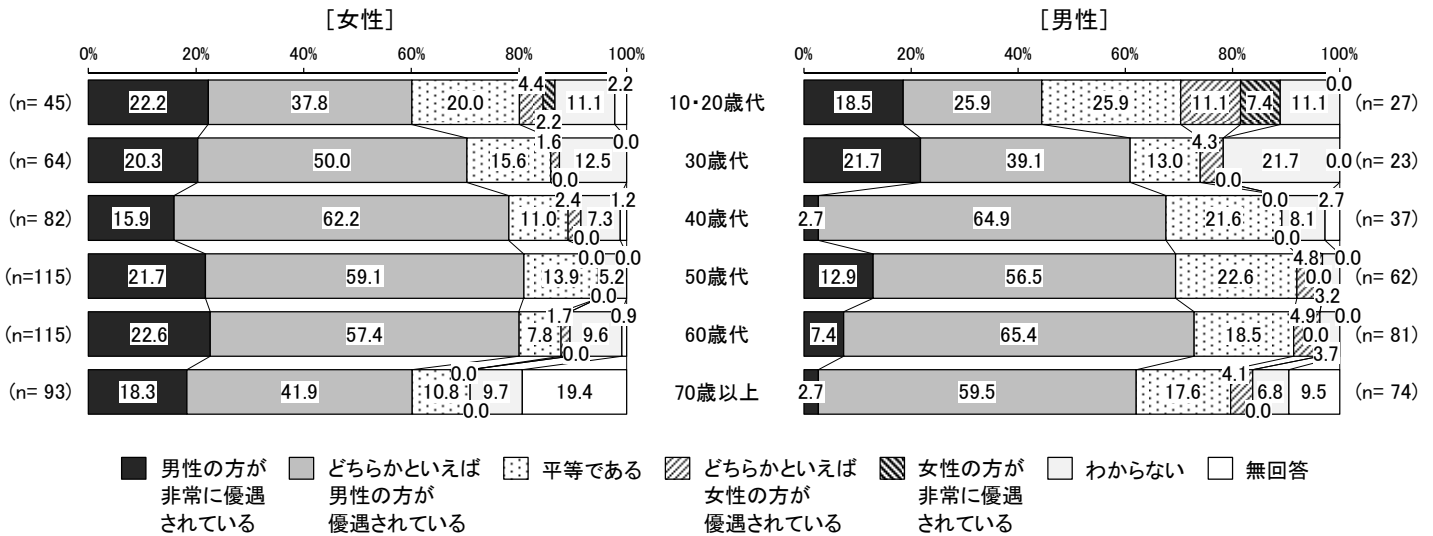
図 性別 法律や制度における男女の地位の平等についての意識 — 前回調査、全国調査との比較



⑥社会通念・慣習・しきたりなど

年齢別にみると、女性の30～60歳代では、『男性優遇』が約70～80%と高くなっています。男性では、30歳以上の年代で『男性優遇』が約60～70%となっています。

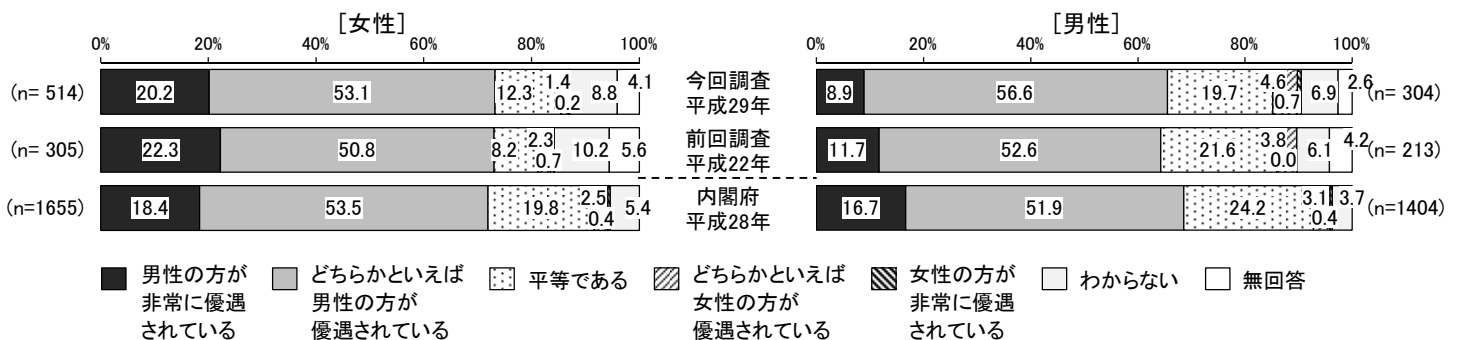
図 年齢別 社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の地位の平等についての意識



前回調査（平成22年）と比較すると、『男性優遇』の割合は今回調査で女性73.3%・男性65.5%、前回調査で女性73.1%・男性64.3%と、ほぼ同じ割合となっています。

全国調査（平成28年）と比較すると、女性は全国調査よりも「平等である」が7.5ポイント低くなっています。男性は全国調査よりも「男性の方が非常に優遇されている」の割合が7.8ポイント低くなっています。

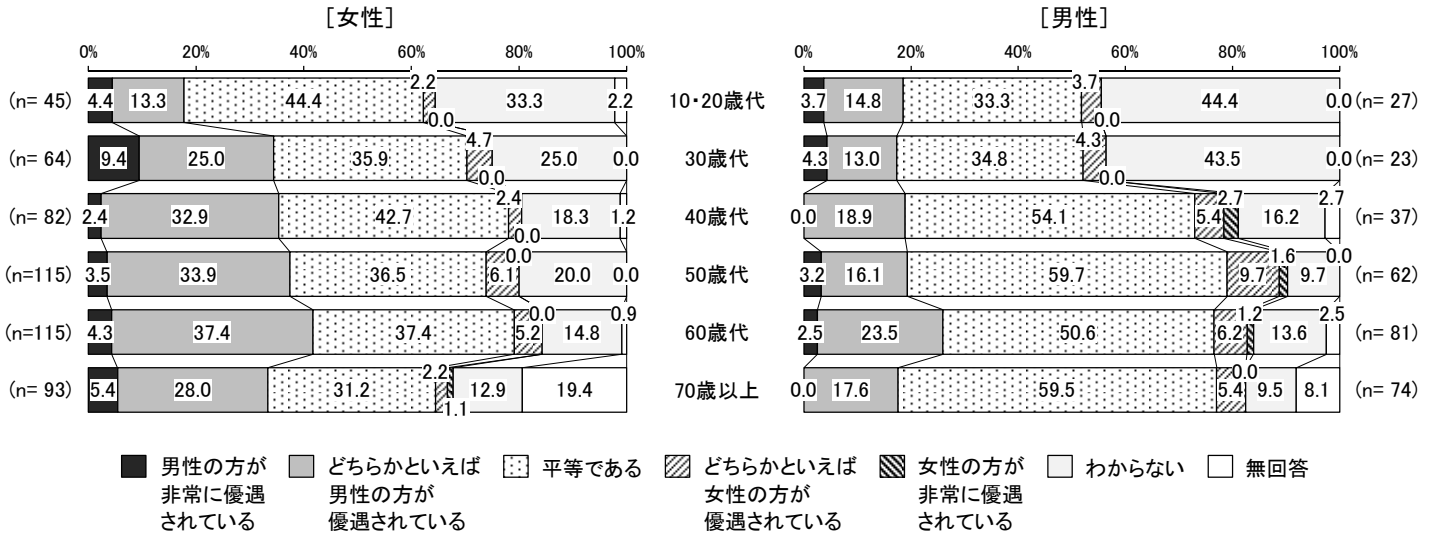
図 性別 社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の地位の平等についての意識 — 前回調査、全国調査との比較



⑦自治会やNPOなどの地域活動の場で

年齢別にみると、10～30歳代の男女では「わからない」の割合が比較的高く、女性の10・20歳代では約30%、男性の10・20歳代と30歳代では約40%となっています。40歳以上の年代では、女性は『男性優遇』と「平等である」がそれぞれ30%以上、男性では「平等である」が50%以上となっています。

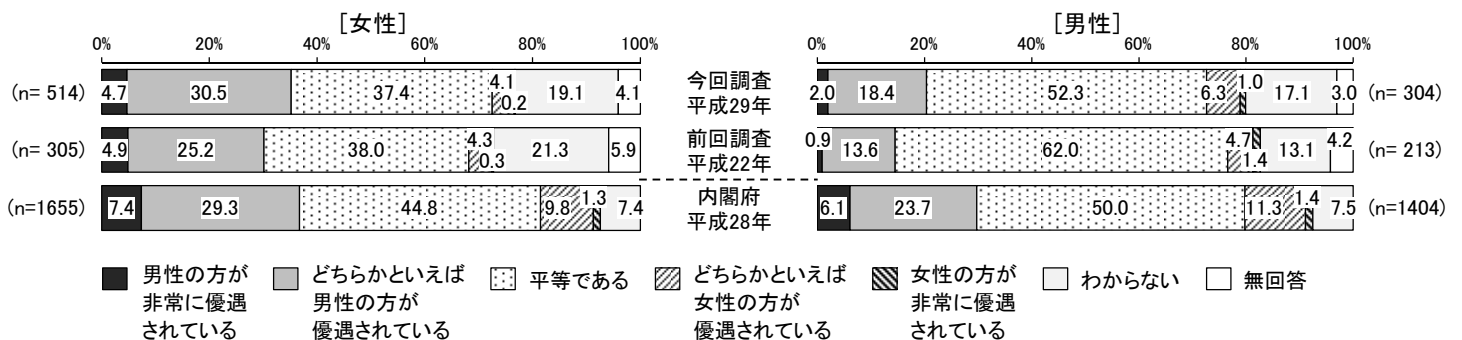
図 年齢別 地域活動の場における男女の地位の平等についての意識



前回調査（平成22年）と比較すると、今回調査は前回調査よりも『男性優遇』の割合が女性で5.1ポイント、男性で5.9ポイント高くなっています。

全国調査（平成28年）と比較すると、今回調査は全国調査よりも「わからない」が占める割合が高いものの、男性では全国調査よりも「平等である」の割合が高くなっています。

図 性別 地域活動の場における男女の地位の平等についての意識 — 前回調査、全国調査との比較

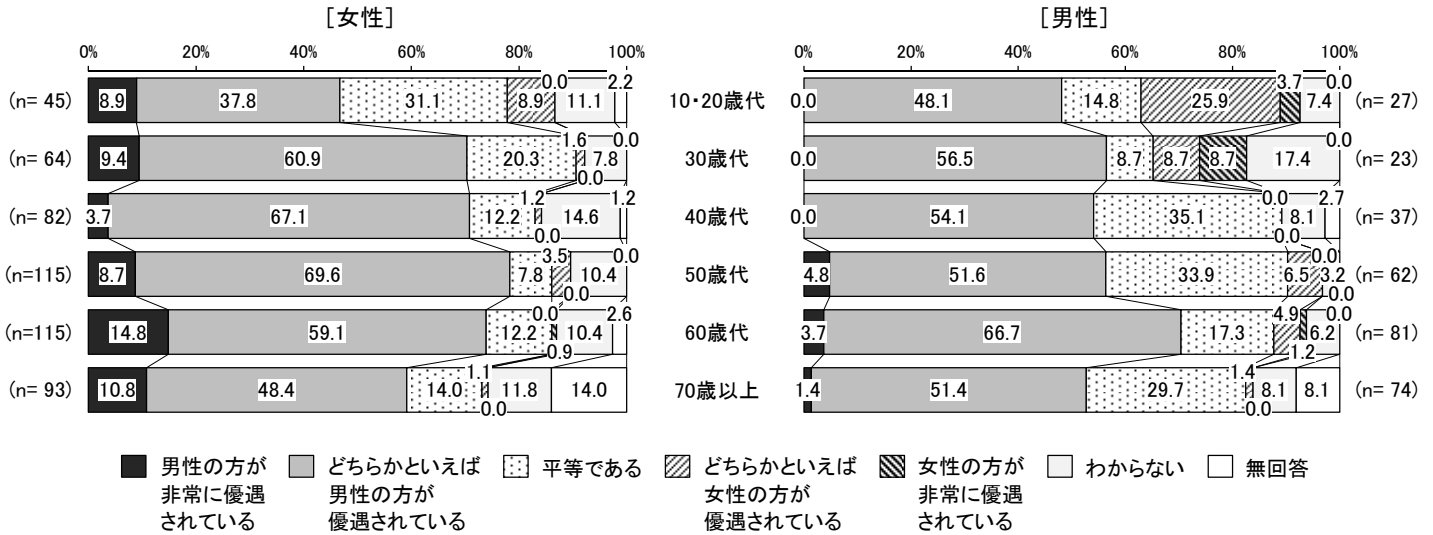


注) 全国調査の項目は「自治会やPTAなどの地域活動の場」

⑧社会全体でみて

年齢別にみると、10・20歳代は女性では「平等である」が31.1%、男性では『女性優遇』が29.6%となっており、他の年代よりも『男性優遇』の割合が低くなっています。30～50歳代は、『男性優遇』が女性では約70～80%、男性では50%台となっています。60歳代は『男性優遇』が男女ともに約70%、70歳以上の男女では50%台となっています。

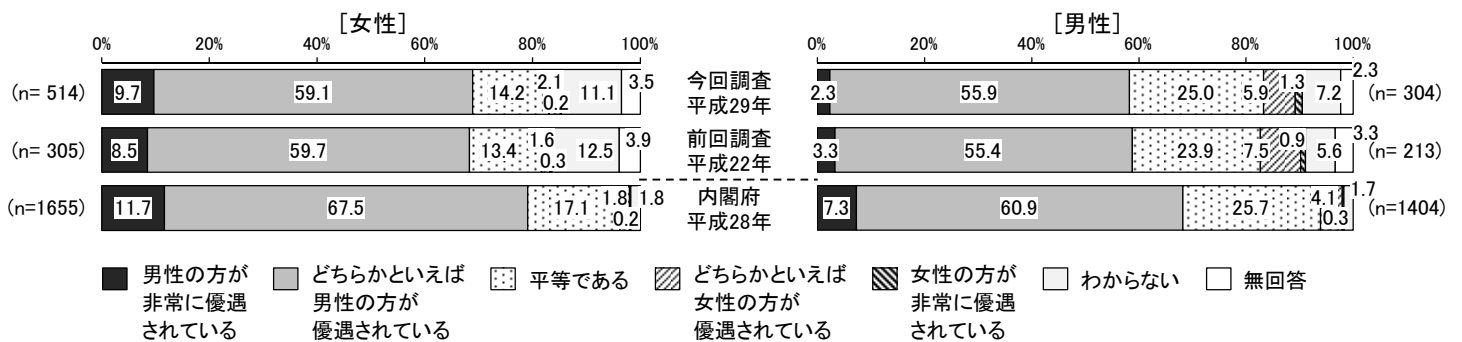
図 年齢別 社会全体における男女の地位の平等についての意識



前回調査（平成22年）と比較すると、今回調査・前回調査ともに、『男性優遇』が女性では68%台、男性では58%台となっており、回答傾向に大きな違いはみられません。

全国調査（平成28年）と比較すると、女性では全国調査よりも「わからない」の割合が高く、『男性優遇』と「平等である」がともに低くなっています。男性では、全国調査よりも『女性優遇』と「わからない」の割合が高く、『男性優遇』が低くなっており、「平等である」は全国調査と同じ25%台となっています。

図 性別 社会全体における男女の地位の平等についての意識 — 前回調査、全国調査との比較

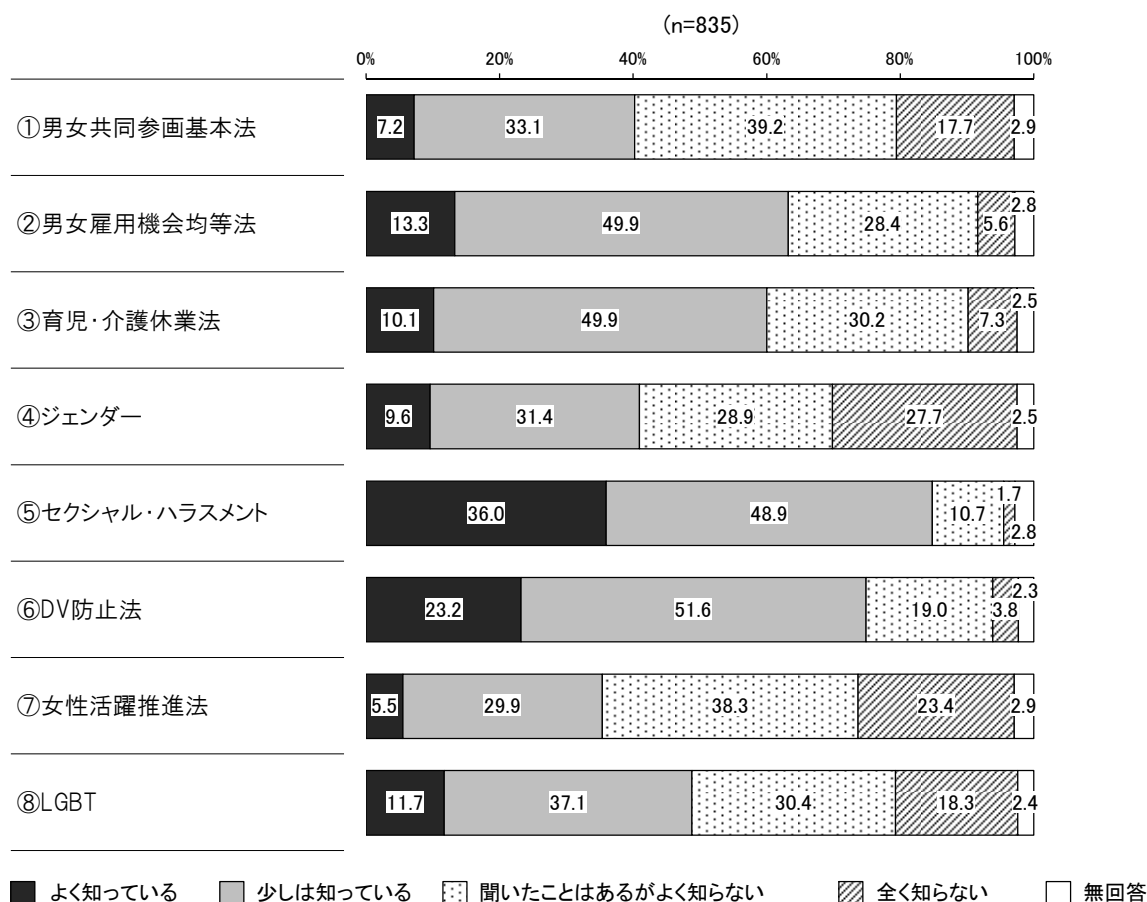


(2) 男女共同参画に関連した用語の認知度

問13 あなたは、次の言葉や法律を知っていますか。各項目についてあてはまるものをお答えください。【〇は各項目1つ】

男女共同参画に関連した用語の認知度についてたずねたところ、『知っている』（「よく知っている」と「少しは知っている」の合計）の割合が高い順に、「⑤セクシャル・ハラスメント」（84.9%）、「⑥DV防止法」（74.8%）、「②男女雇用機会均等法」（63.2%）、「③育児・介護休業法」（60.0%）となっています。一方、「①男女共同参画基本法」「④ジェンダー」「⑦女性活躍推進法」では『知らない』（「聞いたことはあるがよく知らない」と「全く知らない」の合計）が50%を超えています。

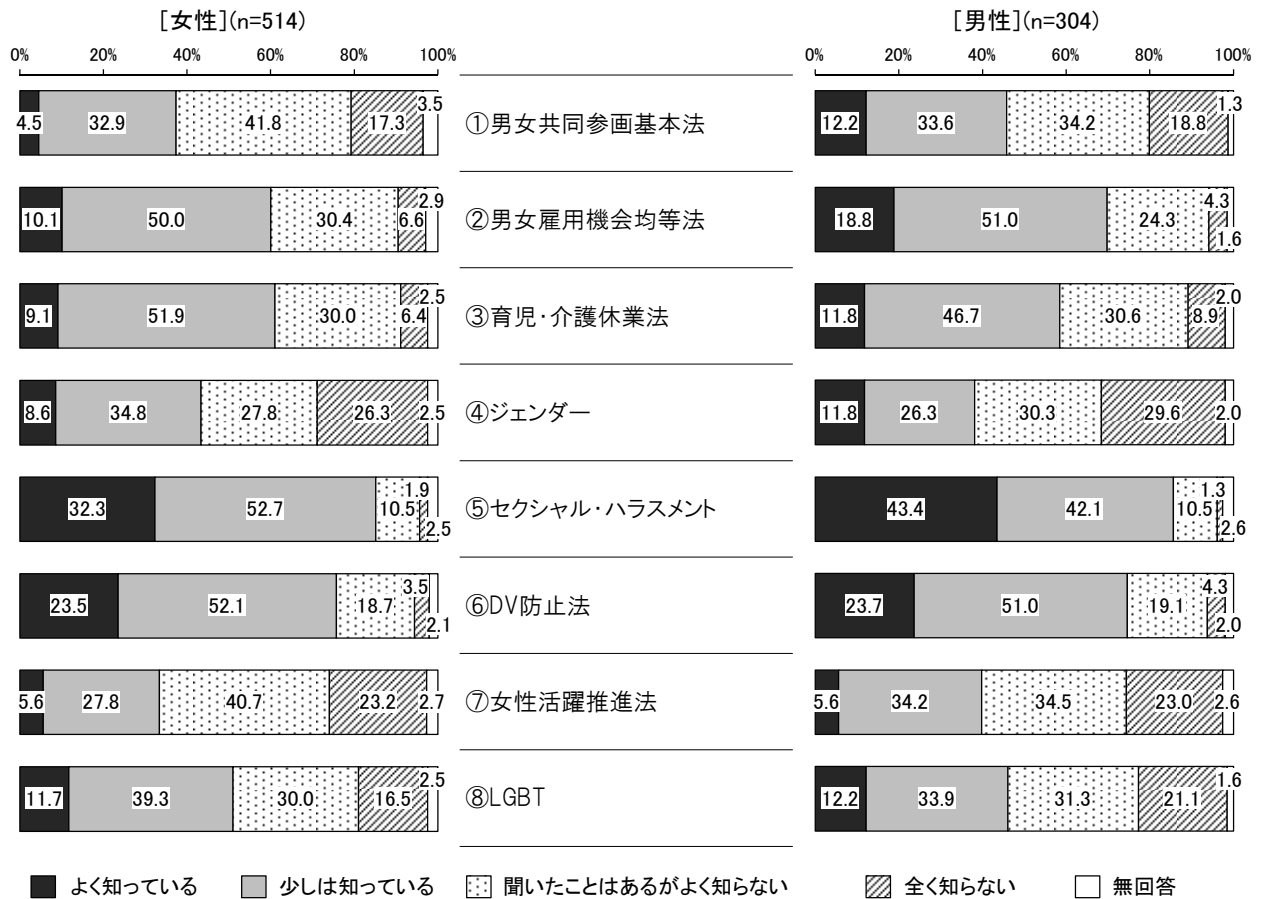
図 男女共同参画に関連した用語の認知度



注) 男女雇用機会均等法 …… 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律
 育児・介護休業法 …… 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律
 ジェンダー …… 社会的・文化的な性
 DV防止法 …… 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律
 女性活躍推進法 …… 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律
 LGBT …… レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(出生時に診断された性と、自認する性の不一致)の頭文字をとった総称

性別にみると、「①男女共同参画基本法」と「②男女雇用機会均等法」の『知っている』の割合は男性の方が女性よりも約10ポイント高くなっています。また、「⑤セクシャル・ハラスメント」は男性で「よく知っている」が43.4%と高くなっています。「④ジェンダー」と「⑧LGBT」の「知っている」の割合は女性の方が男性よりも約5ポイント高くなっています。

図 性別 男女共同参画に関連した用語の認知度



年齢別に『知っている』の割合をみると、女性の10～30歳代では「④ジェンダー」、「⑧LGBT」が約60～70%と他の年代よりも高くなっています。女性の30・40歳代では、「②男女雇用機会均等法」「③育児・介護休業法」が約70～80%となっています。男性の50歳代と70歳以上は「①男女共同参画基本法」「②男女雇用機会均等法」「⑦女性活躍推進法」など法律に関連した用語の認知度が他の年代よりも高い傾向がみられます。

表 年齢別 男女共同参画に関連した用語の認知度

－ 『知っている』(「よく知っている」と「少しは知っている」の合計)の割合

	回答者数(n)	①男女共同参画基本法	②男女雇用機会均等法	③育児・介護休業法	④ジェンダー	⑤セクシャル・ハラスメント	⑥DV防止法	⑦女性活躍推進法	⑧LGBT	
全体	835	40.3	63.2	60.0	41.0	84.9	74.8	35.4	48.8	
女性	10・20歳代	45	62.2	64.5	62.2	57.8	91.1	80.0	33.3	64.4
	30歳代	64	26.5	68.8	82.8	64.0	92.2	82.8	43.8	67.2
	40歳代	82	32.9	78.1	74.4	45.1	92.7	87.8	39.0	53.6
	50歳代	115	34.7	65.2	58.3	47.8	91.3	80.0	32.2	48.7
	60歳代	115	40.0	51.3	56.6	35.6	80.9	72.2	27.8	46.9
	70歳以上	93	36.6	40.9	43.0	24.7	67.8	57.0	30.1	38.7
	男性	10・20歳代	27	51.8	48.1	33.3	55.5	92.6	70.3	25.9
30歳代		23	30.4	60.9	60.9	43.5	87.0	69.5	43.4	43.5
40歳代		37	37.8	73.0	62.2	40.5	91.8	83.8	45.9	51.3
50歳代		62	56.4	82.3	67.8	46.8	93.6	85.5	46.8	54.8
60歳代		81	37.0	63.0	53.0	34.6	81.4	67.9	28.4	45.7
70歳以上		74	52.7	75.7	63.5	25.7	77.0	71.6	47.3	39.2

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示します。

3. 家庭や地域での役割分担について

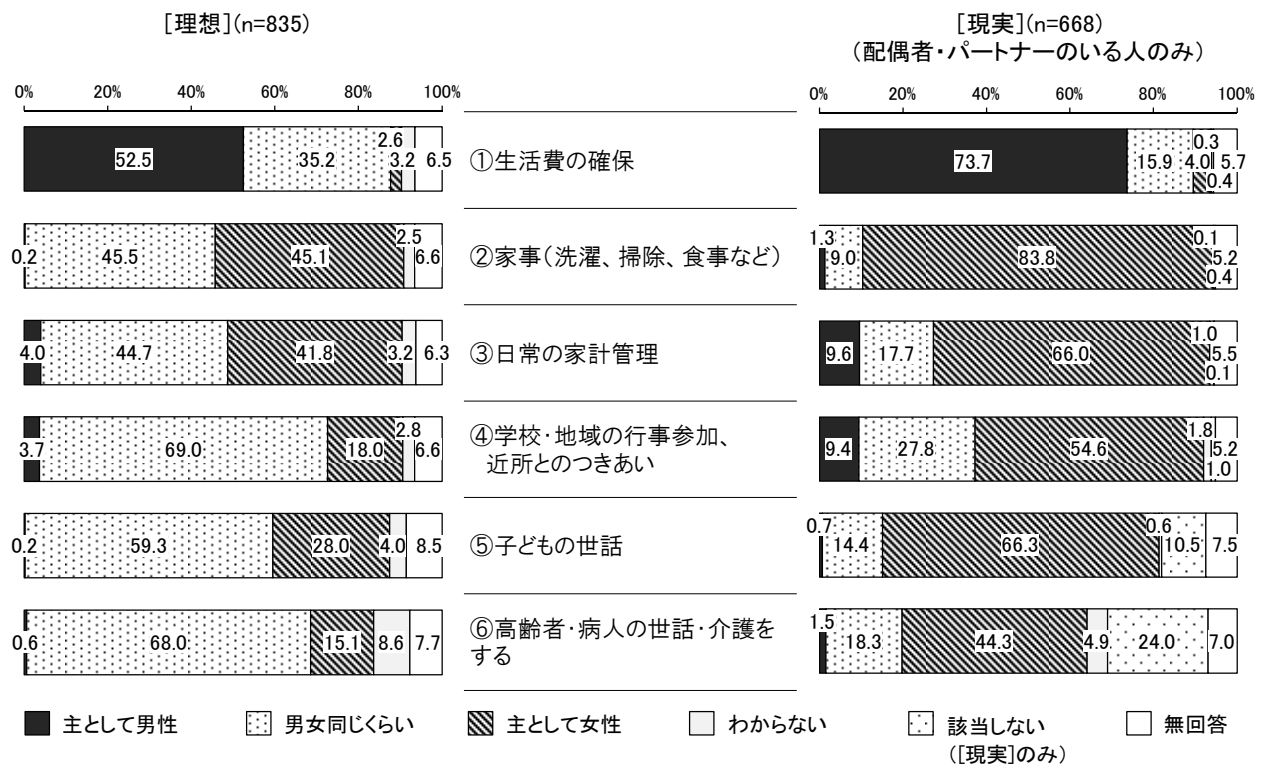
(1) 家庭での役割分担についての希望と現実

問14 家庭や地域での役割分担について、次のどれにあてはまりますか。【(1) 希望の生活、(2) 現実の生活で、①～⑥のそれぞれについて、○は各項目1つ】

家庭での役割分担についての希望の生活をたずねたところ、「①生活費の確保」では、「主として男性」が52.5%、「②家事（洗濯、掃除、食事など）」と「③日常の家計管理」では、「主として女性」それぞれ45.1%、41.8%となっており、「男女同じくらい」は50%未満となっています。また、「④学校・地域の行事参加、近所とのつきあい」「⑤子どもの世話」「⑥高齢者・病人の世話・介護をする」では「男女同じくらい」が約60～70%を占め、「主として女性」は約15～30%となっています。

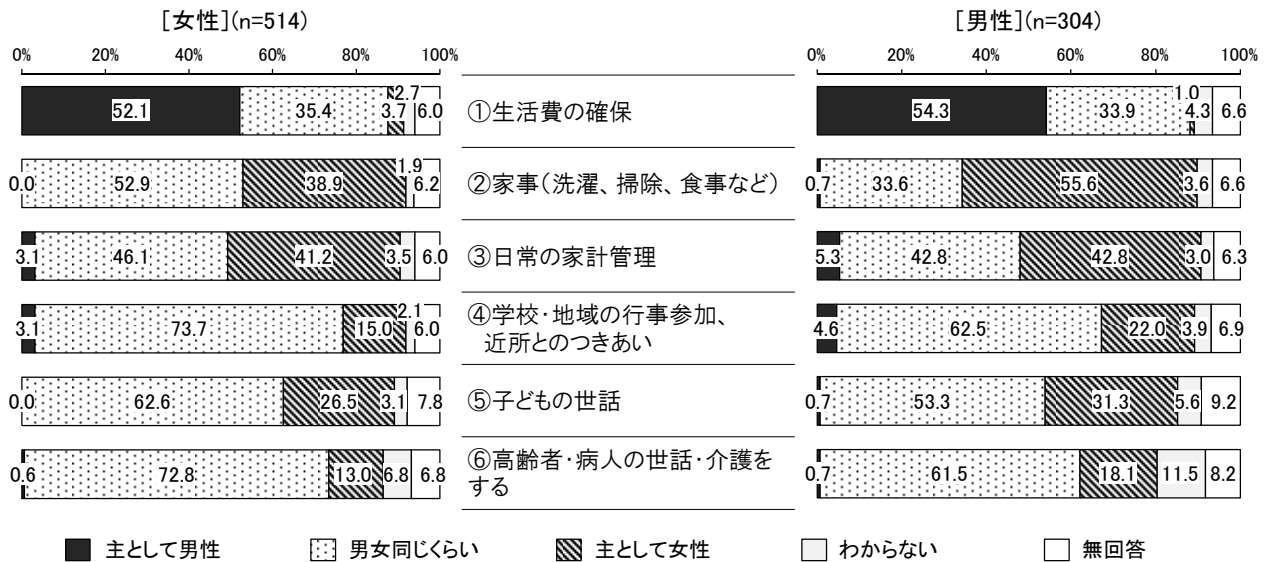
配偶者・パートナーのいる人に現実の生活をたずねたところ、「①生活費の確保」では「主として男性」が73.7%、「②家事（洗濯、掃除、食事など）」「③日常の家計管理」「④学校・地域の行事参加、近所とのつきあい」「⑤子どもの世話」では「主として女性」が50%以上となっています。現実の生活は、すべての項目で「男女同じくらい」が理想より低くなっており、特に「④学校・地域の行事参加、近所とのつきあい」「⑤子どもの世話」「⑥高齢者・病人の世話・介護をする」では40ポイント以上の差がみられます。

図 家庭での役割分担についての希望と現実の生活



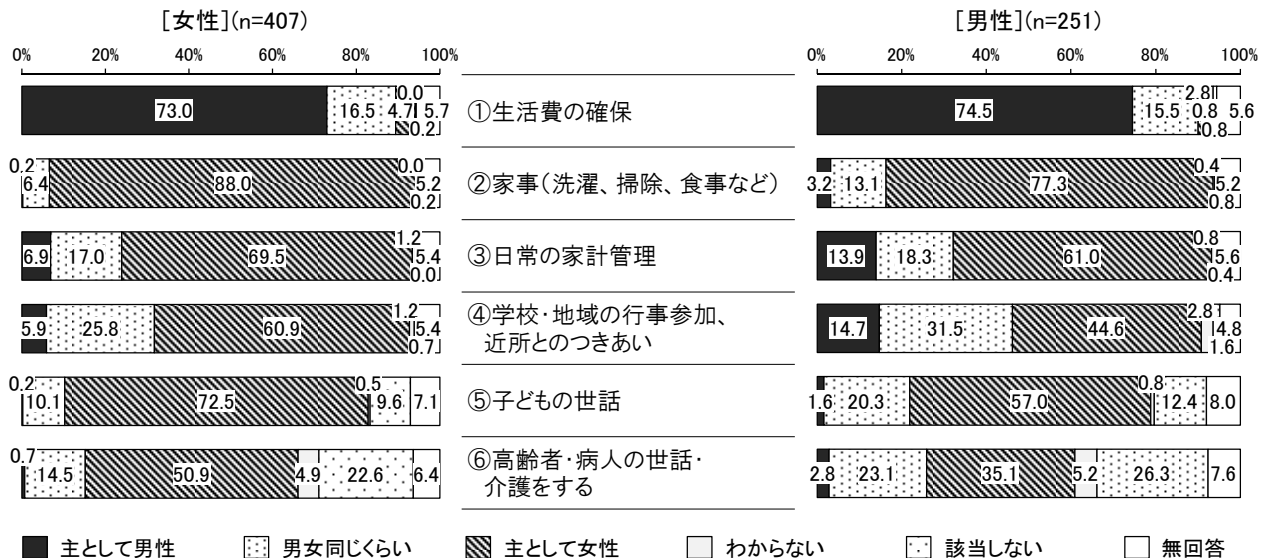
希望の生活を性別にみると、「①生活費の確保」は男女ともに「主として男性」が50%台、「男女同じくらい」が30%台となっています。「②家事（洗濯、掃除、食事など）」は、女性では「男女同じくらい」が52.9%を占め「主として女性」は38.9%となっていますが、男性では「主として女性」が55.6%と高く、「男女同じくらい」は33.6%となっています。また、「④学校・地域の行事参加、近所とのつきあい」「⑤子どもの世話」「⑥高齢者・病人の世話・介護をする」でも男性は女性と比べて「男女同じくらい」の割合が低く、「主として女性」の割合が高くなっています。

図 性別 家庭での役割分担についての希望の生活



配偶者・パートナーのいる人の現実の生活を性別にみると、「①生活費の確保」以外の分野ではいずれも女性の方が男性よりも約10~15ポイント「主として女性」の割合が高くなっています。

図 性別 家庭での役割分担についての現実の生活



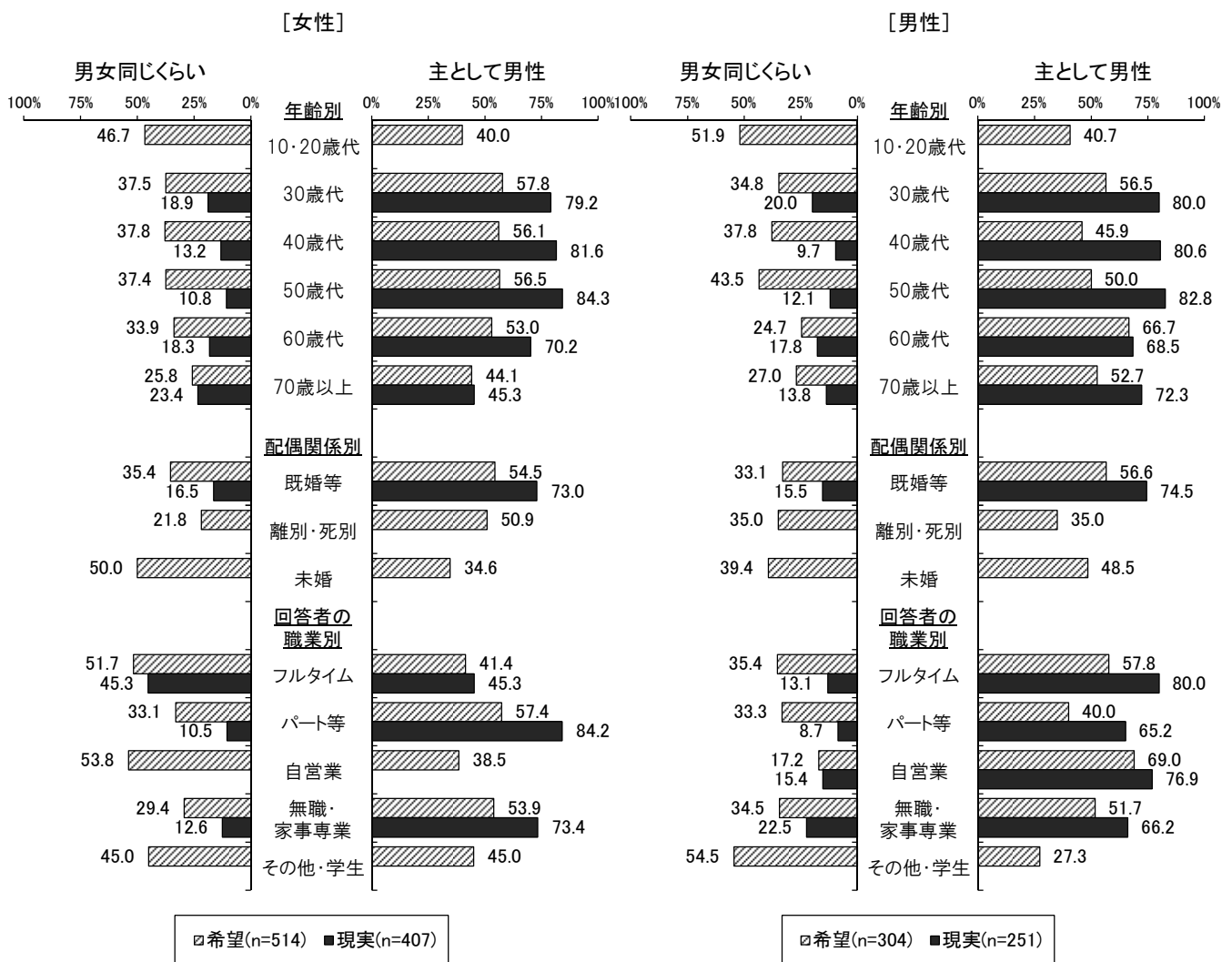
①生活費の確保

年齢別にみると、10・20歳代の希望の生活は「男女同じくらい」が女性46.7%・男性51.9%と高くなっています。一方、女性の30～60歳代、男性の30歳代と50歳以上の希望の生活は「主として男性」が50%以上となっており、現実の生活は30～50歳代の男女で「主として男性」が約80%を占めています。

配偶関係別にみると、女性の未婚の希望する生活は「男女同じくらい」が50.0%で、「主として男性」の34.6%よりも高くなっています。

職業別にみると、女性のフルタイムでは「男女同じくらい」が希望の生活51.7%・現実の生活45.3%となっています。

図 年齢別、配偶関係別、職業別 家庭での役割分担についての希望と現実 — ①生活費の確保



注) 現実の生活における10・20歳代の女性(8件)と男性(4件)、自営業の女性(13件)、その他・学生の女性(0件)と男性(1件)は対象者数が少ないため、グラフを省略しています。

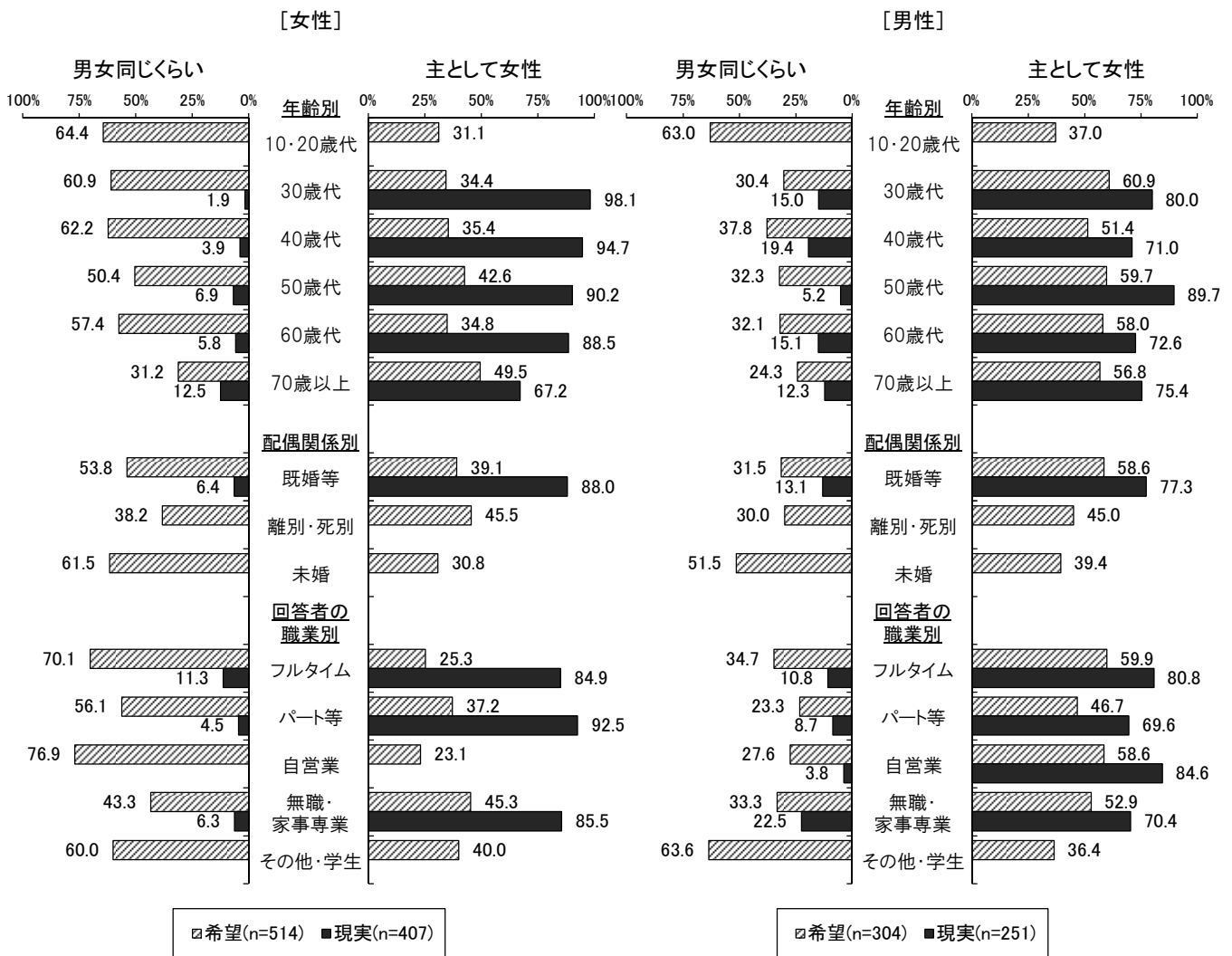
②家事(洗濯、掃除、食事など)

年齢別にみると、女性では、10～40歳代の希望の生活は「男女同じくらい」が60%以上となっていますが、現実の生活は「主として女性」が30～60歳代で約90～100%と高くなっています。男性では、30歳以上の希望する生活は「主として女性」が50%以上となっています。

配偶関係別にみると、既婚等の希望の生活は、女性では「男女同じくらい」(53.8%)、男性では「主として女性」が高くなっています。一方、未婚の希望の生活は、男女ともに「男女同じくらい」の割合が高くなっています。

職業別にみると、女性のフルタイム、パート等、自営業、その他・学生の希望の生活は「男女同じくらい」が50%以上となっていますが、女性の無職・家事専業の希望の生活では「主として女性」が45.3%、「男女同じくらい」が43.3%となっています。

図 年齢別、配偶関係別、職業別 家庭での役割分担についての希望と現実 — ②家事(洗濯、掃除、食事など)



注) 現実の生活における10・20歳代の女性(8件)と男性(4件)、自営業の女性(13件)、その他・学生の女性(0件)と男性(1件)は対象者数が少ないため、グラフを省略しています。

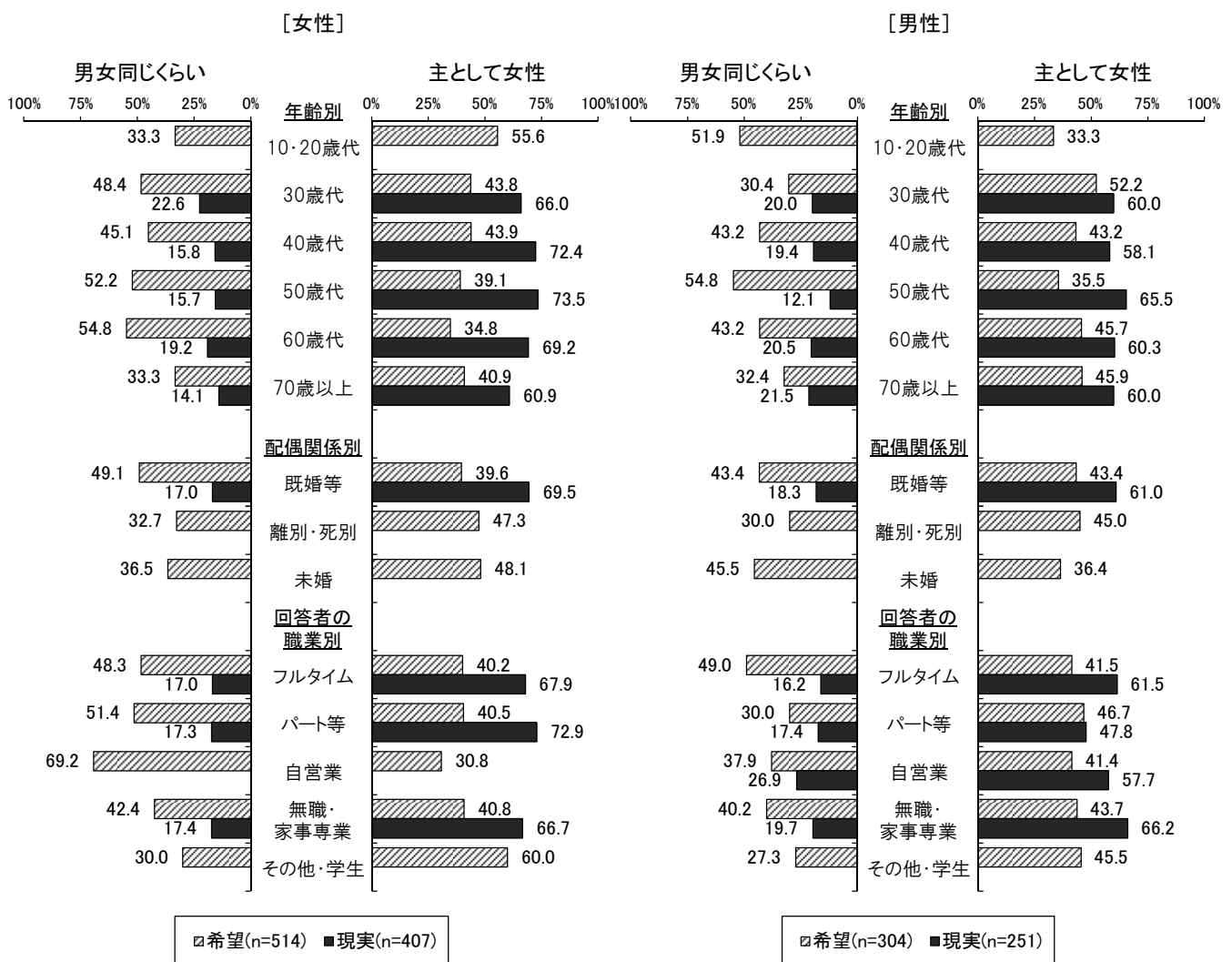
③日常の家計管理

年齢別にみると、女性の30・50・60歳代と男性の10・20歳代と50歳代の希望の生活は「男女同じくらい」が約50%となっています。現実の生活は、女性の40・50歳代で「主として女性」が70%以上、男性の50歳代では「主として女性」が65.5%となっており、50歳代の男女で希望と現実のギャップが大きくなっています。

配偶関係別にみると、希望する生活は、女性の離別・死別と未婚、男性の離別・死別では、「男女同じくらい」よりも「主として女性」、女性の既婚等と男性の未婚では「主として女性」よりも「男女同じくらい」の割合が高くなっています。

職業別にみると、希望する生活は女性の自営業では「男女同じくらい」が69.2%、その他・学生では「主として女性」が60.0%となっています。

図 年齢別、配偶関係別、職業別 家庭での役割分担についての希望と現実 — ③日常の家計管理



注) 現実の生活における10・20歳代の女性(8件)と男性(4件)、自営業の女性(13件)、その他・学生の女性(0件)と男性(1件)は対象者数が少ないため、グラフを省略しています。

④学校・地域の行事参加、近所とのつきあい

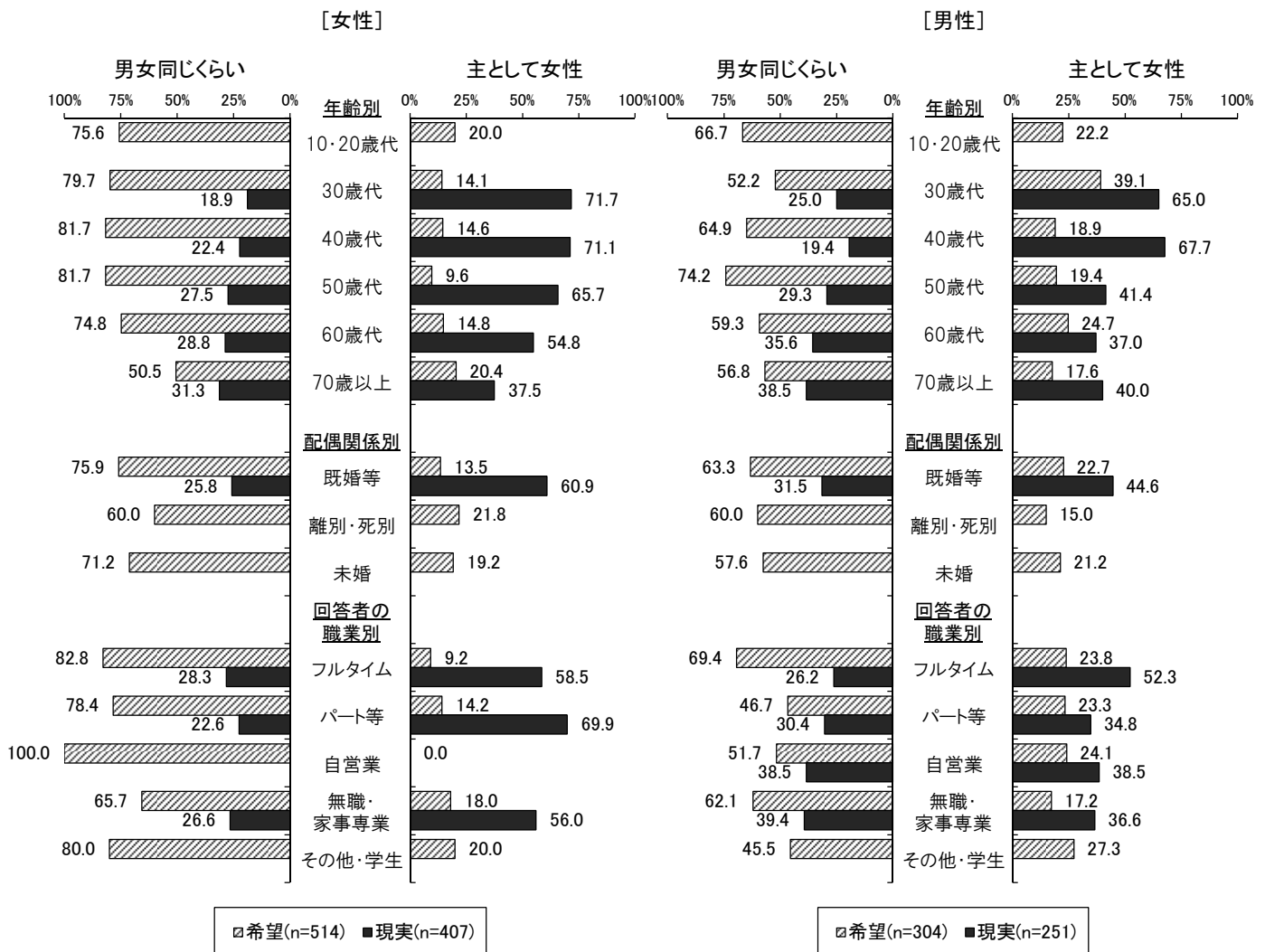
年齢別にみると、女性の10～50歳代の希望の生活は「男女同じくらい」が約80%と高くなっていますが、現実の生活は30・40歳代で「主として女性」が70%以上と高くなっています。男性でも30・40歳代の現実の生活は「主として女性」が60%以上と高くなっています。

配偶関係別にみると、既婚等の希望する生活は「男女同じくらい」が女性75.9%・男性63.3%となっています。

職業別にみると、女性ではフルタイムとパート等の希望する生活は「男女同じくらい」が約80%、現実の生活では「主として女性」が約60～70%と、ギャップが大きくなっています。また、男性ではフルタイムの人の希望の生活は「男女同じくらい」が69.4%、現実の生活は「主として女性」が52.3%となっており、他の職業に比べてギャップが大きくなっています。

図 年齢別、配偶関係別、職業別 家庭での役割分担についての希望と現実

④学校・地域の行事参加、近所とのつきあい



注) 現実の生活における10・20歳代の女性(8件)と男性(4件)、自営業の女性(13件)、その他・学生の女性(0件)と男性(1件)は対象者数が少ないため、グラフを省略しています。

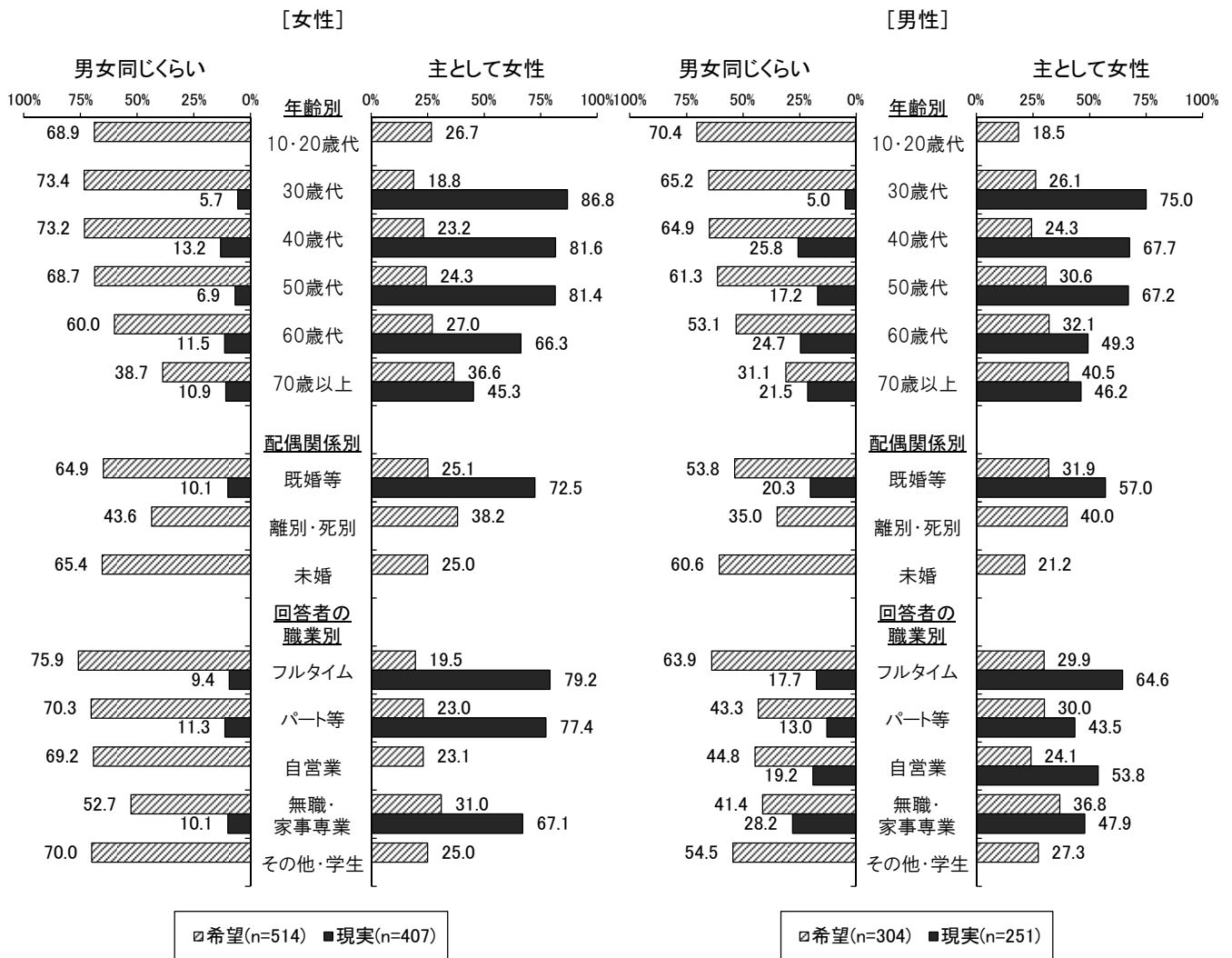
⑤子どもの世話

年齢別にみると、女性の10～60歳代、男性の10～50歳代の希望の生活は「男女同じくらい」が60%以上と高くなっていますが、現実の生活は「主として女性」の割合が高く、特に30歳代では、「男女同じくらい」が現実の生活で女性5.7%・男性5.0%と低くなっており、希望とのギャップが大きくなっています。

配偶関係別にみると、既婚等と未婚の希望の生活は男女ともに「男女同じくらい」が50%以上となっています。

職業別にみると、女性ではフルタイムとパート等ともに現実の生活は「主として女性」が約80%となっています。

図 年齢別、配偶関係別、職業別 家庭での役割分担についての希望と現実 — ⑤子どもの世話



注) 現実の生活における10・20歳代の女性(8件)と男性(4件)、自営業の女性(13件)、その他・学生の女性(0件)と男性(1件)は対象者数が少ないため、グラフを省略しています。

⑥高齢者・病人の世話・介護をする

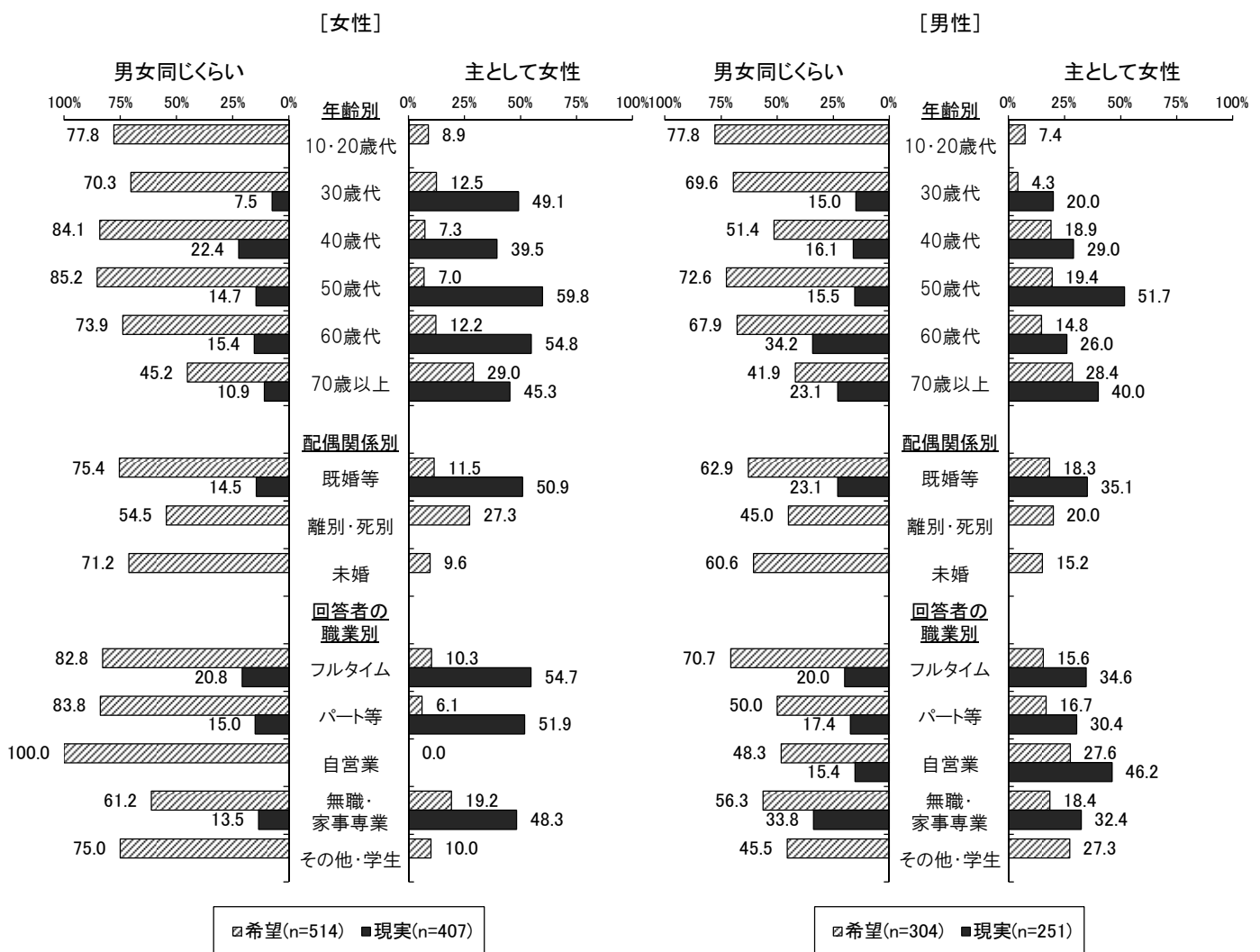
年齢別にみると、女性の50歳代は、希望の生活は「男女同じくらい」が85.2%、現実の生活は「主として女性」が59.8%と高く、希望と現実の違いが大きくなっています。また、男性でも50歳代は希望の生活は「男女同じくらい」が72.6%、現実の生活は「主として女性」が51.7%とギャップが大きくなっています。

配偶関係別にみると、既婚等の希望の生活は「男女同じくらい」が女性75.4%・男性62.9%となっています。

職業別にみると、女性のフルタイムとパート等では、「男女同じくらい」が希望の生活では80%以上である一方、現実の生活では、「主として女性」が50%以上となっています。

図 年齢別、配偶関係別、職業別 家庭での役割分担についての希望と現実

⑥高齢者・病人の世話・介護をする



注) 現実の生活における10・20歳代の女性(8件)と男性(4件)、自営業の女性(13件)、その他・学生の女性(0件)と男性(1件)は対象者数が少ないため、グラフを省略しています。

4. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

(1) 希望における「仕事」「家庭生活」「仕事と家庭生活以外」の優先状況

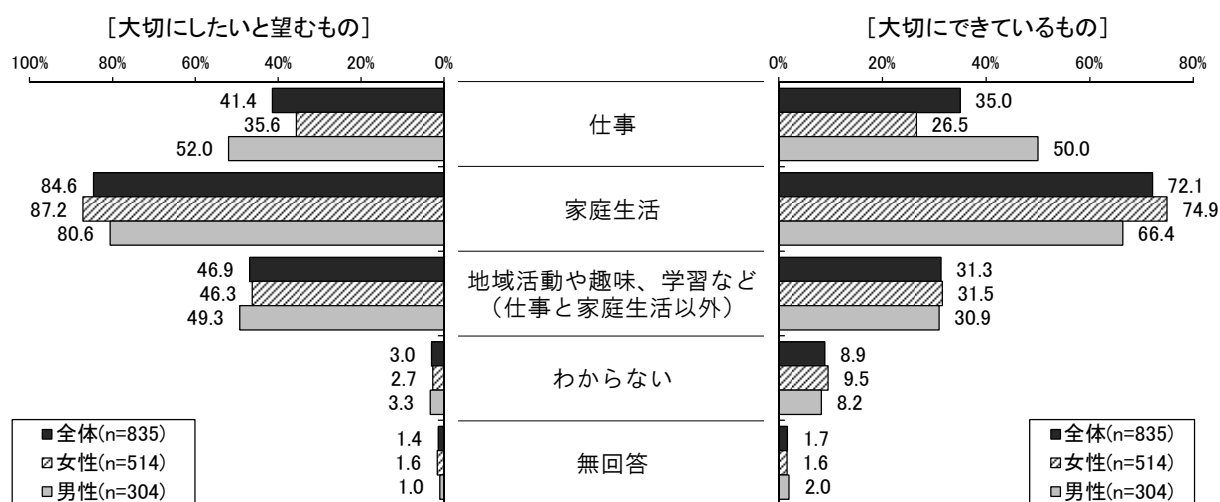
問15 あなたが生活において大切にしたいと望むものはどれですか。【あてはまるものすべてに○】

問16 あなたが生活において実際に大切にできているものはどれですか。【あてはまるものすべてに○】

希望と現実における「仕事」「家庭生活」「地域活動・趣味等」の状況についてたずねたところ、「大切にしたいと望むもの」「大切にできているもの」いずれも男女とも「家庭生活」が最も高くなっており、これに次いで、女性では「地域活動や趣味、学習など（仕事と家庭生活以外）」、男性では「仕事」の割合が高くなっています。

「大切にできているもの」の各項目の割合はいずれも「大切にしたいと望むもの」よりも低くなっており、「地域活動や趣味、学習など（仕事と家庭生活以外）」と「家庭生活」で「大切にしたいと望むもの」と「大切にできているもの」のギャップが大きくなっています。

図 性別「仕事」「家庭生活」「仕事と家庭生活以外」の優先状況

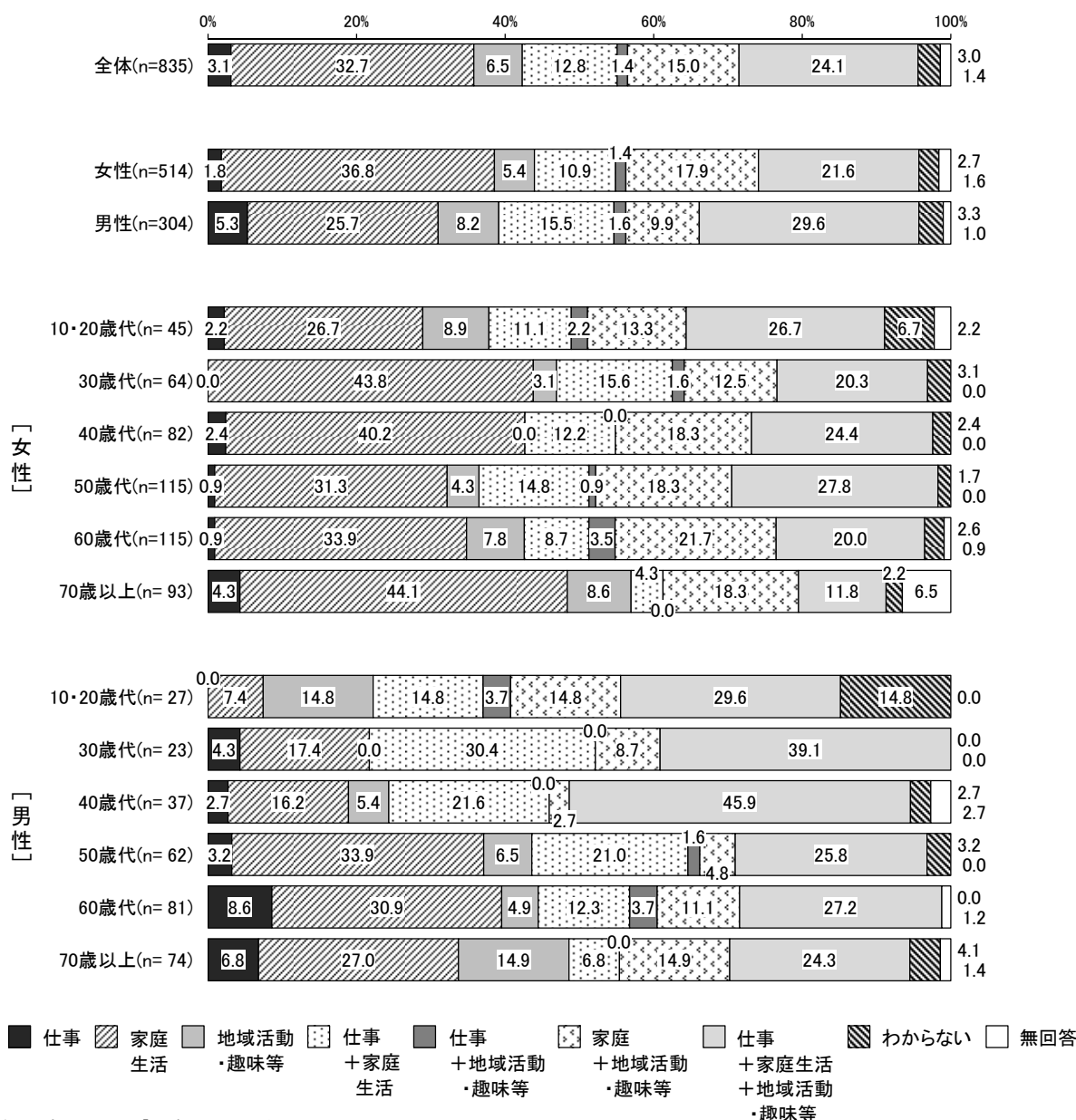


大切にしたいと思う「仕事」「家庭生活」「地域活動・趣味等」の状況の組み合わせについてみると、「家庭生活」が32.7%で最も高く、次いで「仕事+家庭生活+地域活動・趣味等」が24.1%、「家庭生活+地域活動・趣味等」が15.0%、「仕事+家庭生活」が12.8%となっています。

性別にみると、女性は「家庭生活」、男性は「仕事+家庭生活+地域活動・趣味等」の割合が最も高くなっています。

年齢別にみると、女性では、10・20歳代は、「家庭生活」と「仕事+家庭生活+地域活動・趣味等」がともに26.7%となっており、30歳以上の年代では、「家庭生活」が最も割合が高くなっています。男性では、10～40歳代は「仕事+家庭生活+地域活動・趣味等」、50歳以上の年代では「家庭生活」の割合が最も高くなっています。

図 性別、年齢別 希望における「仕事」「家庭生活」「地域活動・趣味等」の優先状況の組み合わせ



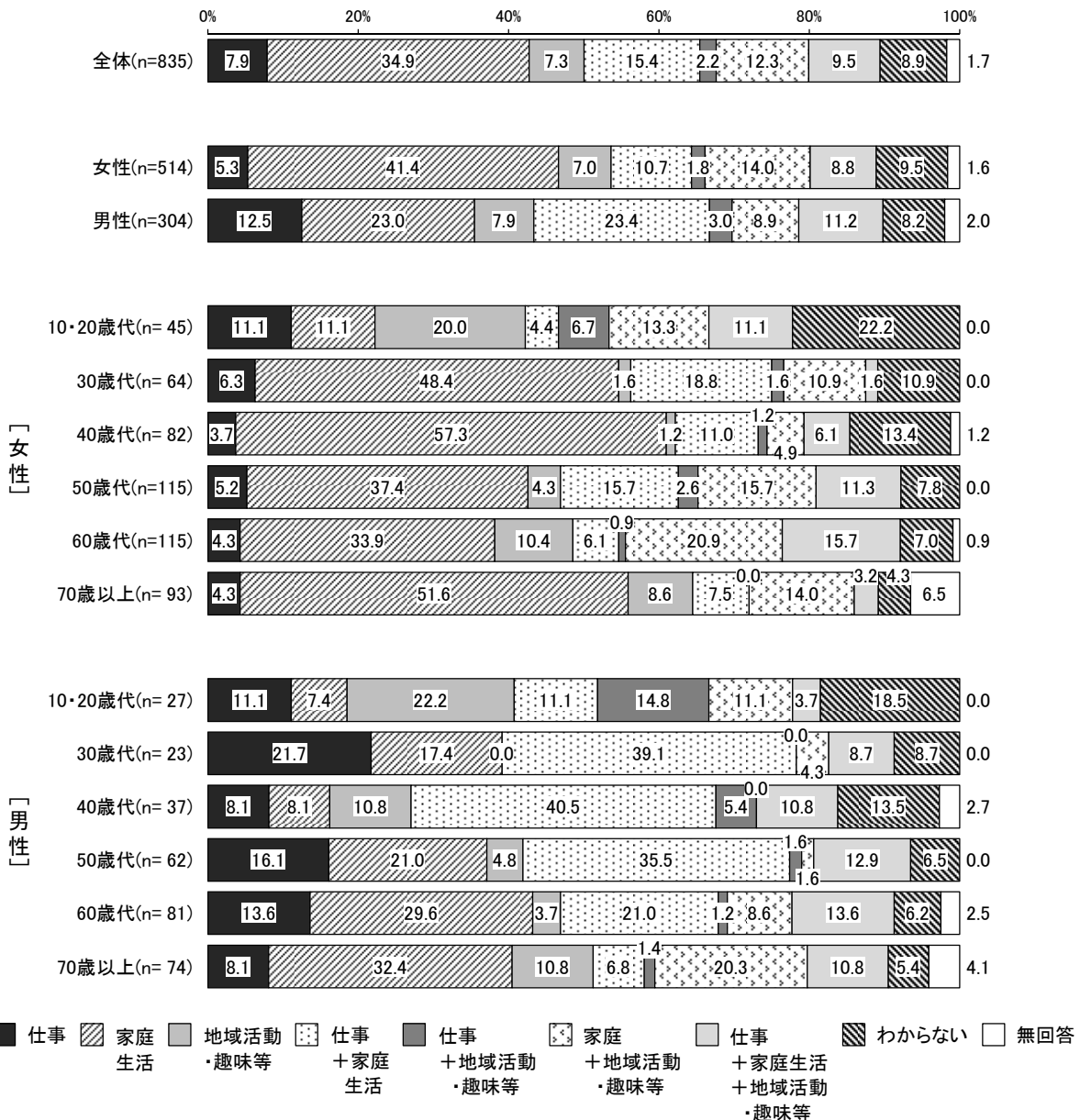
注) 仕事 …… 「仕事」のみ選択した人
 家庭生活 …… 「家庭生活」のみ選択した人
 地域活動・趣味等 …… 「地域活動や趣味、学習など（仕事と家庭生活以外）」のみ選択した人
 仕事+家庭生活 …… 「仕事」と「家庭生活」の2つを選択した人
 仕事+地域活動・趣味等 …… 「仕事」と「地域活動や趣味、学習など（仕事と家庭生活以外）」の2つを選択した人
 家庭生活+地域活動・趣味等 …… 「家庭生活」と「地域活動や趣味、学習など（仕事と家庭生活以外）」の2つを選択した人
 仕事+家庭生活+地域活動・趣味等 …… 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動や趣味、学習など（仕事と家庭生活以外）」の3つを選択した人

大切にできている「仕事」「家庭生活」「地域活動・趣味等」の状況の組み合わせについてみると、「家庭生活」が34.9%で最も高く、次いで「仕事+家庭生活」が15.4%、「家庭生活+地域活動・趣味等」が12.3%となっています。

性別にみると、女性は「家庭生活」が41.4%で最も高く、男性は「仕事+家庭生活」と「家庭生活」がともに20%以上となっています。

年齢別にみると、女性の30・40歳代と70歳以上では「家庭生活」が約50~60%と高く、男性では、30~50歳代では「仕事+家庭生活」が30%以上となっています。

図 性別、年齢別 実際における「仕事」「家庭生活」「地域活動・趣味等」の優先状況の組み合わせ



■ 前回調査との比較

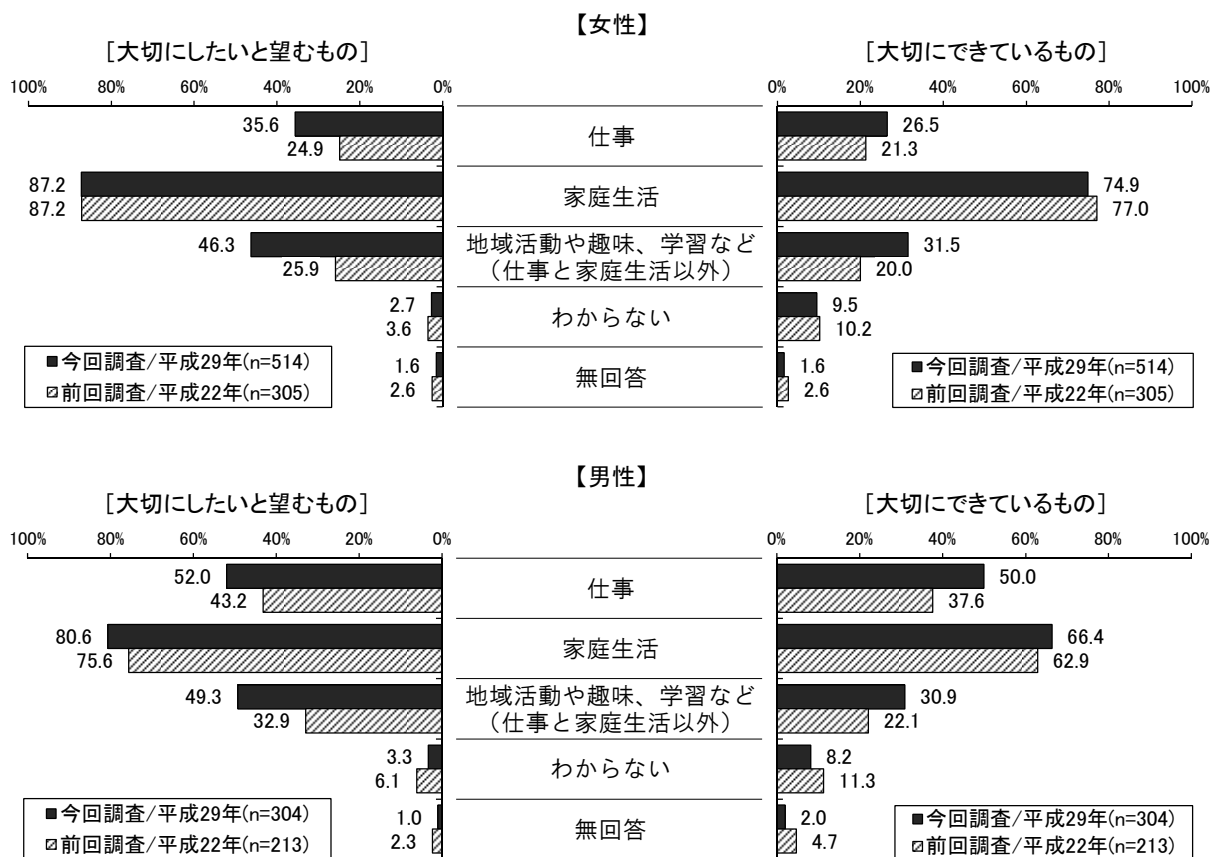
前回調査（平成22年）と比較すると、「仕事」を大切にしたいと望む割合・大切にできている割合は、男女ともに前回調査よりも高くなっています。

「家庭生活」を大切にしたいと望む割合・大切にできている割合は、女性では前回調査とほぼ同じ傾向となっていますが、男性では大切にしたいと望む割合・大切にできている割合がともに前回調査より高くなっています。

「地域活動や趣味、学習など（仕事と家庭生活以外）」を大切にしたいと望む割合は、今回調査では女性46.3%・男性49.3%、前回調査では女性25.9%・男性32.9%と、女性で20.4ポイント、男性で16.4ポイント増加しています。大切にできているものでも「地域活動や趣味、学習など（仕事と家庭生活以外）」の割合は男女ともに今回調査で高くなっています。

図 性別「仕事」「家庭生活」「仕事と家庭生活以外」の優先状況

－ 前回調査との比較



(2) 育児休業・介護休業の取得意向

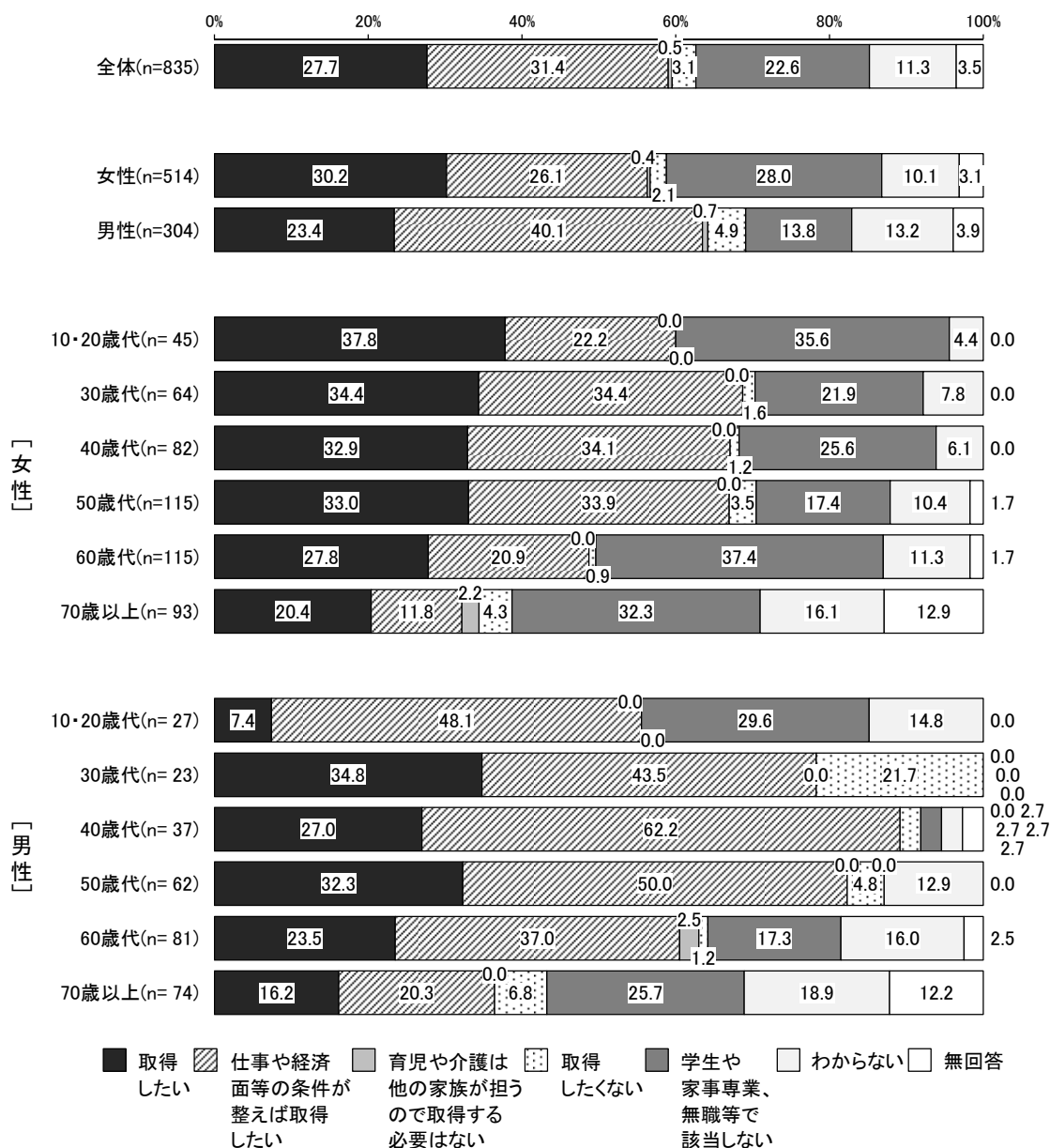
問17 もしあなたに育児や介護の必要な家族がいれば、育児休業・介護休業（無給）を取得したいですか。【〇は1つ】

育児休業・介護休業の取得意向をたずねたところ、「仕事や経済面等の条件が整えば取得したい」が31.4%、「取得したい」が27.7%となっており、「育児や介護は他の家族が担うので取得する必要はない」と「取得したくない」は5%未満となっています。

性別にみると、女性では「取得したい」(30.2%)、男性では「仕事や経済面等の条件が整えば取得したい」(40.1%)の割合が最も高くなっています。

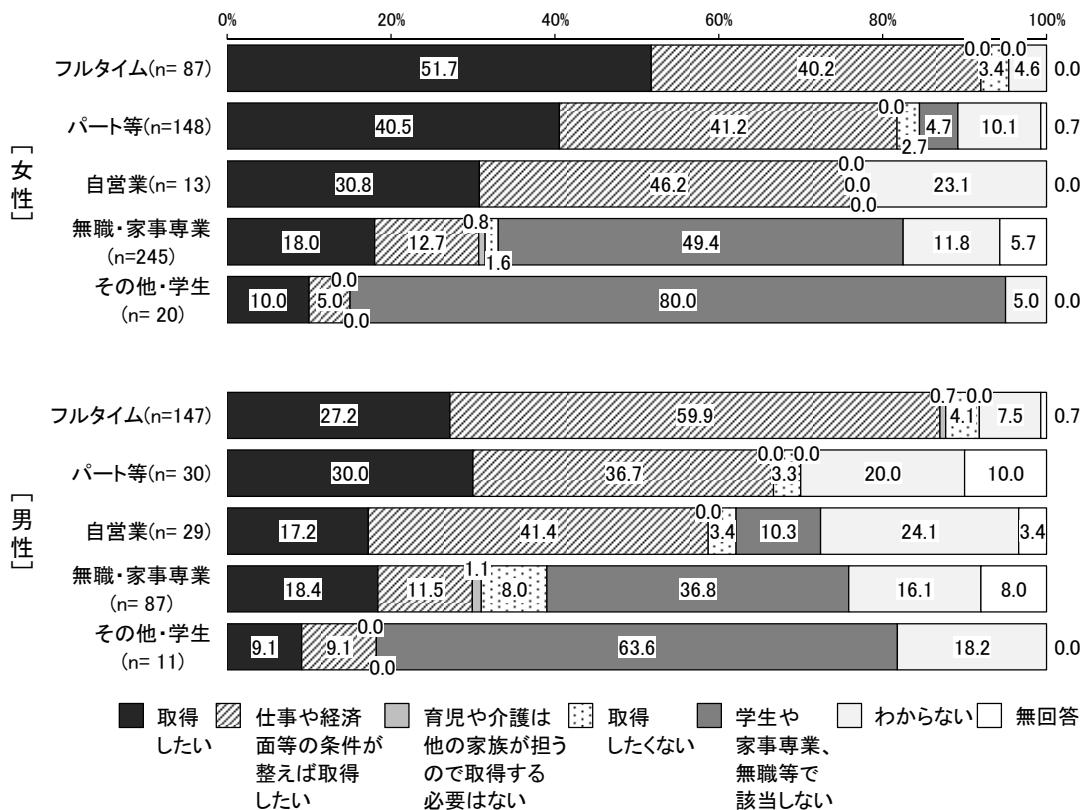
年齢別にみると、女性の30～50歳代では「取得したい」と「仕事や経済面等の条件が整えば取得したい」がともに30%以上となっています。男性の10～60歳代では、「仕事や経済面等の条件が整えば取得したい」の割合が最も高くなっていますが、30歳代では、「取得したくない」が21.7%と他の年代と比べ高くなっています。

図 性別、年齢別 育児休業・介護休業の取得意向



職業別にみると、女性では「取得したい」がフルタイムで51.7%、パート等で40.5%となっています。男性ではフルタイム・パート等ともに、「取得したい」は約30%となっています。

図 職業別 育児休業・介護休業の取得意向



■回答理由(自由記述)

<取得したい>

- ・それが当然であると思うから。人の命に優先する仕事はない。(男性 50 歳代)
- ・子育てを楽しめるのはその時だけだから。介護も必要があればしなければいけないと思うから。(女性 40 歳代)
- ・仕事をしていれば育児や介護に十分な時間がとれない。身体的にも精神的にも負担である。(女性 60 歳代)
- ・近くに住んでないので時間の余裕が欲しいので。(女性 50 歳代)
- ・出産後も職場復帰し、正社員で働きたいため。(女性 10・20 歳代)
- ・仕事を辞めると、再就職が難しいと思うので。(女性 50 歳代)
- ・私が休業して育児や介護をしなければ他にする人がいないから。(女性 30 歳代)
- ・会社に制度が存在し、取得する権利があるから。(男性 40 歳代)

<仕事や経済面等の条件が整えば取得したい>

- ・家族の一員として育児・介護をすることは当然であるが、仕事して収入を得ることも家庭を守るためには必要。(男性 40 歳代)
- ・夫だけの給料では生活できないので仕事は休めないが、経済面が大丈夫なのであれば介護休業はぜひ取得したいです。(女性 50 歳代)
- ・現実的に、仕事・家事・介護を女性 1 人がやるのはものすごい負担です。でも現実的に男の人はしないので、介護者がストレス・過労で苦しい。(女性 40 歳代)
- ・子育ては夫婦でするものだと考えているから。(男性 10・20 歳代)
- ・育児・介護休業を取得すると会社内での自分の立ち位置が悪くなるように思う。(男性 10・20 歳代)
- ・取得できる状況が整わなければ人に迷惑をかけることになり、仕事を続けていく上でデメリットになることもあるから、慎重にやる必要がある。(女性 50 歳代)
- ・条件は整いにくいと思う。現実難しいと思う。(女性 50 歳代)
- ・仕事で代役がおらず休めない。(男性 50 歳代)

<取得したくない>

- ・収入が無くなると生活にひびくから。(女性 30 歳代)
- ・仕事を犠牲にしてまで介護はしたくない。(女性 50 歳代)
- ・休業すると仕事が滞るから (男性 30 歳代)
- ・公的な施設の充実を図ってもらいたい。個人(家庭)での限界は必ずあると思うから。(女性 60 歳代)

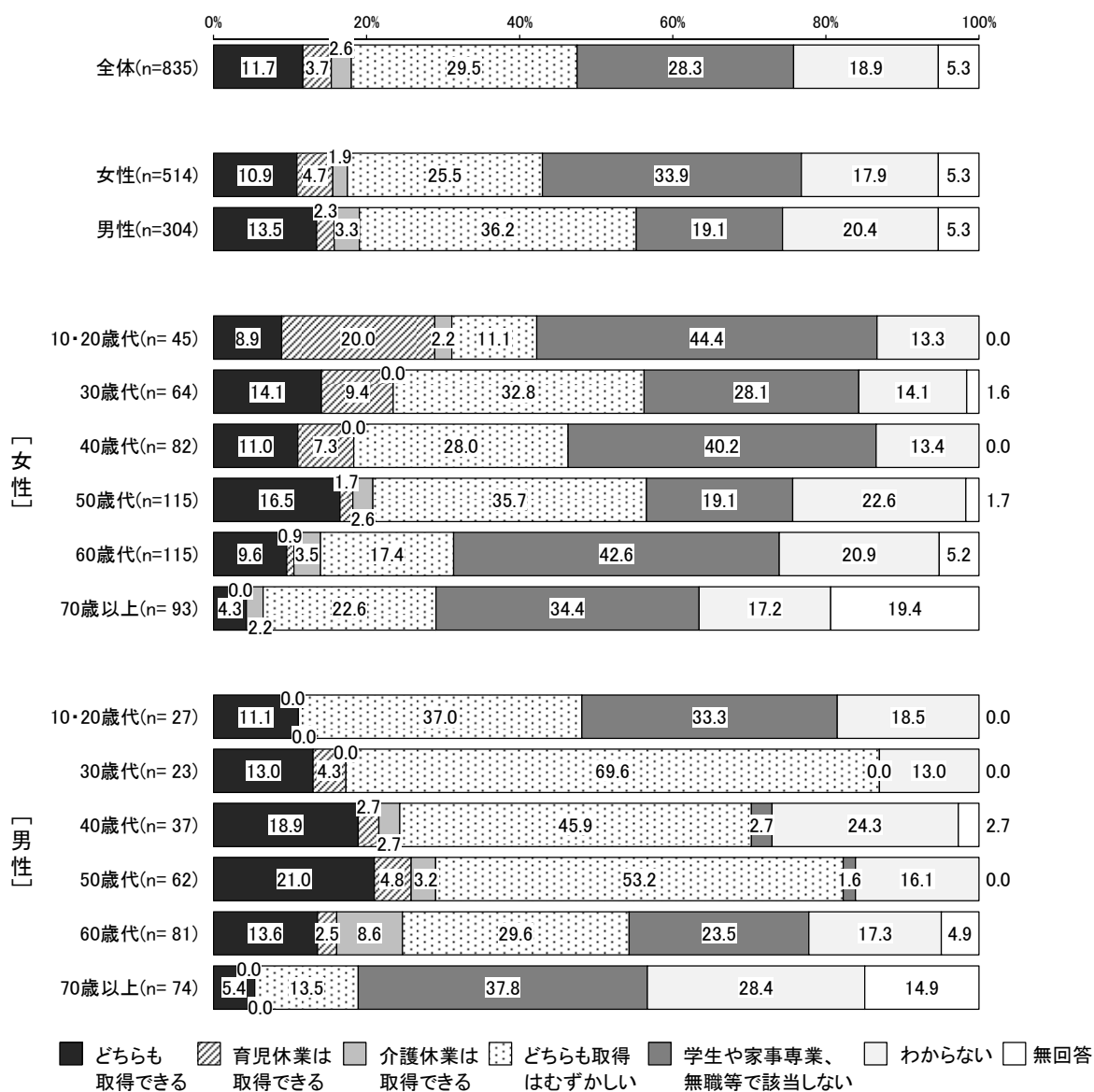
(3) 育児休業・介護休業の取得環境

問18 今の状況で実際に育児休業・介護休業（無給）を取得することは可能ですか。【○は1つ】

実際に育児休業・介護休業を取得することができるかたずねたところ、「どちらも取得はむずかしい」(29.5%)、「どちらも取得できる」は11.7%、「育児休業は取得できる」は3.7%、「介護休業は取得できる」は2.6%となっており、育児休業を取得できる人は合計15.4%、介護休業を取得できる人は合計14.3%となっています。

性別にみると、女性では10・20歳代は「育児休業は取得できる」が20.0%となっています。30歳以上の年代では「どちらも取得はむずかしい」の割合が「どちらも取得できる」「育児休業は取得できる」「介護休業は取得できる」の合計よりも高くなっています。男性では「どちらも取得はむずかしい」が30歳代では69.6%、40歳代では45.9%、50歳代では53.2%と高くなっています。

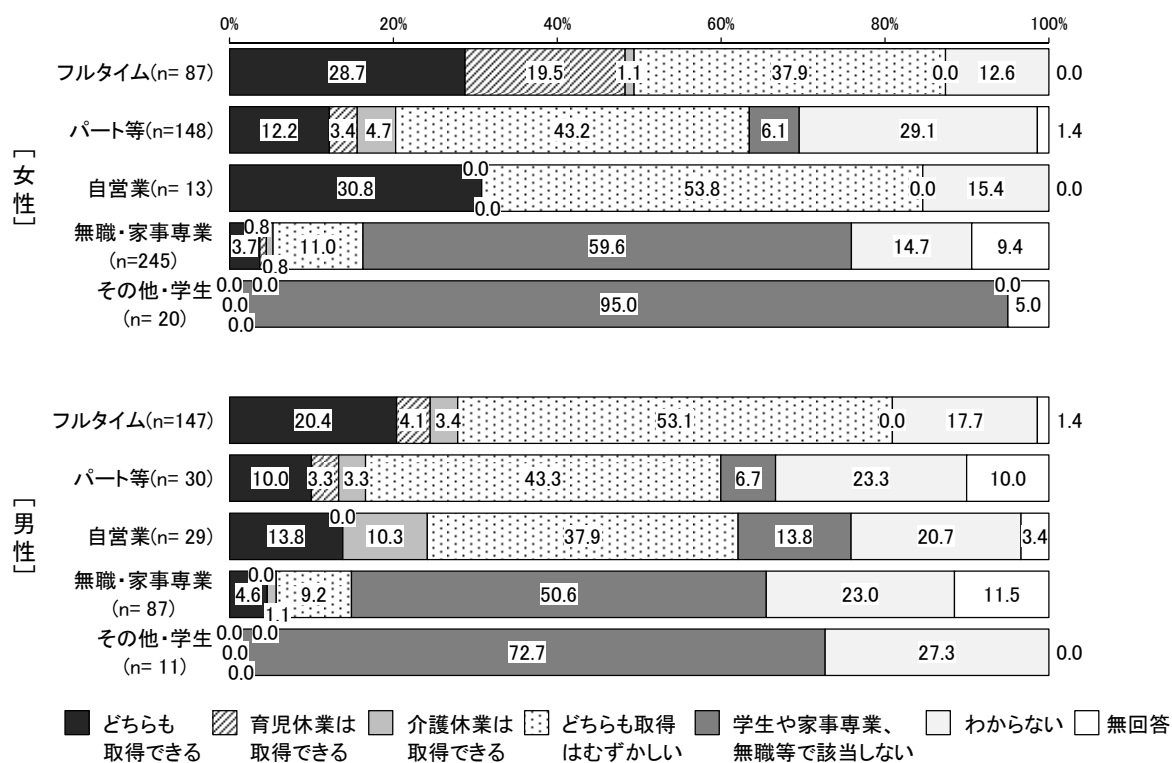
図 性別、年齢別 育児休業・介護休業の取得環境



職業別にみると、女性のフルタイムでは「どちらも取得できる」が28.7%、「育児休業は取得できる」が19.5%で、育児休業を取得できる人の合計が約50%となっています。パート等では、「どちらも取得できる」が12.2%、「育児休業は取得できる」が3.4%と、フルタイムと比べて割合が低く、「どちらも取得はむずかしい」が43.2%、「わからない」が29.1%となっています。

男性のフルタイムでは「どちらも取得はむずかしい」が53.1%と高く、「どちらも取得できる」は20.4%、「育児休業は取得できる」は4.1%となっています。

図 職業別 育児休業・介護休業の取得環境



(4) 男性の育児休業・介護休業取得に対する考え

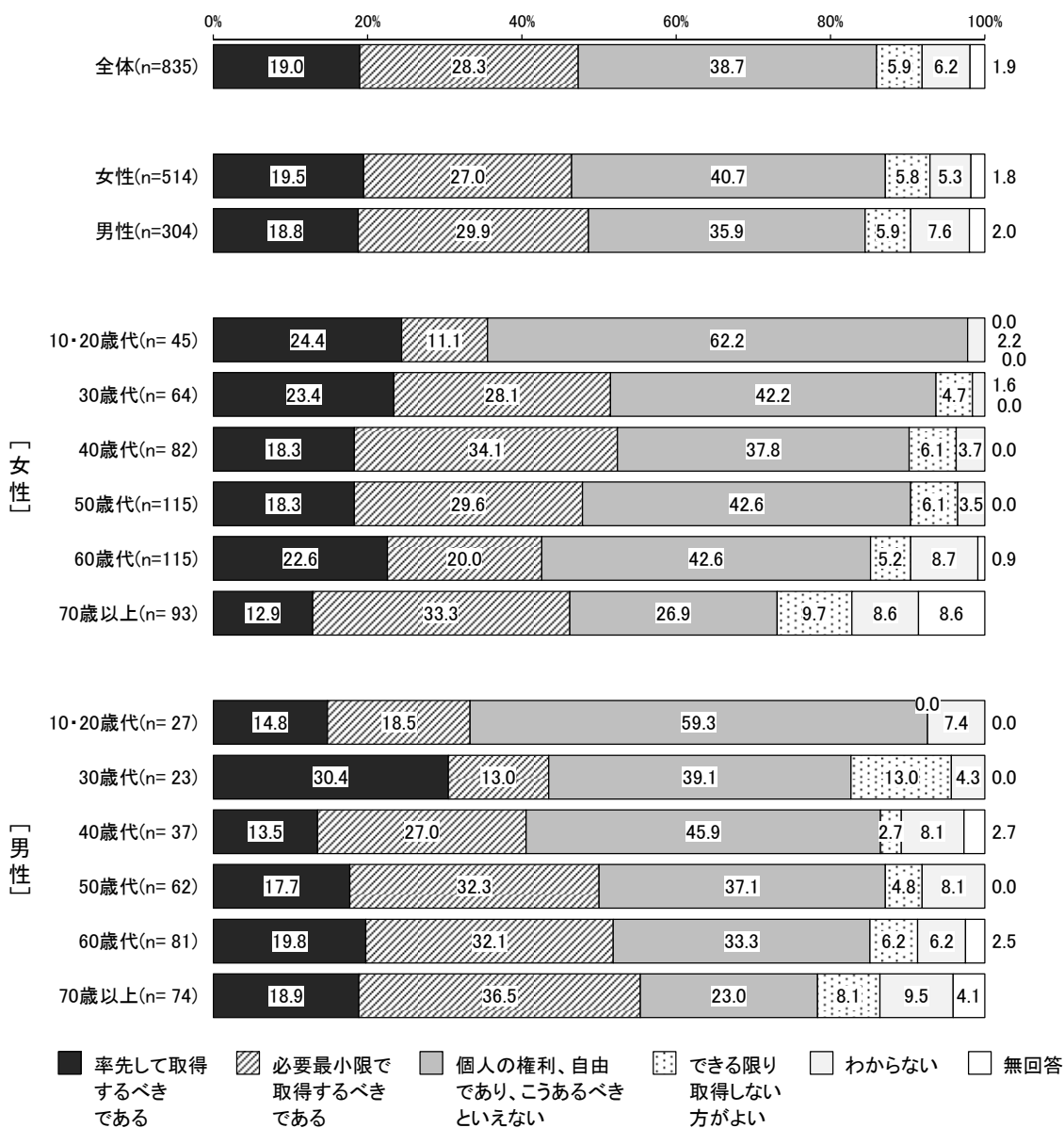
問19 男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どのように思いますか。【〇は1つ】

男性の育児休業・介護休業取得に対する考えをたずねたところ、「個人の権利、自由であり、こうあるべきといえない」が38.7%で最も高く、次いで「必要最小限で取得するべきである」が28.3%、「率先して取得するべきである」が19.0%となっています。

性別にみると、「個人の権利、自由であり、こうあるべきといえない」は女性40.7%・男性35.9%と、女性の方がやや割合が高くなっています。

年齢別にみると、10・20歳代は「個人の権利、自由であり、こうあるべきといえない」が男女ともに約60%と高くなっています。男性の30歳代は「率先して取得するべきである」(30.4%)と「できる限り取得しない方がよい」(13.0%)が、他の年代より割合が高くなっています。

図 性別、年齢別 男性の育児休業・介護休業取得に対する考え



■回答理由(自由記述)

<率先して取得すべきである>

- ・社会全体で子育ては女性の仕事という考え方はいまだに多い。男性がこういった制度を正しく活用することは子育てにおける男女の格差をなくすとともに女性の就業機会が増える。(男性 10・20 歳代)
- ・男性も子育てや介護をすべきだと思うから。職場では男女同じことを求められるのに、家庭のことも女性ばかりが求められるのはおかしいと思うから、協力してほしい。(女性 30 歳代)
- ・積極的に取得していかないと広まらないと思うので。(女性 40 歳代)
- ・女性だけでは大変な部分が多いから。男性が休業をとることで女性の負担が減ると思う。(女性 50 歳代)
- ・育児や介護をすることで家族の時間を持って、男性自身も得るものが多いと思う。また、家族のストレスも軽減できる。(女性 50 歳代)
- ・男性にも、育児の大変さを知ってほしい。(女性 30 歳代)

<必要最小限で取得すべきである>

- ・女性ばかりが負担になるのは良くない。お互い協力し合って支え合いたい。(女性 40 歳代)
- ・職場の体制の充実がなければ、仕事が破たんする。職がなくなれば生活できないため、専門職のため、急に代替者を見つけられない。(男性 50 歳代)
- ・職場で必要とされているだろうし、初めての育児は母親も手探り状態なので少しは協力してほしいから。(女性 30 歳代)
- ・必要最低限の生活費を確保する必要があるので、確保できる範囲で取得すべき。(男性 50 歳代)
- ・まだまだ社会で認められていないので、実際に仕事復帰できたとしても社内での立場が悪くなる。(女性 50 歳代)
- ・実際に取得しないと、その大変さなど実際にしてみてもわかることができないから。でも、仕事があるから、必要最小限になってしまうと思う。(女性 40 歳代)

<個人の権利、自由であり、こうあるべきといえない>

- ・それぞれの考えや、家庭、職場での役割や立場があると思うから。(女性 40 歳代)
- ・その人にとって仕事(出世)が一番なら取ることによって損になると思うし、出世より家族なのであれば取れば良いと思うし、その人によると思う。ただ取れる社会だと良いと思う。(女性 50 歳代)
- ・家庭、家族の状況や考え方は異なり、夫婦や家族で話し合っ決めてべきことだと考えます。(女性 60 歳代)
- ・男性の場合は仕事の内容や責任部分で個人差があると思う。女性は何らかの理由で育児休業できない時は、相談して男性も休業の必要があるかもしれません。(女性 60 歳代)
- ・育児・介護できるなら取得すればよいが、休んでもできないなら取得しなくてもよい。(女性 30 歳代)

<できる限り取得しない方がよい>

- ・男性が経済面を担い、女性が家庭内の面を中心に担う方が良いと思う。(男性 60 歳代)
- ・仕事は社内業務だけではないので、信頼を失う。社外にも理解してもらおう社会になるには何十年とかかるような気がする。(女性 30 歳代)
- ・経済的にも仕事に対する責任からも無理。休みの日に手伝ってくれたり、言葉かけや相談にのってくれたりがあれば仕事優先でよい。(女性 40 歳代)

(5) 悩みごとやストレスの有無

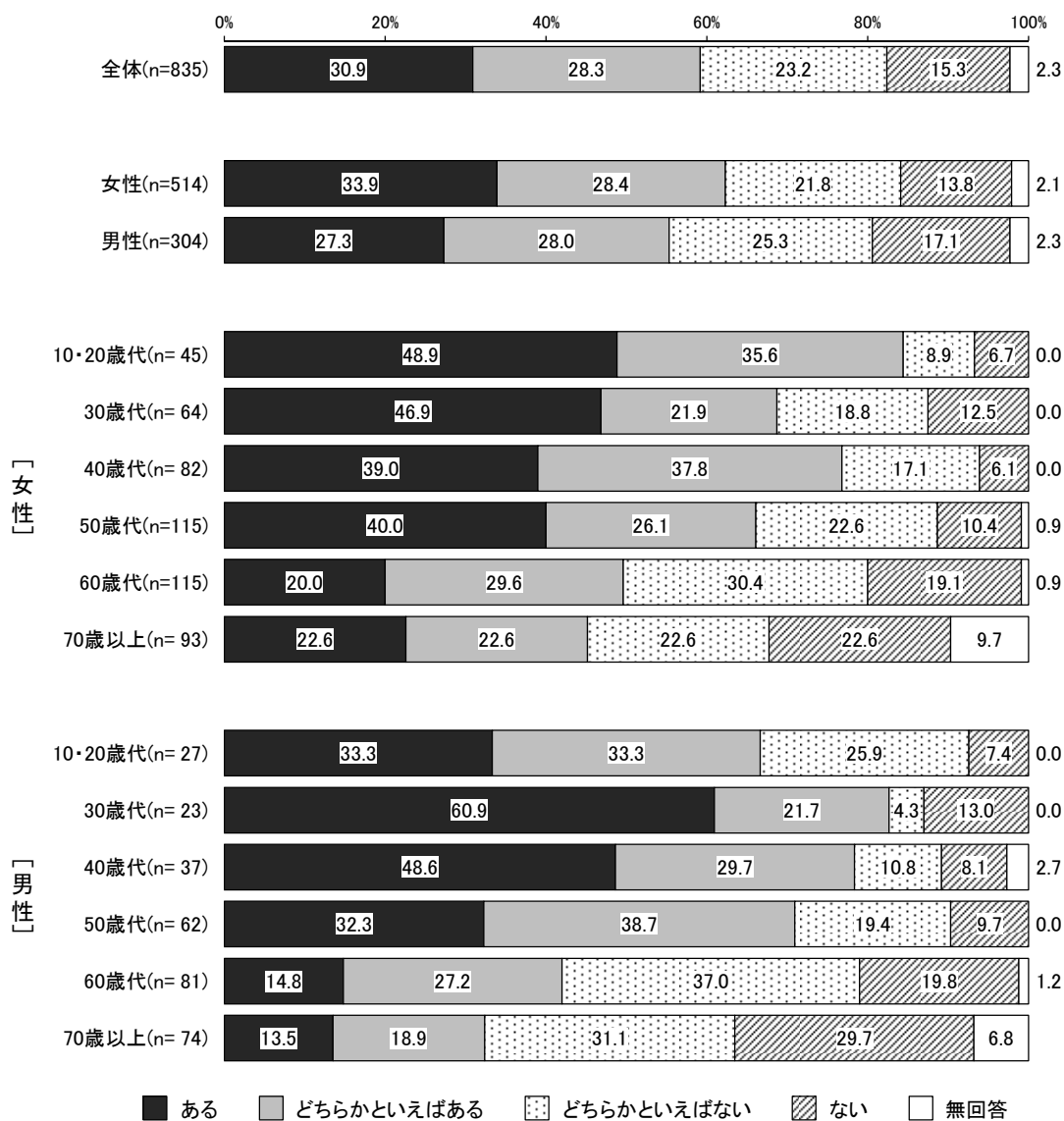
問20 最近、仕事や生活についての悩みごとやストレスがありますか。【〇は1つ】

仕事や生活についての悩みごとやストレスの有無についてたずねたところ、「ある」が30.9%、「どちらかといえばある」が28.3%となっており、合計した『ある』が59.2%となっています。一方、「どちらかといえはない」は23.2%、「ない」は15.3%となっており、合計した『ない』が38.5%となっています。

性別にみると、『ある』は女性62.3%・男性55.3%で、女性の方が7.0ポイント高くなっています。

年齢別にみると、女性では10・20歳代では『ある』が84.5%と高くなっています。男性では、30歳代と40歳代は「ある」がそれぞれ60.9%、48.6%と高く、「どちらかといえばある」と合わせた『ある』が約80%となっています。

図 性別、年齢別 悩みごとやストレスの有無



(6) 悩みごとやストレスを誰かに相談しているかについて

問21は、問20で「1 ある」「2 どちらかといえばある」と答えた方におたずねします。

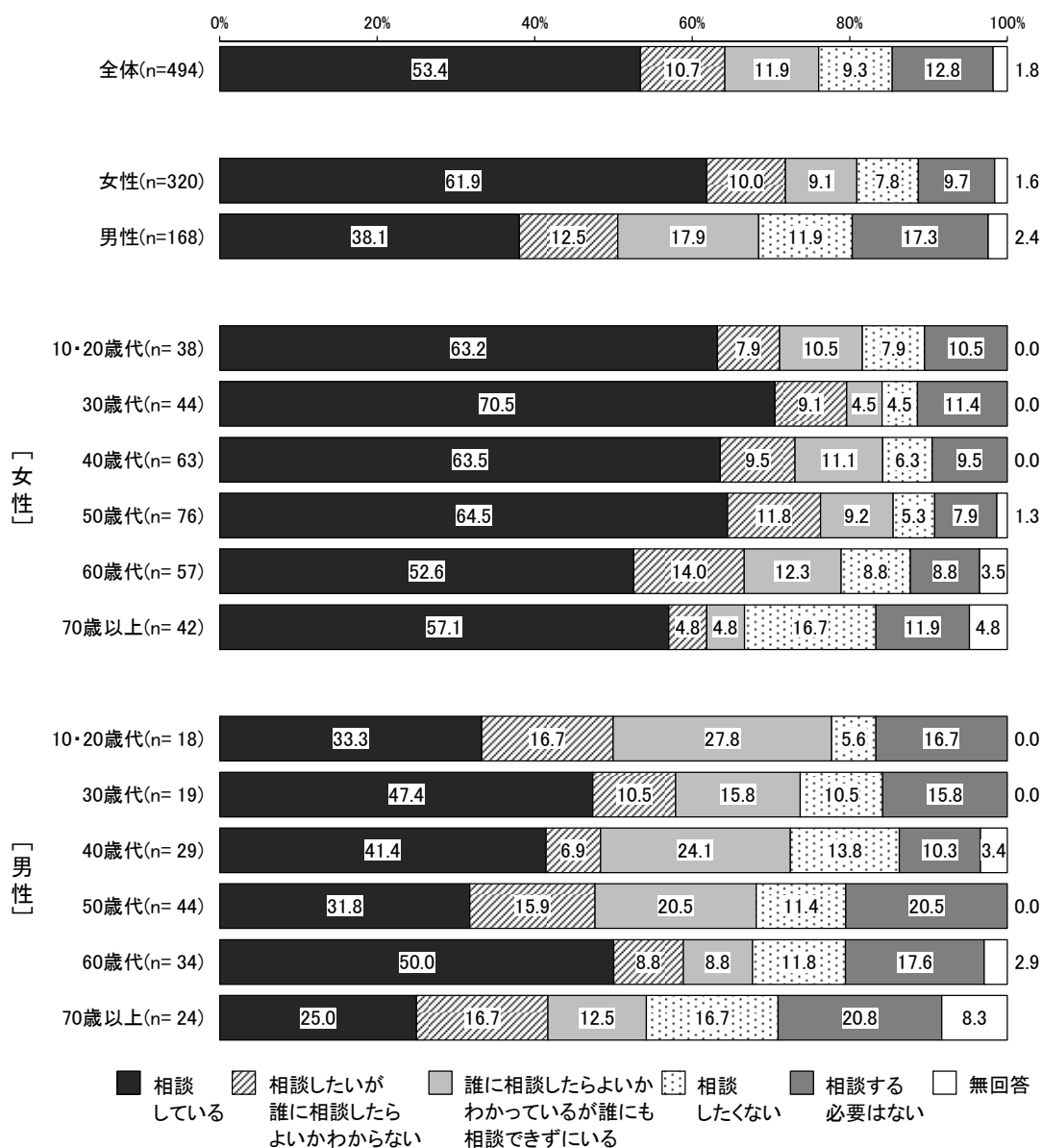
問21 悩みやストレスは誰かに相談していますか。【〇は1つ】

仕事や生活についての悩みごとやストレスがある人に、悩みやストレスを誰かに相談しているかたずねたところ、「相談している」が53.4%となっています。一方、「相談したいが誰に相談したらよいかわからない」は10.7%、「誰に相談したらよいかわかっているが誰にも相談できずにいる」は11.9%、「相談したくない」は9.3%、「相談する必要はない」は12.8%となっており、相談していない人は合計44.7%となっています。

性別にみると、「相談している」は女性61.9%・男性38.1%で、女性の方が23.8ポイント高くなっています。

年齢別にみると、女性の10～50歳代では、いずれも「相談している」が60%以上となっています。男性では、30歳代と60歳代では「相談している」が約50%となっていますが、70歳以上では25.0%と低くなっています。

図 性別、年齢別 悩みごとやストレスを誰かに相談しているかについて



(7) 家庭問題に家族以外の人のお世話になることについて

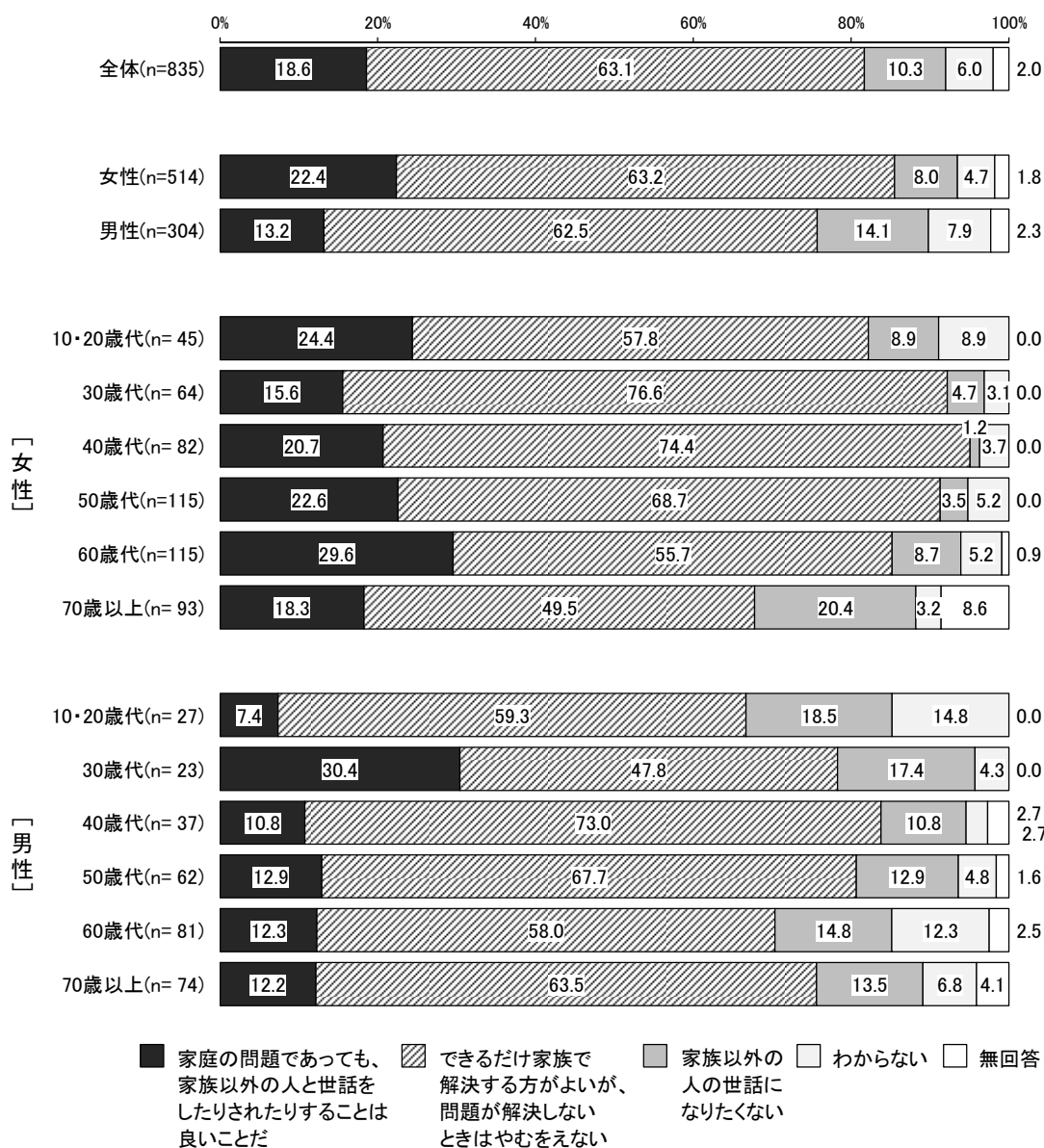
問22 あなたは、家庭で問題が生じた時、家族以外の人のお世話になることについてどう思いますか【○は1つ】

家庭で問題が生じた時、家族以外の人のお世話になることについてどう思うかたずねたところ、「できるだけ家族で解決する方がよいが、問題が解決しないときはやむをえない」が63.1%を占めており、「家庭の問題であっても、家族以外の人とお世話をしたりされたりすることは良いことだ」は18.6%、「家族以外の人のお世話になりたくない」は10.3%となっています。

性別にみると、女性は男性よりも「家庭の問題であっても、家族以外の人とお世話をしたりされたりすることは良いことだ」の割合が高く、男性は女性よりも「家族以外の人のお世話になりたくない」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、女性では10・20歳代と40～60歳代では「家庭の問題であっても、家族以外の人とお世話をしたりされたりすることは良いことだ」が20%以上となっていますが、70歳以上では「家族以外の人のお世話になりたくない」が20.4%となっています。男性では、30歳代で「家庭の問題であっても、家族以外の人とお世話をしたりされたりすることは良いことだ」が30.4%と比較的高くなっています。

図 性別、年齢別 家庭問題に家族以外の人のお世話になることについて



■回答理由(自由記述)

<家庭の問題であっても、家族以外の人と世話をしたりされたりすることは良いことだ>

- ・家族だからこそ解決しづらい事もあると思う。客観的な第三者の視点は大事だと思うので。(女性 40 歳代)
- ・介護中だが娘の私と夫だけでは、親をみることは負担が大きい。社会資源、人の手を借りて良い方法を選びたい。(女性 60 歳代)
- ・地域全体で、見守る、支援することも大切です、発信することも必要です。(女性 50 歳代)
- ・近所で助けあうのも良い事だと思う。これから年寄り一人での生活も増えていくと思うから。(女性 60 歳代)
- ・ついこないだ隣の家族に妻の体調不良時に助けていただきました。こんなことお願いしていいのか逆に迷いましたが快く手を貸して下さいうれしかったです。(男性 30 歳代)
- ・話をたくさんの人に聞いてもらう。それだけでもストレス発散になるので。(女性 30 歳代)

<できるだけ家族で解決する方がよいが、問題が解決しないときはやむをえない>

- ・第三者的立場で見てもらうことも大いに参考になる(家族では気付かないことも多々ある)。(女性 60 歳代)
- ・核家族化、近隣に親族がない場合など、家族内での問題解決が困難な場合がある。(女性 40 歳代)
- ・家族で話し合っ解決出来る事が一番良いが、出来ない場合は他の人の考えを借りる事も良い事だと思う。(男性 70 歳以上)
- ・例えば地域の民生委員に相談するとしても守秘義務はあるが、罰則規定がないので他人に個人情報話すかもしれない不安があるかもしれない。(男性 40 歳代)
- ・家族以外の方は、親身になってくれない。自分達で解決した方がよい。弱みにつけこんで他人の利になるようにされる恐れがある。(女性 50 歳代)
- ・生きて行く上で助けて頂く事も必要。自身も人助けできる事があればしたい。(男性 60 歳代)
- ・家族だから難しいこともある。仕事としてわりきって他人の世話になれる方が精神的に楽(介護保険の利用、子育てサポートの利用など)。(女性 40 歳代)
- ・家族以外の方の世話になることは、それ相応にストレス原因が増加する。(男性 50 歳代)
- ・なるべく周りに迷惑をかけたくないから。(女性 30 歳代)
- ・近親者に話を聞いてもらうだけでも気持ちが落ち着くと思う。(女性 60 歳代)

<家族以外の方の世話になりたくない>

- ・家庭の中をさぐられてどこかでしゃべられるからいやだ。(女性 70 歳以上)
- ・家庭内の問題は原則その内で解決すべき。(男性 50 歳代)
- ・報酬を支払っての相談は良いが、それ以外は親身に考えてもらえるかが疑問。(男性 60 歳代)
- ・気を使いたくないから (男性 60 歳代)
- ・相談しても解決すると思わない。(女性 70 歳以上)

5. 職場等での女性の活躍について

(1)「男は仕事、女は家庭」という考え方についての意識

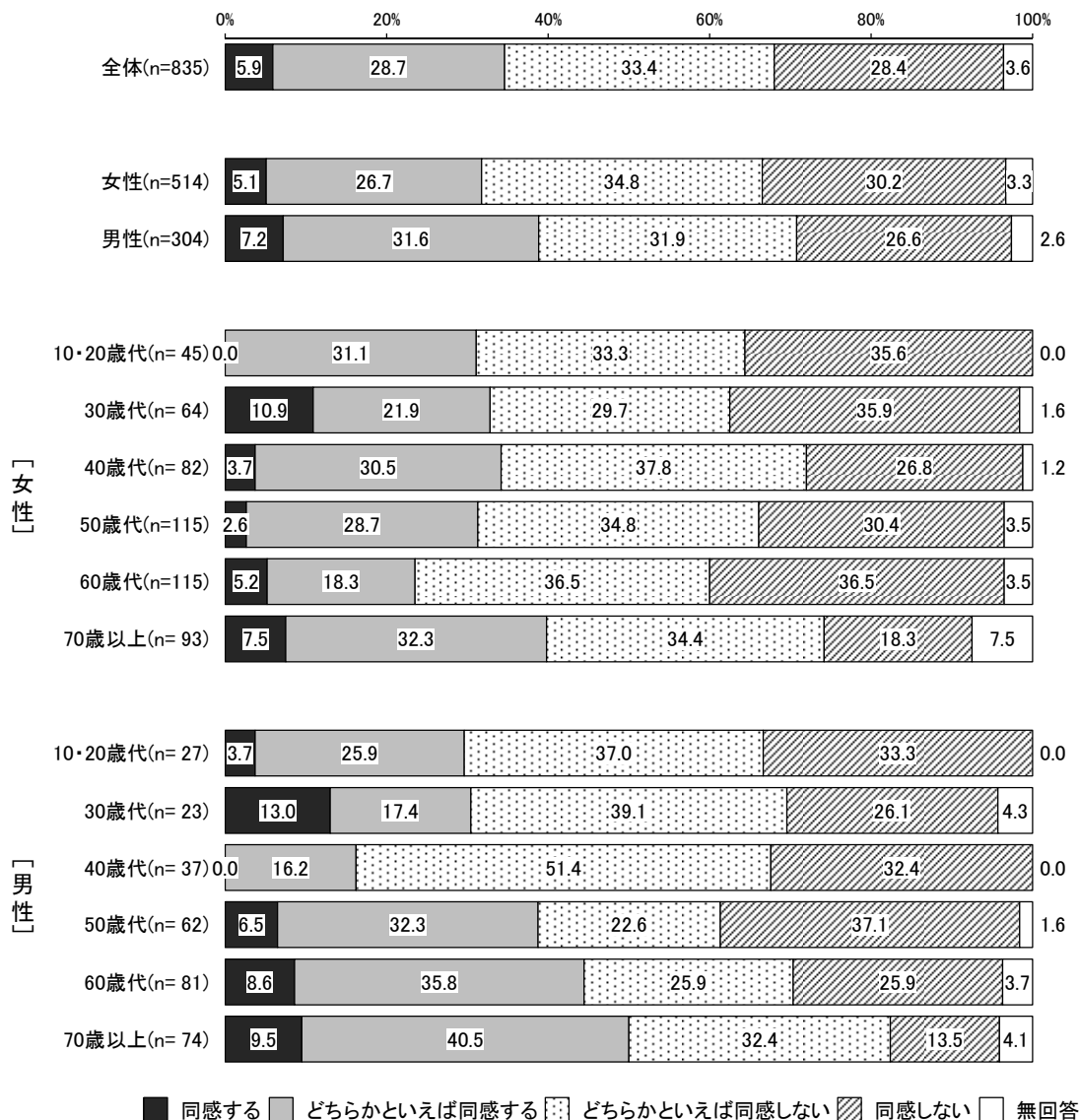
問23 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。【〇は1つ】

「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思うかたずねたところ、「どちらかといえば同感しない」(33.4%)と「同感しない」(28.4%)を合計した『反対派』が61.8%、「同感する」(5.9%)と「どちらかといえば同感する」(28.7%)を合計した『賛成派』が34.6%となっており、『反対派』が『賛成派』よりも27.2ポイント高くなっています。

性別にみると、『賛成派』は女性31.8%・男性38.8%、『反対派』は女性65.0%・男性58.5%で、女性の方が『反対派』の割合が高くなっています。

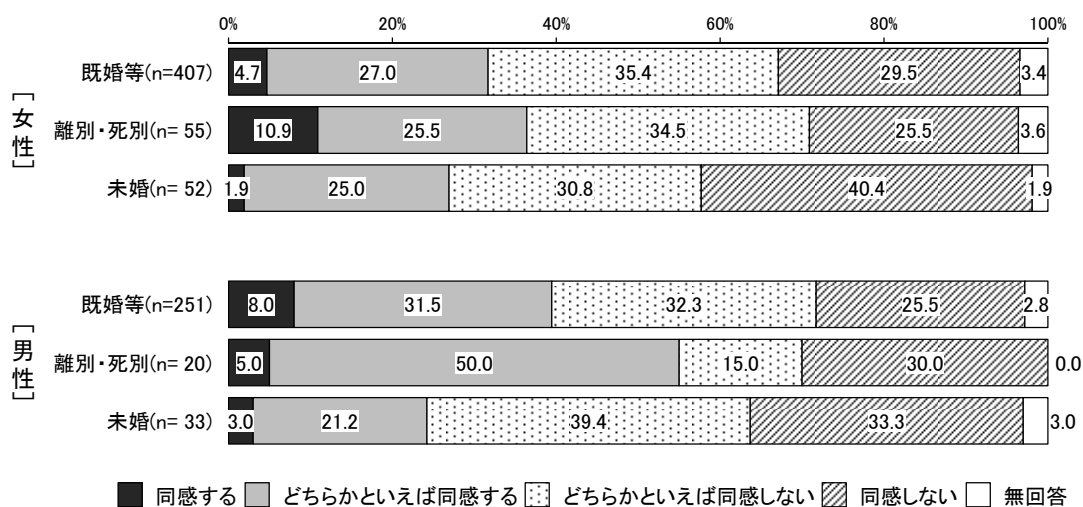
年齢別にみると、30歳代は「同感する」が女性10.9%・男性13.0%と他の年代よりやや高くなっています。男性の40歳代では「どちらかといえば同感しない」が51.4%と高く、『反対派』が83.8%を占めています。女性の70歳以上、男性の50歳以上では『賛成派』が約40~50%となっています。

図 性別、年齢別 「男は仕事、女は家庭」という考え方についての意識



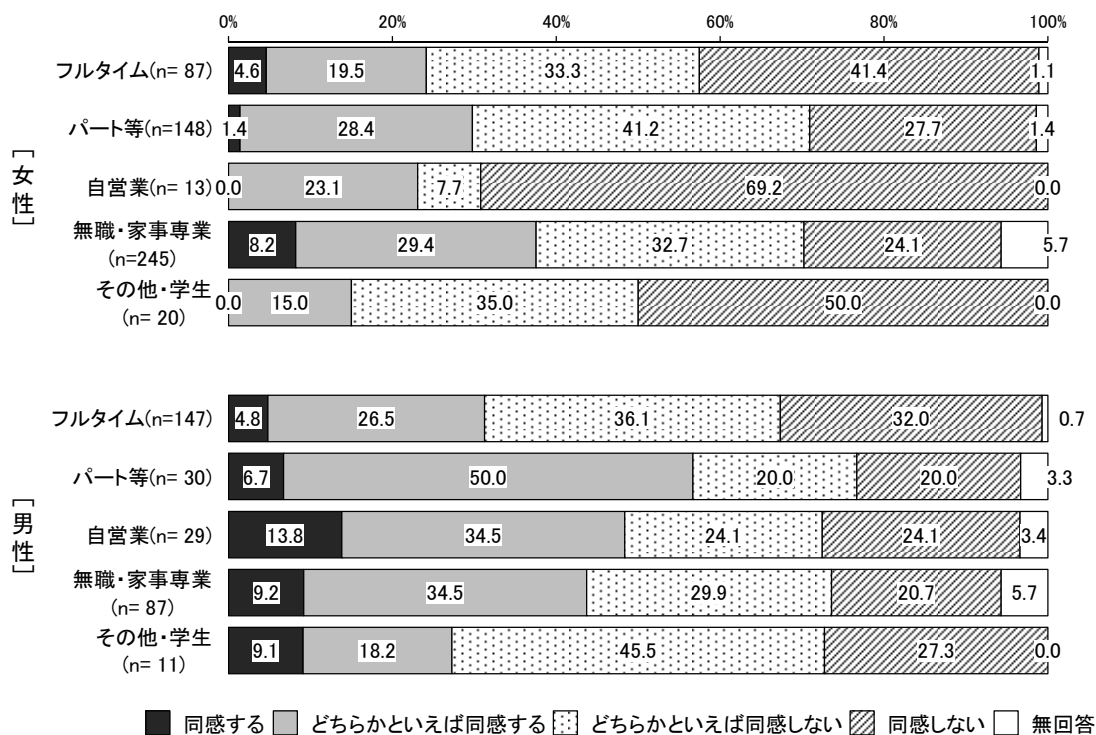
配偶関係別にみると、男女ともに既婚等と比べて、未婚は『反対派』、離別・死別は『賛成派』の割合が高くなっています。

図 配偶関係別 「男は仕事、女は家庭」という考え方についての意識



職業別にみると、フルタイムは男女ともに『反対派』が約70%と高くなっています。一方、無職・家事専業では、『賛成派』が女性37.6%・男性43.7%となっています。

図 職業別 「男は仕事、女は家庭」という考え方についての意識



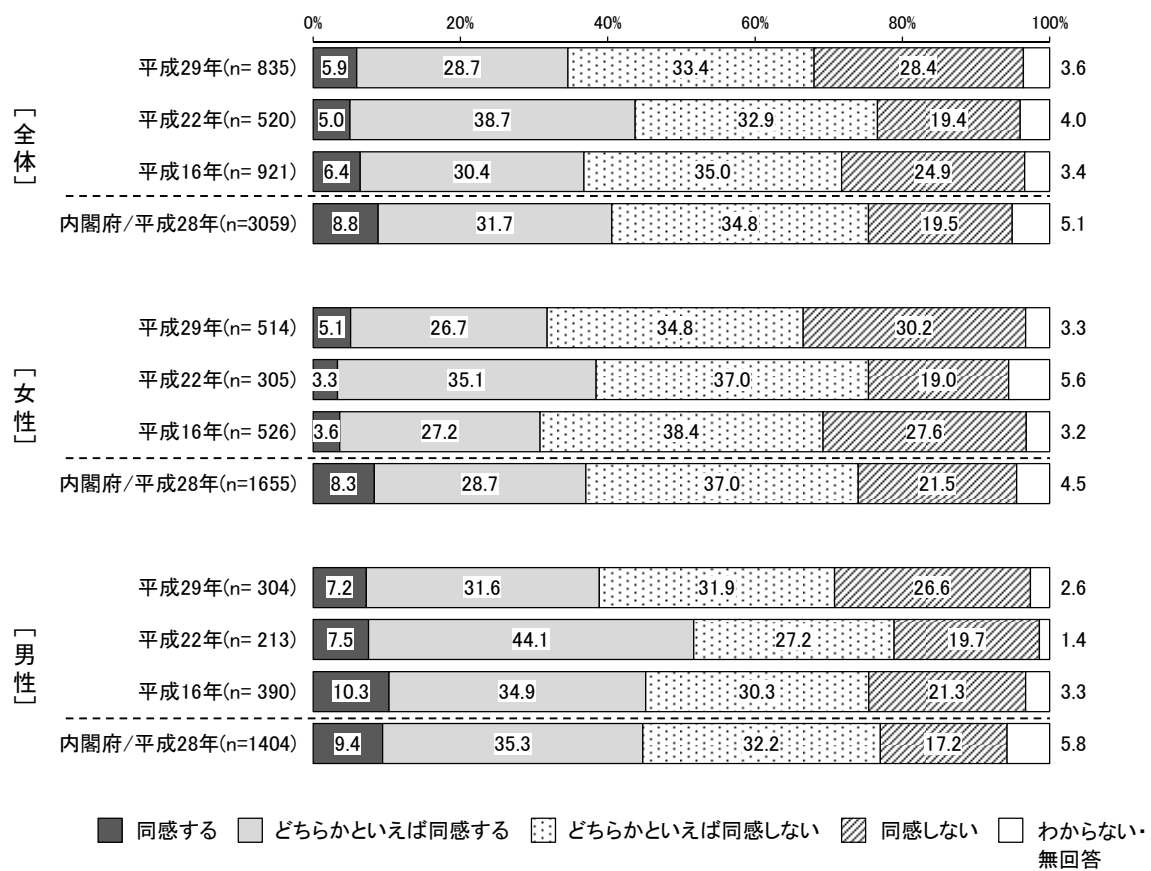
■ 過去調査、全国調査との比較

過去の調査（平成16年、平成22年）と比較すると、平成22年調査では、『賛成派』が全体で43.7%、性別では女性38.4%・男性51.6%と比較的高くなっていましたが、今回調査は平成22年調査より女性で6.6ポイント、男性で12.8ポイント低くなっています。平成16年調査と比べると、女性では『賛成派』の割合が同程度となっていますが、男性での『賛成派』の割合は平成16年調査では45.2%、今回調査では38.8%と、6.4ポイントの差がみられます。

内閣府が実施した全国調査（平成28年）と比較すると、今回調査は全国調査よりも『反対派』の割合が高く、女性では6.5ポイント差、男性では9.1ポイント差となっています。

図 性別「男は仕事、女は家庭」という考え方についての意識

ー 過去調査、全国調査との比較



注) 内閣府調査の選択肢は「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」「わからない」

■回答理由(自由記述)

<同感する／どちらかといえば同感する>

- ・女性が働く事には賛成ですが、妊娠するのも出産するのも女性だし、それを变える事はできないので。でも、育児は分担した方がいいとは思いますが。(女性 30 歳代)
- ・理想は子育てが必要な時は母親が家にいて、子どもを見守っていく方がよいと思うから。父親は外に出て働いてほしい。子どもが大きくなったら私も働いて家計を助きたい。(女性 10・20 歳代)
- ・男女平等が言われているが、根底には男性、女性の役割があると思うので、すべて同感とは言い切れないと思います。(女性 70 歳以上)
- ・経済的基盤がしっかりしていないと、安心して子育てはできない。現在の社会状況では男性の方が高収入の職に就く機会が多いため、男は仕事、女は家庭という方が安定した家庭を築けるのではないかと思う。(女性 40 歳代)
- ・うちの場合は夫がまったく家事や介護等は出来ない(育児は協力的でしたが…)。夫婦で分業化と割り切ってる。(女性 50 歳代)
- ・長年の習慣から。(男性 50 歳代)
- ・仕事と家庭の両立は難しいし、女性は家庭を守ってほしいという古い観念から抜けられない。(男性 60 歳代)
- ・細やかな気配りや世話はやはり女性の方が適していると思います。(女性 70 歳以上)

<同感しない／どちらかといえば同感しない>

- ・男性、女性にかかわらず自己のもてる能力を職場で最大限発揮できたらと思うから。(女性 70 歳以上)
- ・女性も仕事をしたいし、女性にしか出来ない仕事もある。男性も家事等平等にしてほしい。(女性 30 歳代)
- ・もう「男は仕事、女は家庭」という時代ではない。日本は少子化なのだから、北欧のようにならないといけないように思います。(女性 60 歳代)
- ・昔と違い現在はそういう時代ではない。男女平等である。(男性 60 歳代)
- ・仕事をしたい女性や、家庭内での仕事をしたい男性を苦しめる考え方だと思う。(女性 10・20 歳代)
- ・男女を問わず仕事に意欲と情熱があれば、古い考え方はしない方がよいと思います。(男性 40 歳代)
- ・性別で役割を決めてしまうのはこれからの時代にそぐわないと思う。得手不得手を考慮して個人が納得した生き方が出来ればよい。(女性 40 歳代)
- ・固定観念にとらわれる事なく、各々事情に応じて分担すればよい。(男性 60 歳代)
- ・男女は平等であり、家庭も仕事も同様に平等であるべきだと思う。(女性 40 歳代)
- ・男女共、それぞれが自立心を持ち、自分の事は自分でという気持ちを持たなければ生活は成り立ってゆかないと思う。(男性 70 歳以上)
- ・生活費の確保のために女性が働かざるを得ない社会だから。(女性 50 歳代)
- ・今は女性も責任ある仕事を持つ人が多い。家事全てを、女性が行うのは心身的に無理がある。家事は男性も負担すべき。(女性 50 歳代)
- ・その考え方があるから働く女性は両方をこなさなければならないと縛られて、一人で抱え込むことになるから。(女性 40 歳代)

(2) 女性の就労についての考え方

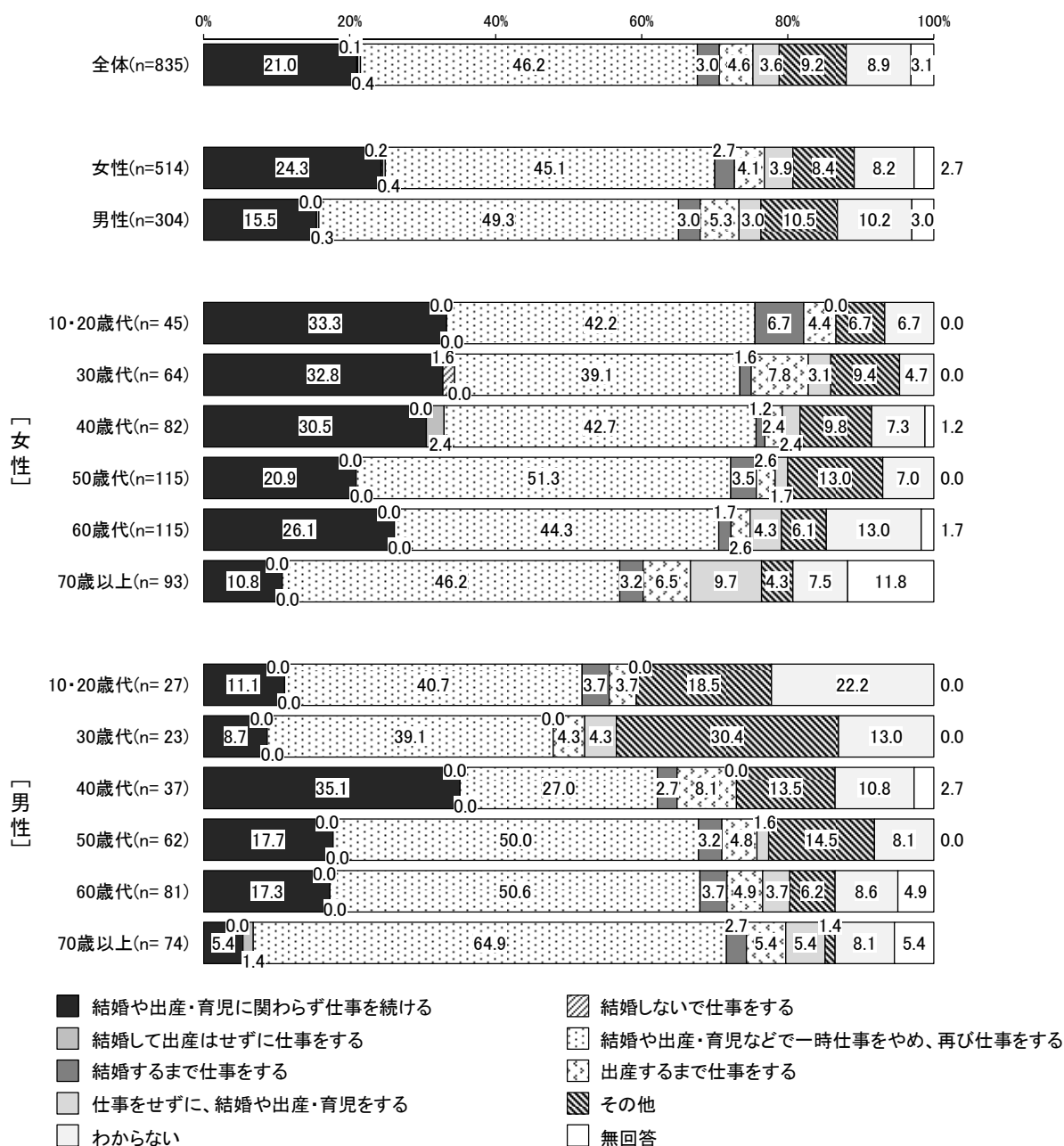
問2.4 女性の生き方・働き方について、あなたがよいと思うものはどれですか。【〇は1つ】

女性の生き方・働き方についてよいと思うものをたずねたところ、「結婚や出産・育児などで一時仕事をやめ、再び仕事をする」が46.2%、「結婚や出産・育児に関わらず仕事を続ける」が21.0%となっています。

性別にみると、女性では「結婚や出産・育児に関わらず仕事を続ける」が24.3%で、男性の15.5%より8.8ポイント高くなっています。

年齢別にみると、女性の10～40歳代と男性の40歳代では「結婚や出産・育児に関わらず仕事を続ける」が30%以上となっています。

図 性別、年齢別 女性の就労についての考え方



(3)女性の昇進についての考え方

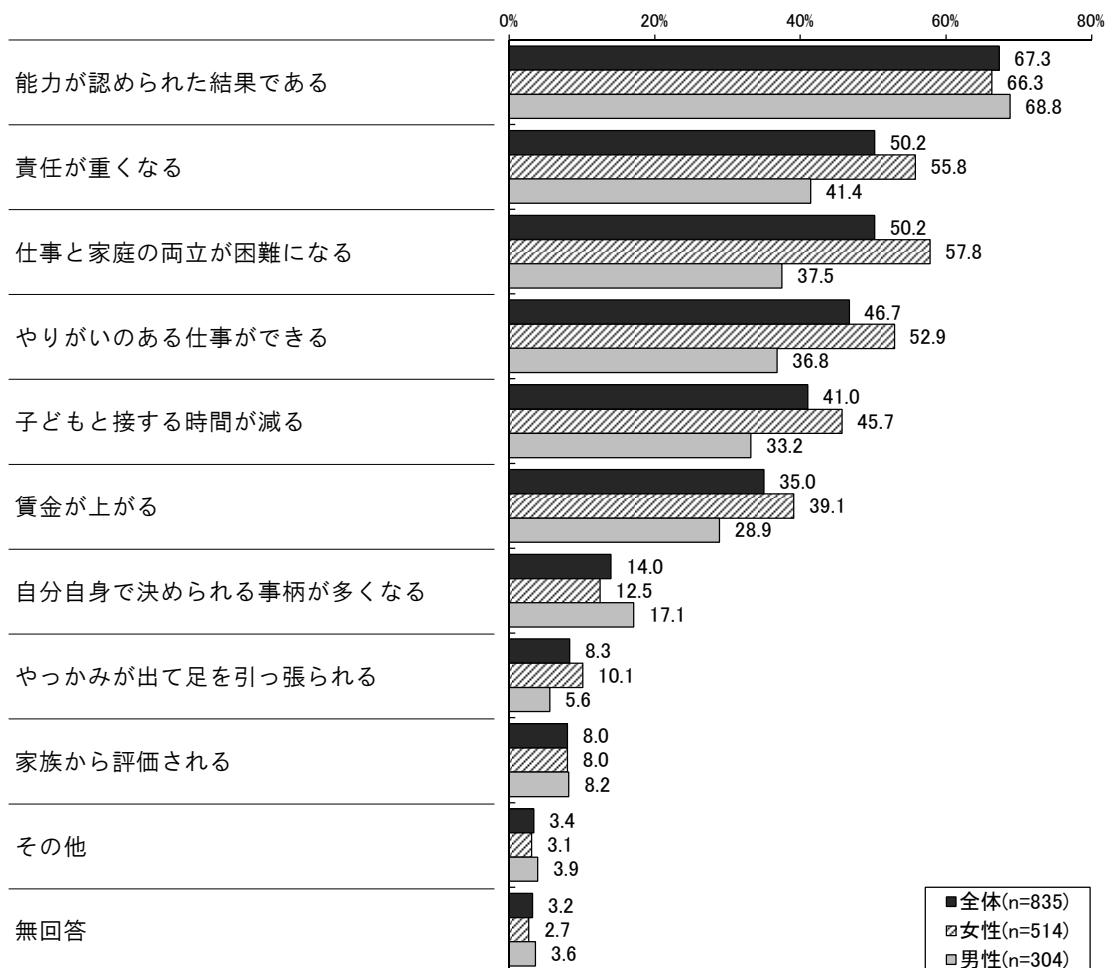
問25 あなたは、女性が管理職以上に昇進することについてどのようなイメージをもっていますか。

【あてはまるものすべてに○】

女性の管理職以上への昇進についてのイメージをたずねたところ、「能力が認められた結果である」が67.3%で最も高く、次いで「責任が重くなる」と「仕事と家庭の両立が困難になる」がともに50.2%、「やりがいのある仕事ができる」が46.7%、「子どもと接する時間が減る」が41.0%、「賃金が上がる」が35.0%となっています。

性別にみると、女性は「責任が重くなる」「仕事と家庭の両立が困難になる」「やりがいのある仕事ができる」「子どもと接する時間が減る」「賃金が上がる」がいずれも10ポイント以上男性よりも高く、特に「仕事と家庭の両立が困難になる」については女性57.8%・男性37.5%と20.3ポイントの差がみられます。

図 性別 女性の昇進についての考え方



年齢別にみると、女性の10～50歳代では、「賃金が上がる」が40%以上となっています。女性の30歳代は、「能力が認められた結果である」「仕事と家庭の両立が困難になる」「子どもと接する時間が減る」が60%以上、40・50歳代では、「能力が認められた結果である」「責任が重くなる」「仕事と家庭の両立が困難になる」が60%以上となっています。

男性では、10・20歳代の「能力が認められた結果である」(85.2%)、30歳代の「賃金が上がる」(52.2%)が他の年代よりも割合が高くなっています。

職業別にみると、女性のフルタイムでは「仕事と家庭の両立が困難になる」が65.5%で最も高く、次いで「能力が認められた結果である」が64.4%となっています。パート等では、「能力が認められた結果である」が73.6%で最も高く、次いで「責任が重くなる」が64.9%、「仕事と家庭の両立が困難になる」が64.2%となっています。

表 年齢別、職業別 女性の昇進についての考え方

	回答者数(n)	能力が認められた結果である	責任が重くなる	仕事と家庭の両立が困難になる	やりがいのある仕事ができる	子どもと接する時間が減る	賃金が上がる	自分自身で決められる事柄が多くなる	自分自身で決められる事柄が多くなる	家族から評価される	その他	無回答	
全体	835	67.3	50.2	50.2	46.7	41.0	35.0	14.0	8.3	8.0	3.4	3.2	
女性	10・20歳代	45	75.6	48.9	60.0	55.6	37.8	46.7	2.2	8.9	8.9	-	-
	30歳代	64	70.3	57.8	65.6	56.3	62.5	46.9	17.2	10.9	7.8	1.6	-
	40歳代	82	68.3	62.2	68.3	57.3	50.0	46.3	9.8	13.4	7.3	4.9	1.2
	50歳代	115	72.2	63.5	63.5	53.9	46.1	40.0	13.0	9.6	7.8	3.5	-
	60歳代	115	69.6	56.5	52.2	53.9	44.3	39.1	15.7	13.9	7.0	2.6	0.9
	70歳以上	93	46.2	41.9	41.9	43.0	35.5	22.6	11.8	3.2	9.7	4.3	12.9
	男性	10・20歳代	27	85.2	14.8	37.0	25.9	29.6	25.9	22.2	11.1	18.5	3.7
30歳代		23	65.2	52.2	34.8	39.1	39.1	52.2	17.4	-	13.0	13.0	-
40歳代		37	67.6	32.4	35.1	37.8	35.1	35.1	21.6	2.7	5.4	2.7	2.7
50歳代		62	71.0	40.3	30.6	40.3	27.4	32.3	17.7	-	4.8	4.8	-
60歳代		81	67.9	46.9	43.2	37.0	39.5	29.6	12.3	11.1	4.9	4.9	4.9
70歳以上		74	63.5	47.3	39.2	36.5	29.7	16.2	17.6	5.4	10.8	-	6.8
女性		フルタイム	87	64.4	56.3	65.5	51.7	48.3	40.2	11.5	10.3	6.9	4.6
	パート等	148	73.6	64.9	64.2	52.7	49.3	47.3	10.8	12.2	8.8	1.4	0.7
	自営業	13	84.6	53.8	46.2	53.8	46.2	53.8	15.4	23.1	15.4	7.7	-
	無職・家事専業	245	61.6	49.8	51.8	52.7	44.5	33.1	14.7	9.0	7.3	3.7	5.3
	その他・学生	20	65.0	60.0	55.0	65.0	25.0	40.0	-	-	10.0	-	-
男性	フルタイム	147	72.1	41.5	34.0	40.8	33.3	38.1	19.0	2.7	8.2	5.4	1.4
	パート等	30	63.3	46.7	63.3	40.0	36.7	26.7	16.7	13.3	3.3	3.3	10.0
	自営業	29	65.5	44.8	34.5	31.0	31.0	20.7	13.8	3.4	6.9	-	-
	無職・家事専業	87	65.5	41.4	35.6	31.0	32.2	18.4	16.1	8.0	11.5	3.4	5.7
	その他・学生	11	72.7	18.2	36.4	36.4	36.4	18.2	9.1	9.1	-	-	9.1

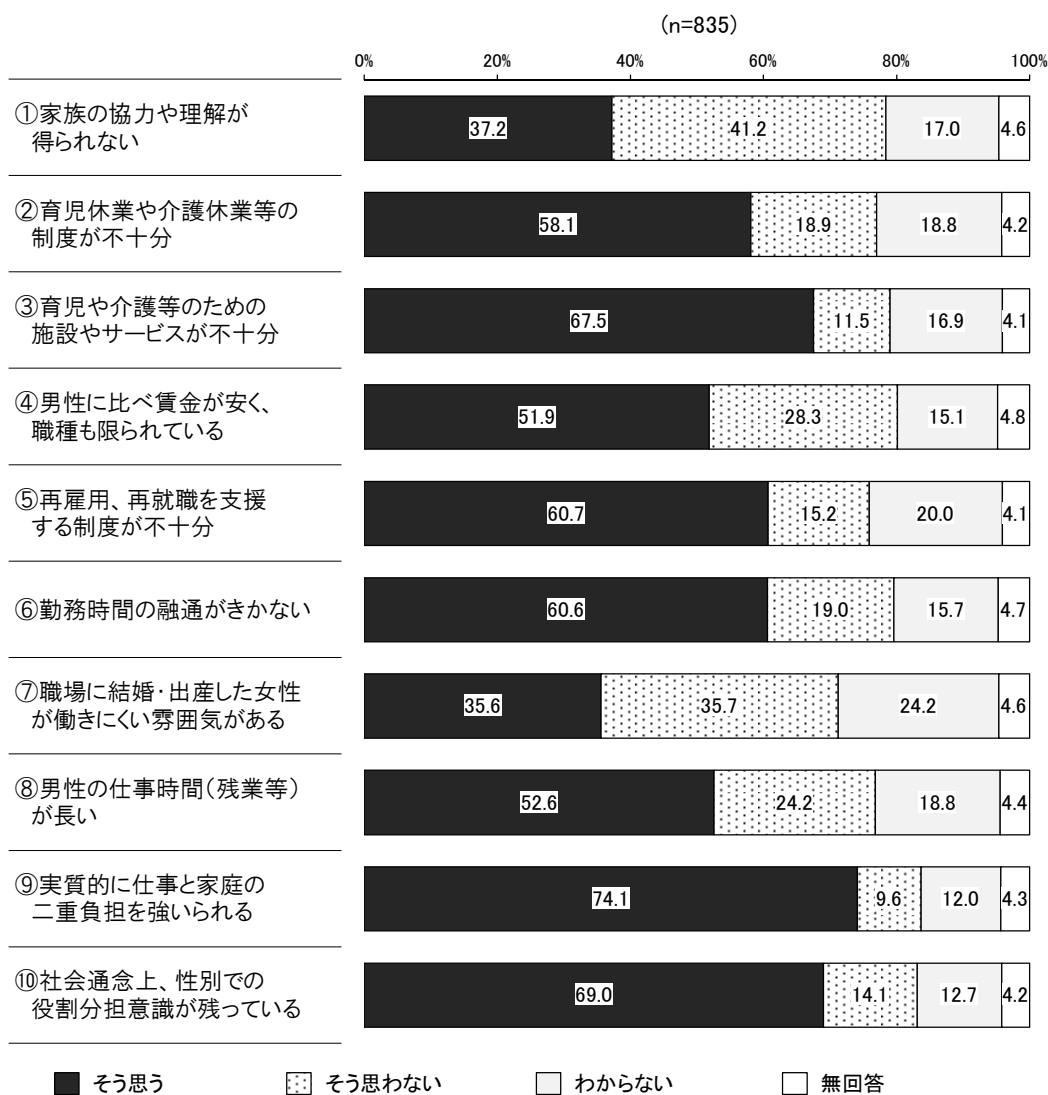
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示します。

(4) 女性が仕事を続けていく上で支障となるもの

問26 あなたは、女性が仕事を続けていく上で、次の項目が支障となっていると思いますか。【〇は各項目1つ】

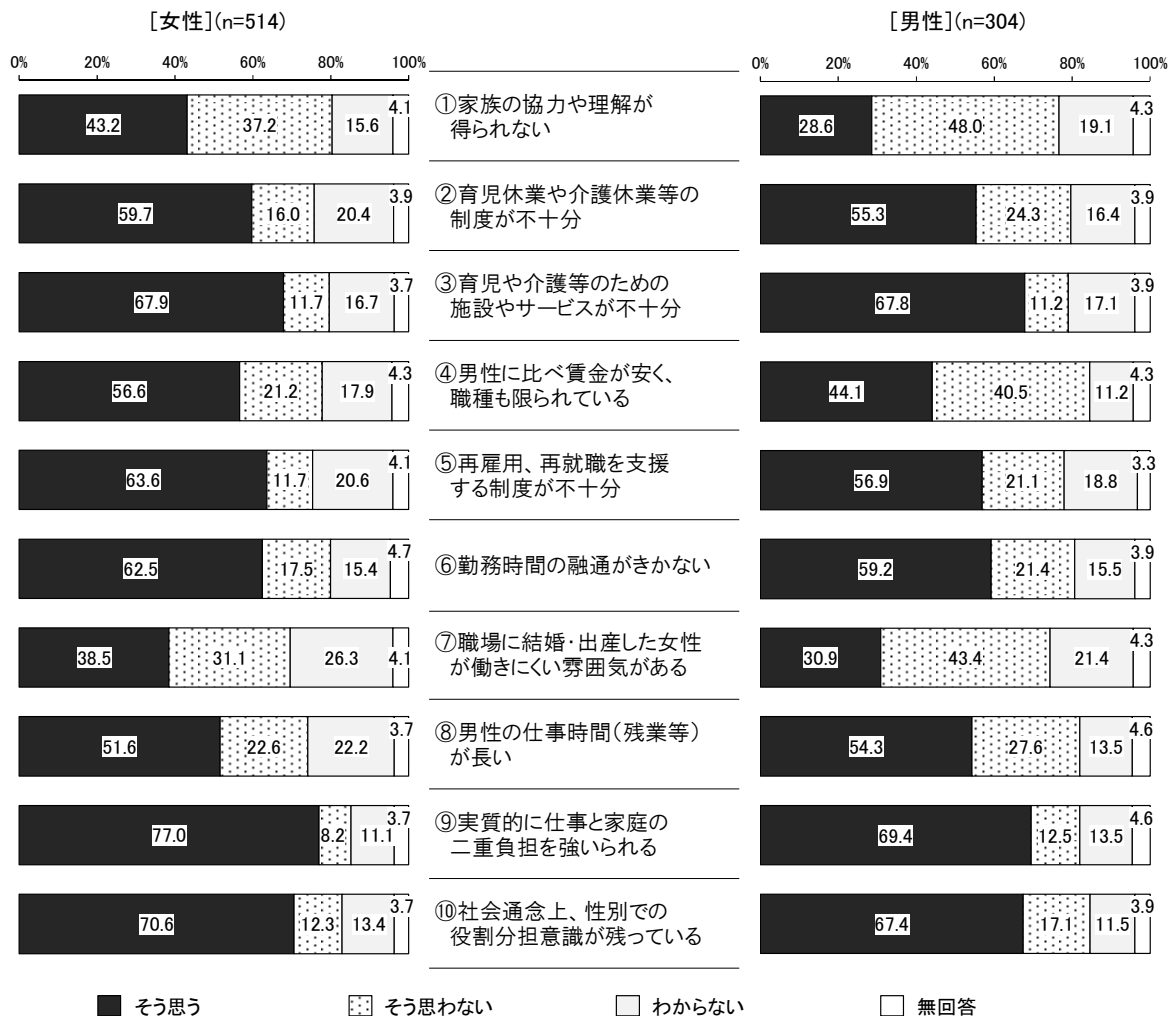
女性が仕事を続けていく上で支障となるものをたずねたところ、「そう思う」が、「⑨実質的に仕事と家庭の二重負担を強いられる」「⑩社会通念上、性別での役割分担意識が残っている」「③育児や介護等のための施設やサービスが不十分」で約70%、「⑤再雇用、再就職を支援する制度が不十分」「⑥勤務時間の融通がきかない」「②育児休業や介護休業等の制度が不十分」が約60%と高くなっています。

図 女性が仕事を続けていく上で支障となるもの



性別にみると、「①家族の協力や理解が得られない」への「そう思う」は女性43.2%・男性28.6%、「④男性に比べ賃金が安く、職種も限られている」への「そう思う」は女性56.6%・男性44.1%と、どちらも女性の方が10ポイント以上高くなっています。

図 性別 女性が仕事を続けていく上で支障となるもの



年齢別に「そう思う」の割合をみると、女性の10・20歳代では「⑤再雇用、再就職を支援する制度が不十分」が75.6%と高くなっています。30歳代は、「⑨実質的に仕事と家庭の二重負担を強いられる」と「⑥勤務時間の融通がきかない」が80%以上、40歳代は、「⑨実質的に仕事と家庭の二重負担を強いられる」と「③育児や介護等のための施設やサービスが不十分」が80%以上と高くなっています。また、女性の30～50歳代では「①家族の協力や理解が得られない」が約50～60%と他の年代よりも高くなっています。

男性では、10・20歳代は「③育児や介護等のための施設やサービスが不十分」が77.8%と高く、30歳代では、「⑨実質的に仕事と家庭の二重負担を強いられる」「③育児や介護等のための施設やサービスが不十分」「⑩社会通念上、性別での役割分担意識が残っている」「⑧男性の仕事時間（残業等）が長い」が70%以上となっています。

職業別にみると、女性のフルタイムでは「⑨実質的に仕事と家庭の二重負担を強いられる」が85.1%、「⑥勤務時間の融通がきかない」が77.0%、「③育児や介護等のための施設やサービスが不十分」が75.9%、「⑤再雇用、再就職を支援する制度が不十分」が70.1%となっています。

表 年齢別 女性が仕事を続けていく上で支障となるもの - 「そう思う」の割合

	回答者数(n)	①家族の協力や理解が得られない	②育児休業や介護休業等の制度が不十分	③育児や介護等のための施設やサービスが不十分	④男性に比べ賃金が安く、職種も限られている	⑤再雇用、再就職を支援する制度が不十分	⑥勤務時間の融通がきかない	⑦職場に結婚・出産した女性が働きにくい雰囲気がある	⑧男性の仕事時間（残業等）が長い	⑨実質的に仕事と家庭の二重負担を強いられる	⑩社会通念上、性別での役割分担意識が残っている	
全体	835	37.2	58.1	67.5	51.9	60.7	60.6	35.6	52.6	74.1	69.0	
女性	10・20歳代	45	26.7	57.8	66.7	48.9	75.6	60.0	40.0	75.6	68.9	
	30歳代	64	57.8	64.1	70.3	54.7	60.9	81.3	45.3	64.1	73.4	
	40歳代	82	53.7	59.8	81.7	64.6	74.4	67.1	40.2	57.3	82.9	
	50歳代	115	49.6	60.9	73.0	58.3	57.4	64.3	33.0	52.2	80.0	
	60歳代	115	40.9	66.1	69.6	59.1	67.8	63.5	39.1	50.4	78.3	
	70歳以上	93	26.9	48.4	46.2	49.5	52.7	43.0	37.6	44.1	60.2	55.9
	男性	10・20歳代	27	37.0	63.0	77.8	40.7	63.0	51.9	33.3	59.3	74.1
30歳代		23	30.4	60.9	82.6	39.1	52.2	65.2	39.1	73.9	87.0	78.3
40歳代		37	35.1	51.4	64.9	35.1	54.1	48.6	18.9	54.1	75.7	56.8
50歳代		62	27.4	43.5	62.9	41.9	56.5	61.3	19.4	51.6	61.3	66.1
60歳代		81	22.2	65.4	71.6	50.6	56.8	65.4	37.0	49.4	65.4	63.0
70歳以上		74	29.7	51.4	60.8	45.9	58.1	56.8	36.5	54.1	70.3	74.3
女性		フルタイム	87	47.1	62.1	75.9	62.1	70.1	77.0	41.4	59.8	85.1
	パート等	148	48.6	60.8	68.9	59.5	64.9	60.8	29.1	51.4	77.0	76.4
	自営業	13	53.8	76.9	76.9	46.2	61.5	76.9	38.5	61.5	92.3	92.3
	無職・家事専業	245	39.2	57.1	64.1	53.5	59.6	58.8	42.9	50.6	73.9	67.3
	その他・学生	20	30.0	65.0	65.0	55.0	75.0	50.0	45.0	25.0	70.0	75.0
男性	フルタイム	147	32.0	54.4	68.7	42.2	61.2	63.3	25.2	57.8	74.1	66.7
	パート等	30	30.0	46.7	66.7	46.7	53.3	50.0	33.3	50.0	66.7	76.7
	自営業	29	6.9	44.8	62.1	37.9	51.7	41.4	27.6	37.9	55.2	65.5
	無職・家事専業	87	29.9	60.9	66.7	46.0	51.7	63.2	39.1	56.3	70.1	67.8
	その他・学生	11	27.3	72.7	81.8	63.6	63.6	45.5	45.5	45.5	45.5	54.5

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示します。

6. DV（ドメスティック・バイオレンス）について

(1)DVの認知度

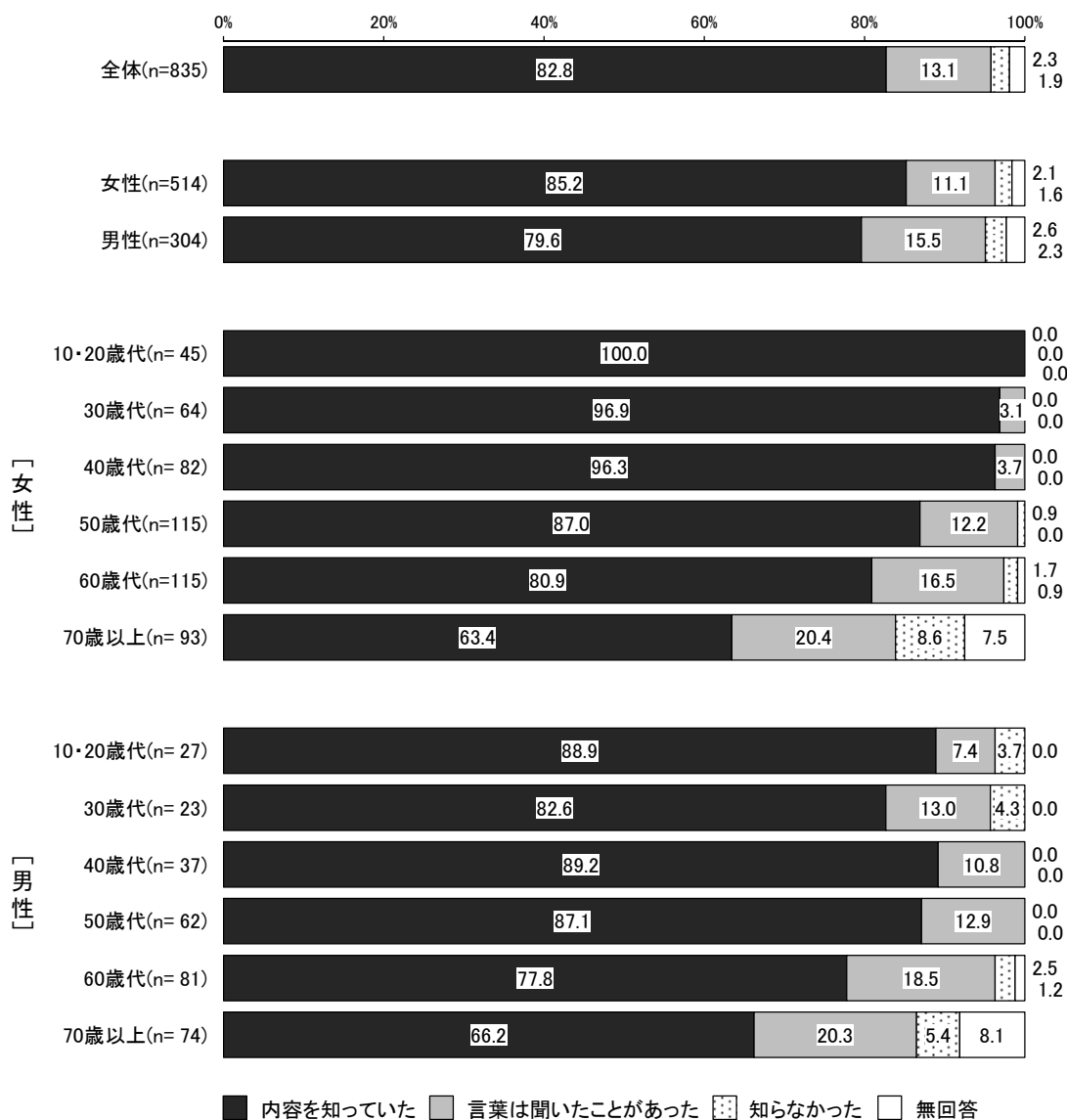
問27 あなたはDVとは何か知っていましたか。【〇は1つ】

DVとは何か知っているかたずねたところ、「内容を知っていた」が82.8%、「言葉は聞いたことがあった」が13.1%を占め、「知らなかった」は2.3%となっています。

性別にみると、「内容を知っていた」は女性85.2%・男性79.6%で、女性の方が5.6ポイント高くなっています。

年齢別にみると、女性は、10～40歳代では「内容を知っていた」が95%以上と高く、50歳以上の年代で「言葉は聞いたことがあった」が10%以上となっています。男性は10～50歳代で「内容を知っていた」が約80～90%、「言葉は聞いたことがあった」が約10%、60歳以上では「言葉は聞いたことがあった」が約20%となっています。

図 性別、年齢別 DVの認知度

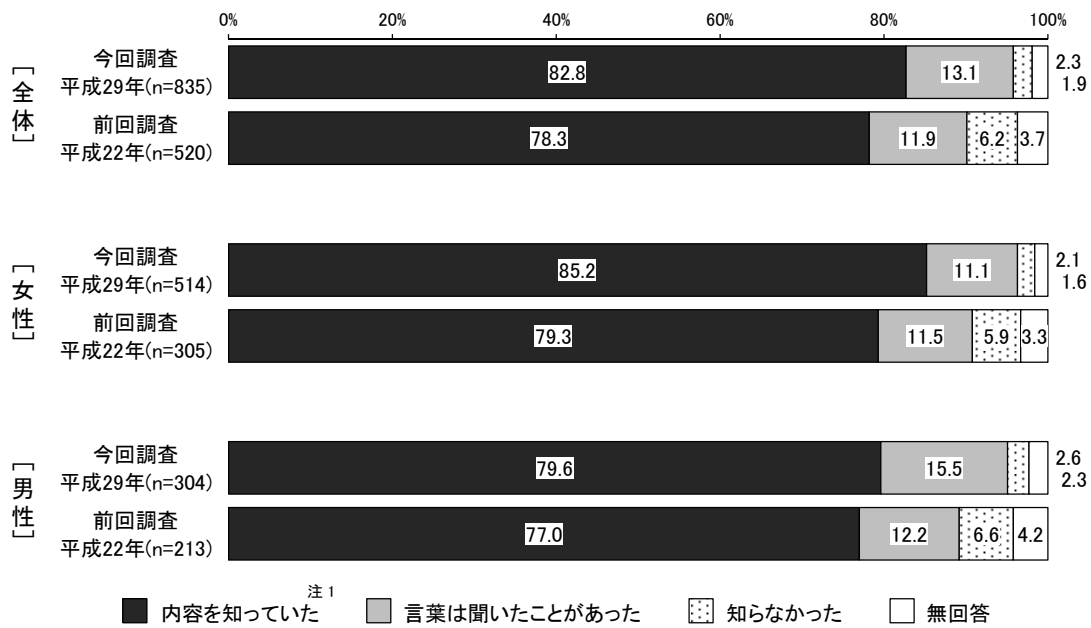


■ 前回調査との比較

前回調査（平成22年）と比較すると、前回調査でもDVの認知度は高く「知っていた」が女性79.3%・男性77.0%を占めています。今回調査では、「内容を知っていた」が女性85.2%・男性79.6%と、DVの認知度はより一層高くなり、「知らなかった」が3%未満となっています。

性別にみると、前回調査と比べて今回調査は、女性では「内容を知っていた」が5.9ポイント高く、男性では「内容を知っていた」が2.6ポイント、「言葉は聞いたことがあった」が3.3ポイント高くなっています。

図 性別 DVの認知度 — 前回調査との比較



注1) 前回調査では「知っていた」

(2)デートDVの認知度

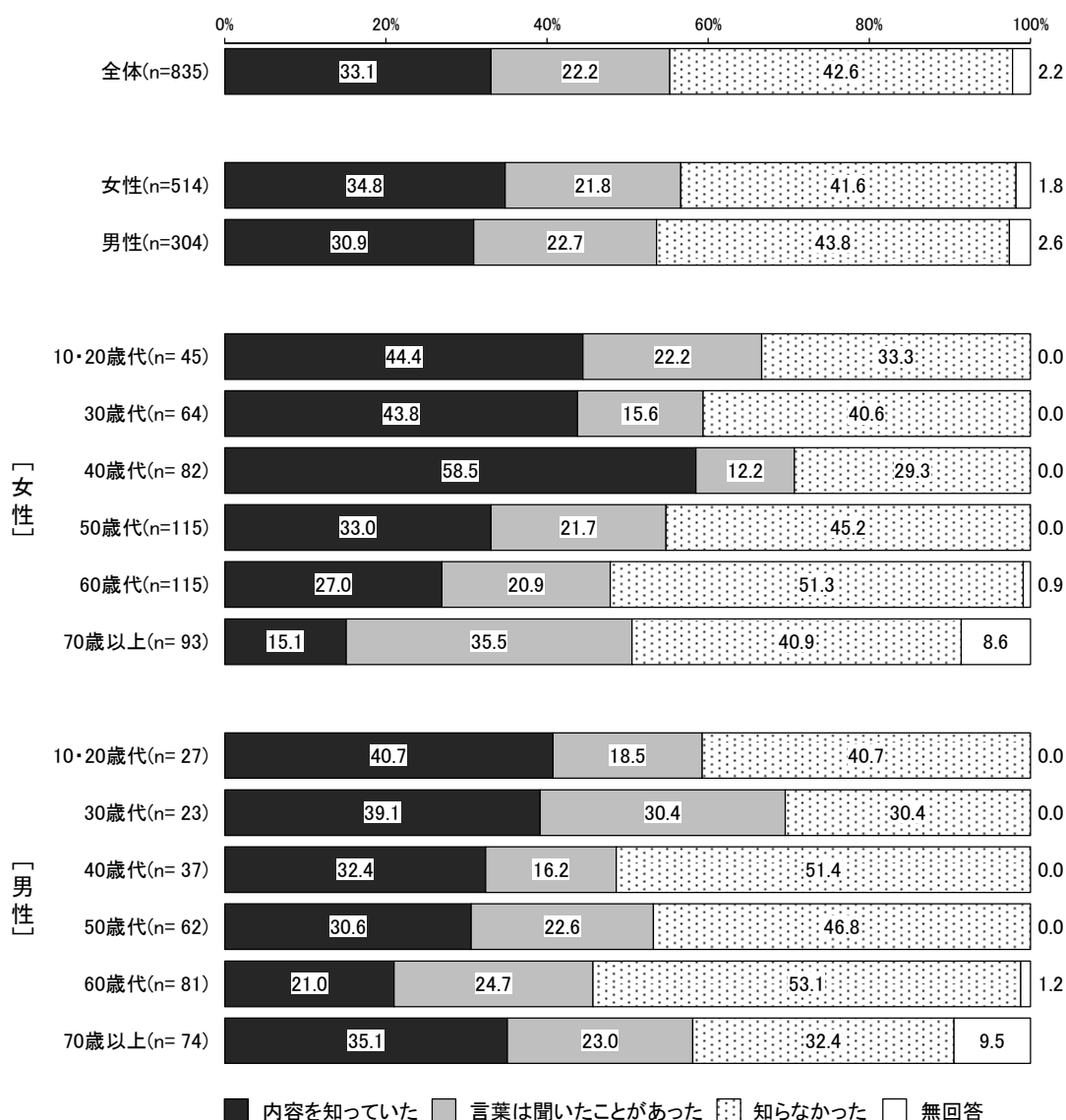
問28 あなたはデートDVとは何か知っていましたか。【〇は1つ】

デートDVとは何か知っているかたずねたところ、「内容を知っていた」(33.1%)と「言葉は聞いたことがあった」(22.2%)を合計した『知っていた』が55.3%で、「知らなかった」の42.6%を上回っています。

性別にみると、『知っていた』の割合は女性56.6%・男性53.6%で女性の方やや高くなっています。

年齢別にみると、女性の10～40歳代、男性の10～30歳代では「内容を知っていた」が約40～60%と高くなっています。

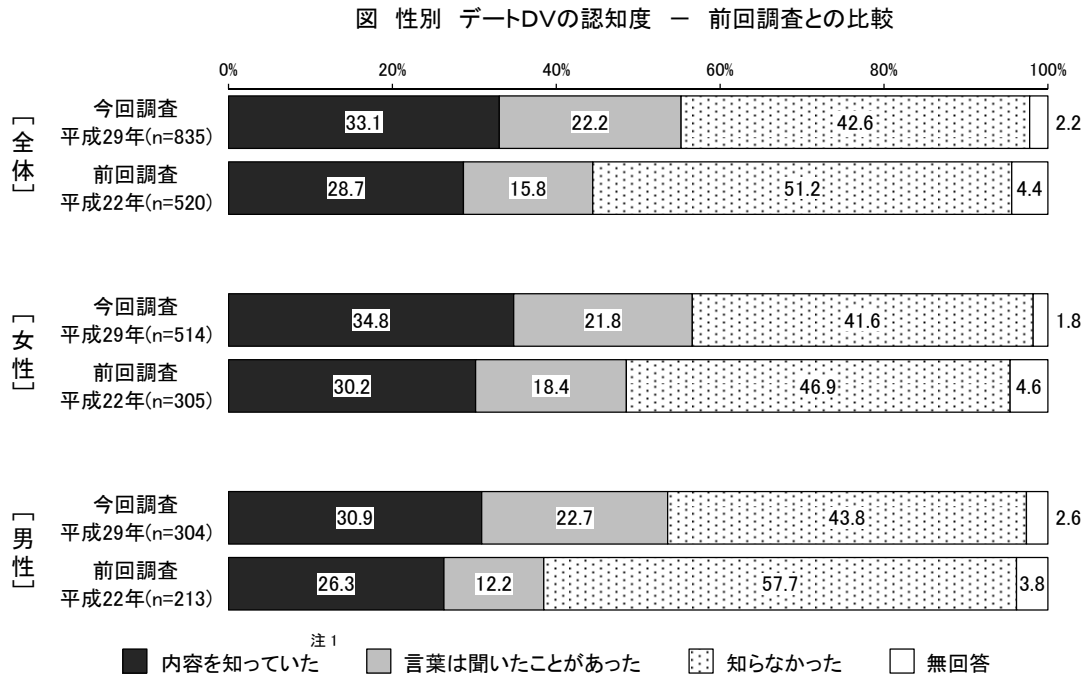
図 性別、年齢別 デートDVの認知度



■ 前回調査との比較

前回調査（平成22年）と比較すると、前回調査では、「知らなかった」が50%以上となっていますが、今回調査は前回調査よりも「内容を知っていた」と「言葉は聞いたことがあった」がそれぞれ約5ポイント高く、「知らなかった」が8.6ポイント低くなっています。

性別にみると、女性よりも男性で前回調査との違いが大きくなっています。



注1) 前回調査では「知っていた」

(3)DV(デートDV)の被害状況

問29 あなたは今までにDV(デートDV)の被害にあったことがありますか。【○は各項目1つ】

今までにDV(デートDV)の被害にあったことがあるかたずねたところ、性別では、「①殴る、蹴る、物を投げつける、突き飛ばす等の暴行」について「自分自身が一、二度被害にあったことがある」が女性で7.0%、「自分ではなく、友人・知人に被害にあった人がいる」が女性で7.6%となっています。「②恐怖を感じる脅迫、無視、人格を否定するような暴言等」は「自分自身が何度も被害にあったことがある」が女性で4.5%、「自分自身が一、二度被害にあったことがある」が女性で7.2%、また「自分ではなく、友人・知人に被害にあった人がいる」が女性7.4%・男性7.2%となっています。

図 DV(デートDV)の被害状況

(n=835)

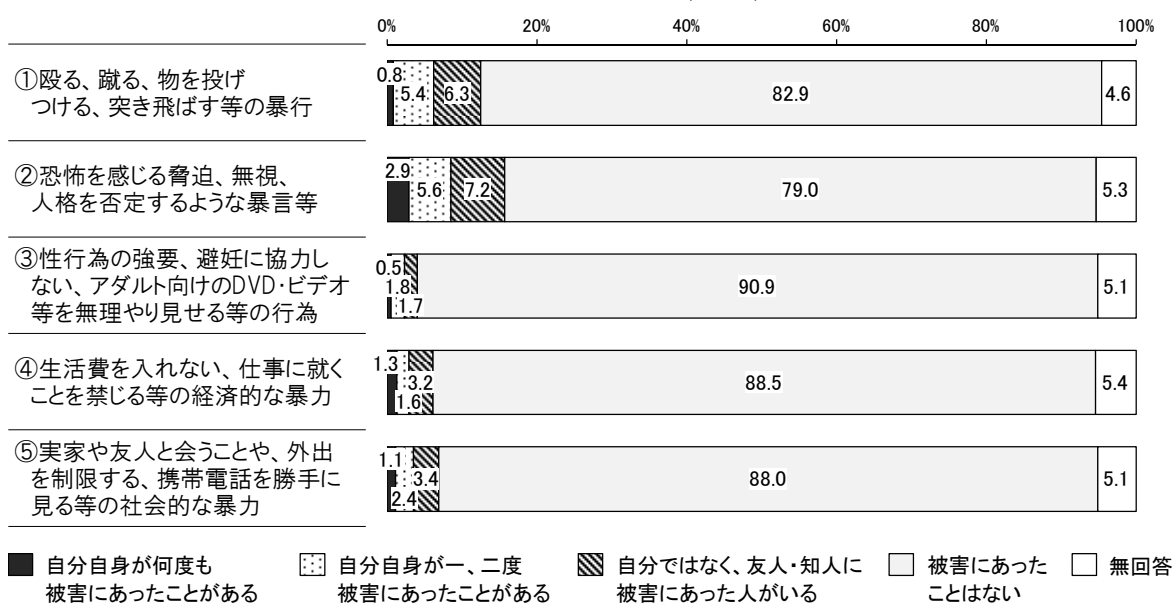
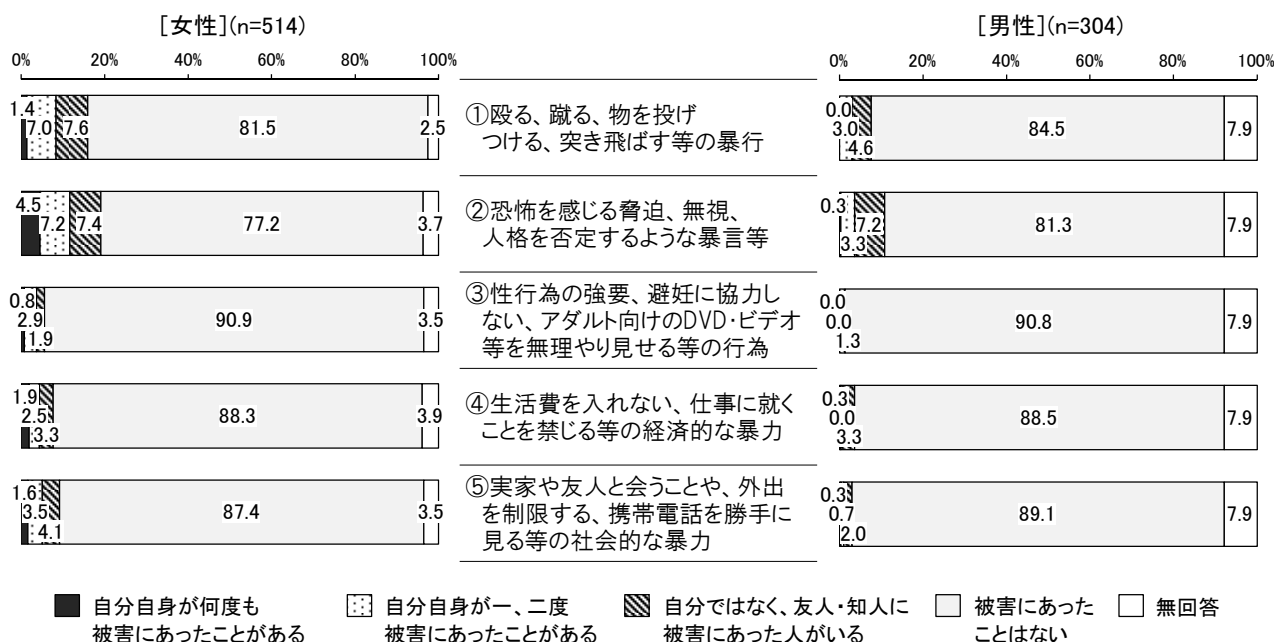


図 性別 DV(デートDV)の被害状況



(4)DV(デートDV)被害の相談状況

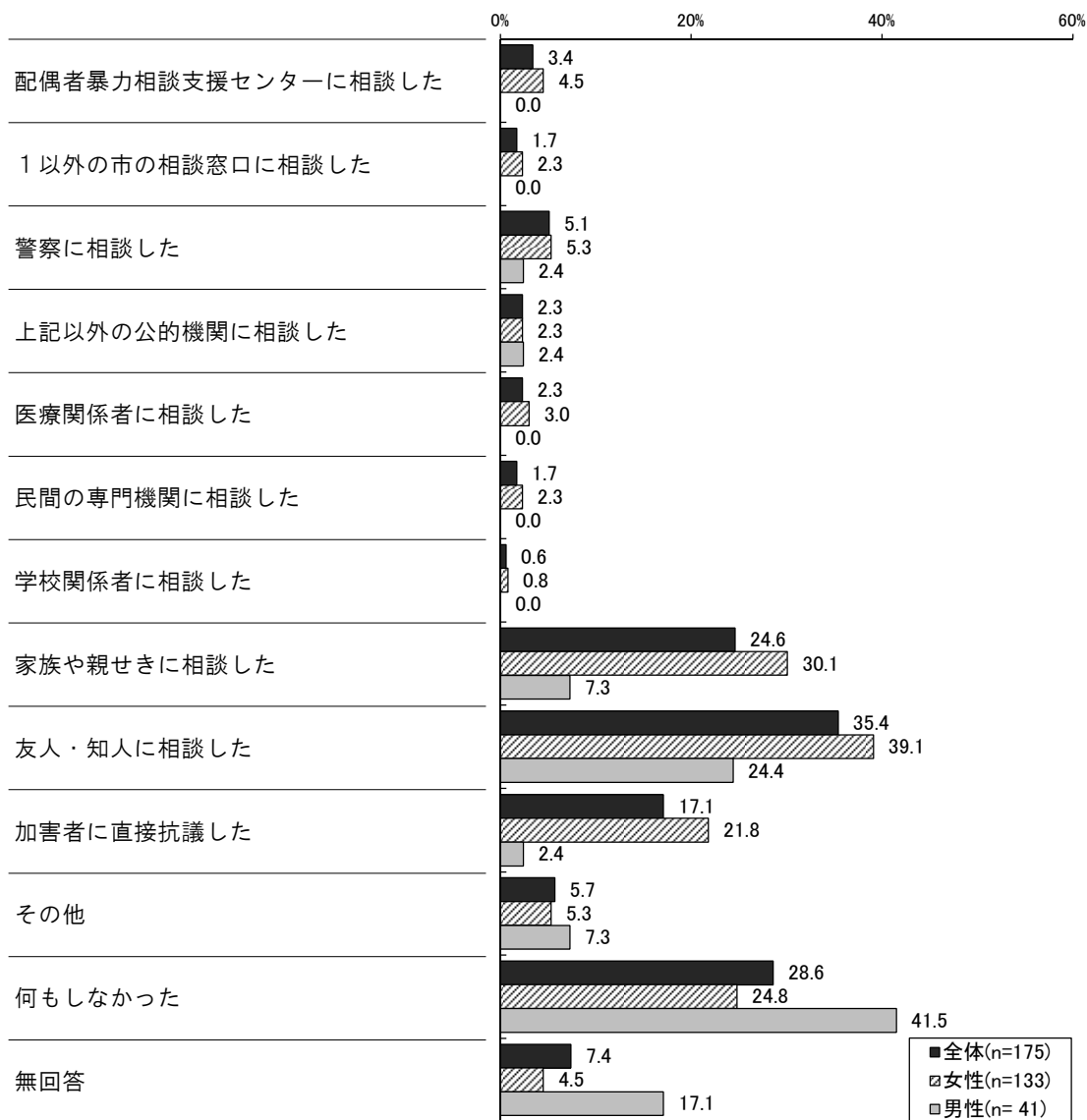
問30は、問29で「何度も被害にあったことがある」「一、二度被害にあったことがある」「自分ではなく、友人・知人に被害にあった人がいる」と答えた方におたずねします。

問30 そのとき、だれかに打ち明けたり相談したりしましたか。【あてはまるものすべてに○】

DV(デートDV)を経験したり、身近な人に被害にあった人がいたりする人に、そのことを誰かに打ち明けたり相談したりしたかたずねたところ、「友人・知人に相談した」が35.4%で最も高く、次いで「何もしなかった」が28.6%、「家族や親せきに相談した」が24.6%、「加害者に直接抗議した」が17.1%となっています。

性別にみると、女性は「友人・知人に相談した」「家族や親せきに相談した」「加害者に直接抗議した」が男性よりも約15~20ポイント高く、「友人・知人に相談した」が最も割合の高い項目となっています。男性は「何もしなかった」が41.5%で最も割合の高い項目となっています。

図 性別 DV(デートDV)被害の相談状況



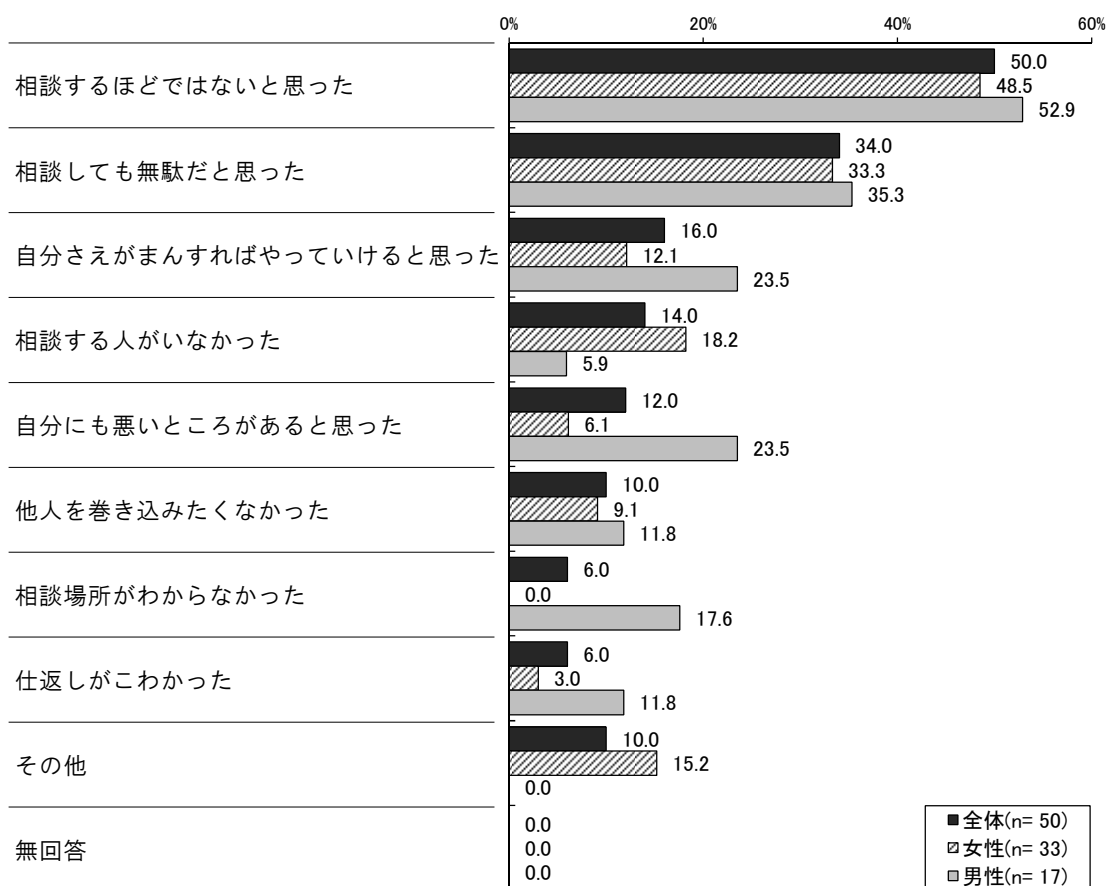
(5)DV(デートDV)被害を相談しなかった理由

問31は、問30で「12 何もしなかった」と答えた方におたずねします。

問31 あなたが、だれ(どこ)にも相談しなかったのは、なぜですか。【あてはまるものすべてに○】

DV(デートDV)について何も相談しなかった人にその理由をたずねたところ、「相談するほどではないと思った」が50.0%で最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」が34.0%、「自分さえがまんすればやっていけると思った」が16.0%、「相談する人がいなかった」が14.0%、「自分にも悪いところがあると思った」が12.0%、「他人を巻き込みたくなかった」と「その他」がともに10.0%、「相談場所がわからなかった」と「仕返しがこわかった」がともに6.0%となっています。

図 性別 DV(デートDV)被害を相談しなかった理由



7. 市の施策等について

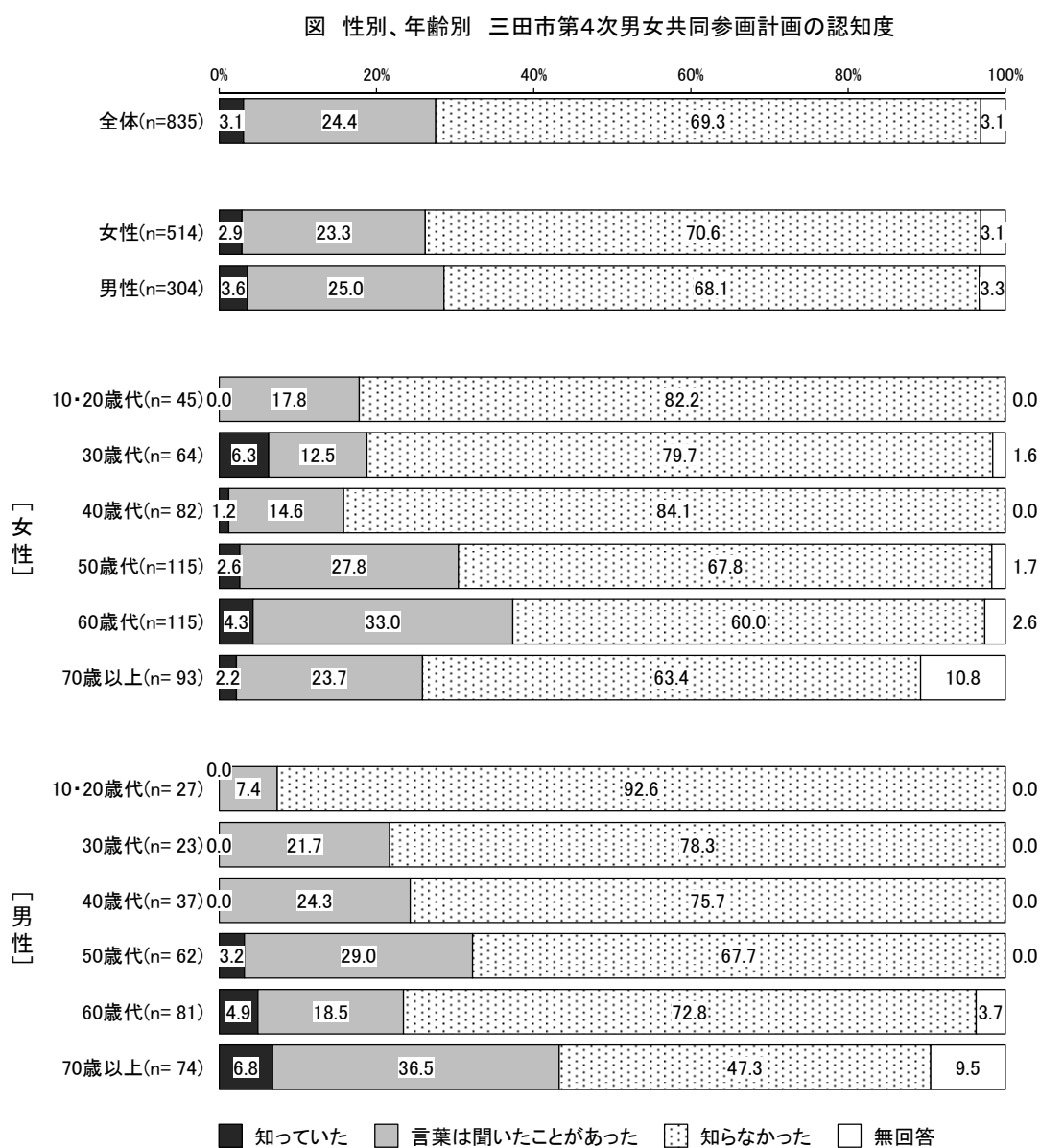
(1) 三田市第4次男女共同参画計画の認知度

問32 あなたは三田市第4次男女共同参画計画の内容を知っていましたか。【〇は1つ】

「三田市第4次男女共同参画計画」の内容を知っているかたずねたところ、「知らなかった」が69.3%を占め、次いで「言葉は聞いたことがあった」が24.4%となっており、「知っていた」は3.1%と低くなっています。

性別にみると、「知らなかった」は女性70.6%・男性68.1%で、女性の方がわずかに高くなっています。

年齢別にみると、「知らなかった」は年齢が低い層で割合が高い傾向がみられ、10～40歳代の男女では75%以上を占めています。



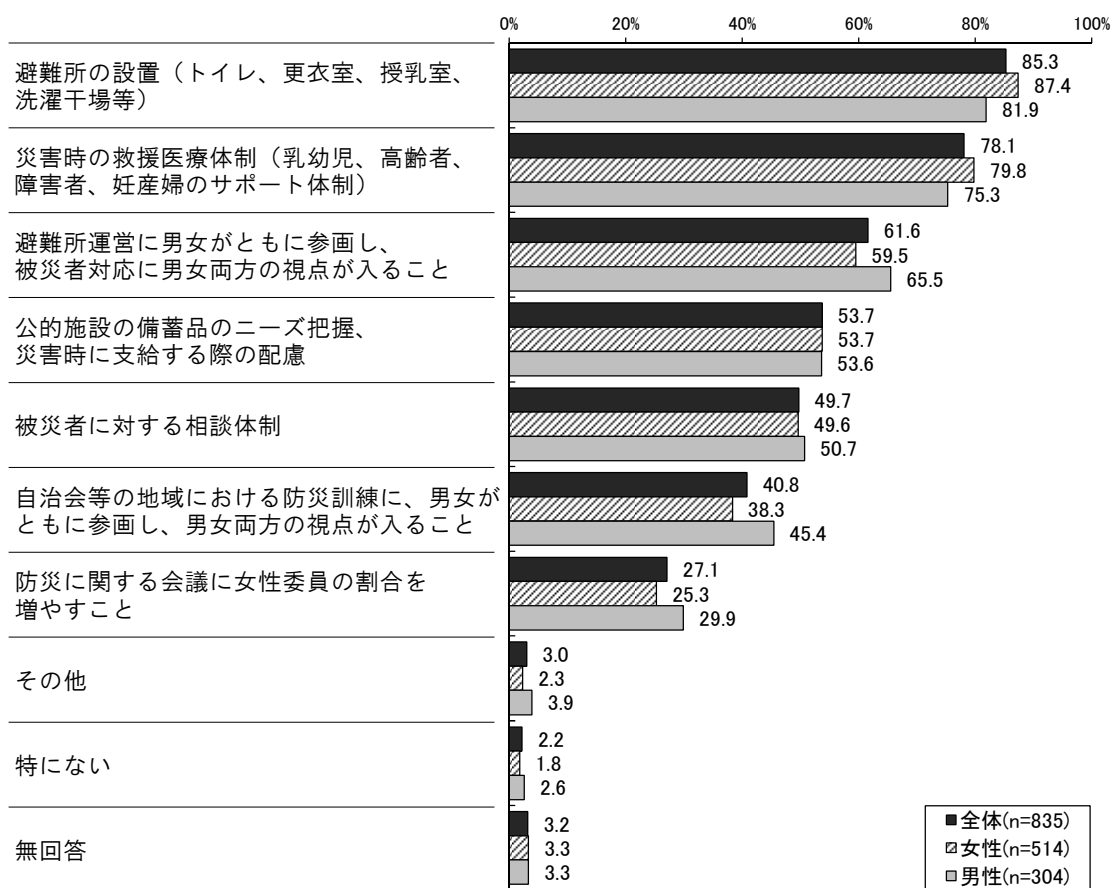
(2) 防災・災害対策において必要だと思う性別に配慮した対応

問33 あなたは、防災・災害対策において、性別に配慮した対応で何が必要だと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

防災・災害対策において、性別に配慮した対応で何が必要だと思うかたずねたところ、「避難所の設置（トイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）」が85.3%で最も高く、次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦のサポート体制）」が78.1%、「避難所運営に男女がともに参画し、被災者対応に男女両方の視点が入ること」が61.6%となっています。

性別にみると、女性は男性よりも「避難所の設置（トイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）」と「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦のサポート体制）」が約5ポイント高く、男性は女性よりも「避難所運営に男女がともに参画し、被災者対応に男女両方の視点が入ること」「自治会等の地域における防災訓練に、男女がともに参画し、男女両方の視点が入ること」「防災に関する会議に女性委員の割合を増やすこと」が約5ポイント高くなっています。

図 性別 防災・災害対策において必要だと思う性別に配慮した対応



年齢別にみると、「避難所の設置（トイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）」はいずれの年代でも最も割合が高くなっていますが、特に女性の年齢が低い層で割合が高く、10～40歳代では90%以上となっています。また、女性の10・20歳代では「公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮」が64.4%、60歳代では「被災者に対する相談体制」が60.0%と他の年代よりも高くなっています。

男性では、30歳代は「避難所の設置（トイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）」と「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦のサポート体制）」がともに91.3%と高く、また「避難所運営に男女がともに参画し、被災者対応に男女両方の視点が入ること」「公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮」が60%を超えています。また、男性では30・40・60歳代では、「自治会等の地域における防災訓練に、男女がともに参画し、男女両方の視点が入ること」が他の年代よりも高くなっています。

表 年齢別 防災・災害対策において必要だと思う性別に配慮した対応

	回答者数(n)	避難所の設置(トイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等)	災害時の救援医療体制(乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦のサポート体制)	避難所運営に男女がともに参画し、被災者対応に男女両方の視点が入ること	公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮	被災者に対する相談体制	被災者に対する相談体制の視点が入ること	自治会等の地域における防災訓練に、男女がともに参画し、男女両方の視点が入ること	防災に関する会議に女性委員の割合を増やすこと	その他	特になし	無回答
全体	835	85.3	78.1	61.6	53.7	49.7	40.8	27.1	3.0	2.2	3.2	
女性	10・20歳代	45	97.8	84.4	62.2	64.4	48.9	35.6	20.0	-	-	-
	30歳代	64	93.8	85.9	57.8	53.1	50.0	39.1	23.4	1.6	-	1.6
	40歳代	82	91.5	74.4	56.1	56.1	42.7	31.7	19.5	-	1.2	-
	50歳代	115	89.6	83.5	67.0	49.6	49.6	33.9	23.5	3.5	1.7	0.9
	60歳代	115	87.8	86.1	64.3	59.1	60.0	43.5	30.4	4.3	1.7	2.6
	70歳以上	93	71.0	65.6	47.3	45.2	43.0	44.1	30.1	2.2	4.3	12.9
	男性	10・20歳代	27	85.2	70.4	74.1	63.0	51.9	37.0	22.2	7.4	-
30歳代		23	91.3	91.3	65.2	65.2	56.5	52.2	30.4	-	4.3	-
40歳代		37	89.2	78.4	73.0	59.5	51.4	51.4	27.0	5.4	5.4	-
50歳代		62	83.9	72.6	61.3	48.4	37.1	33.9	21.0	4.8	1.6	-
60歳代		81	82.7	77.8	66.7	56.8	56.8	53.1	38.3	2.5	2.5	2.5
70歳以上		74	71.6	70.3	60.8	44.6	52.7	44.6	32.4	4.1	2.7	10.8

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示します。

(3) 今後特に力を入れるべき三田市の取り組み

問34 男女共同参画のために、今後、特にどのようなことに三田市が力を入れるべきだと思いますか。

【あてはまるものすべてに○】

男女共同参画に関して今後特に三田市が力を入れるべき取り組みをたずねたところ、「安心して産み育てられる子育て環境づくり」(64.0%)と「高齢者・障がいのある人が安心して暮らせる環境づくり」(62.0%)の2項目の割合が特に高く、以下、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進」(40.6%)、「職場における男女の平等な雇用機会・待遇の確保への支援」(38.7%)、「DVやセクハラ、児童虐待、高齢者虐待等の根絶・防止」(38.4%)の順番となっています。

性別にみると、女性では、「高齢者・障がいのある人が安心して暮らせる環境づくり」が64.4%で男性の57.9%より6.5ポイント高くなっています。男性では、「男女共同参画のための啓発の充実、慣習・制度の見直し」「地域活動における男女平等の環境づくり」「男女共同参画をめざす拠点施設の内容の充実」が女性よりも5ポイント以上高くなっています。

年齢別にみると、女性の10～40歳代では、「安心して産み育てられる子育て環境づくり」の割合が最も高く、また、10・20歳代では「職場における男女の平等な雇用機会・待遇の確保への支援」と「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進」、30歳代では「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進」が50%以上となっています。女性の50歳以上では「高齢者・障がいのある人が安心して暮らせる環境づくり」の割合が最も高くなっています。

男性では、10・20歳代は、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進」と「安心して産み育てられる子育て環境づくり」がともに63.0%、「職場における男女の平等な雇用機会・待遇の確保への支援」が59.3%と高くなっています。男性の30歳代と40歳代は「安心して産み育てられる子育て環境づくり」が70%以上、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進」が50%以上となっています。

図 性別 今後特に力を入れるべき三田市の取り組み

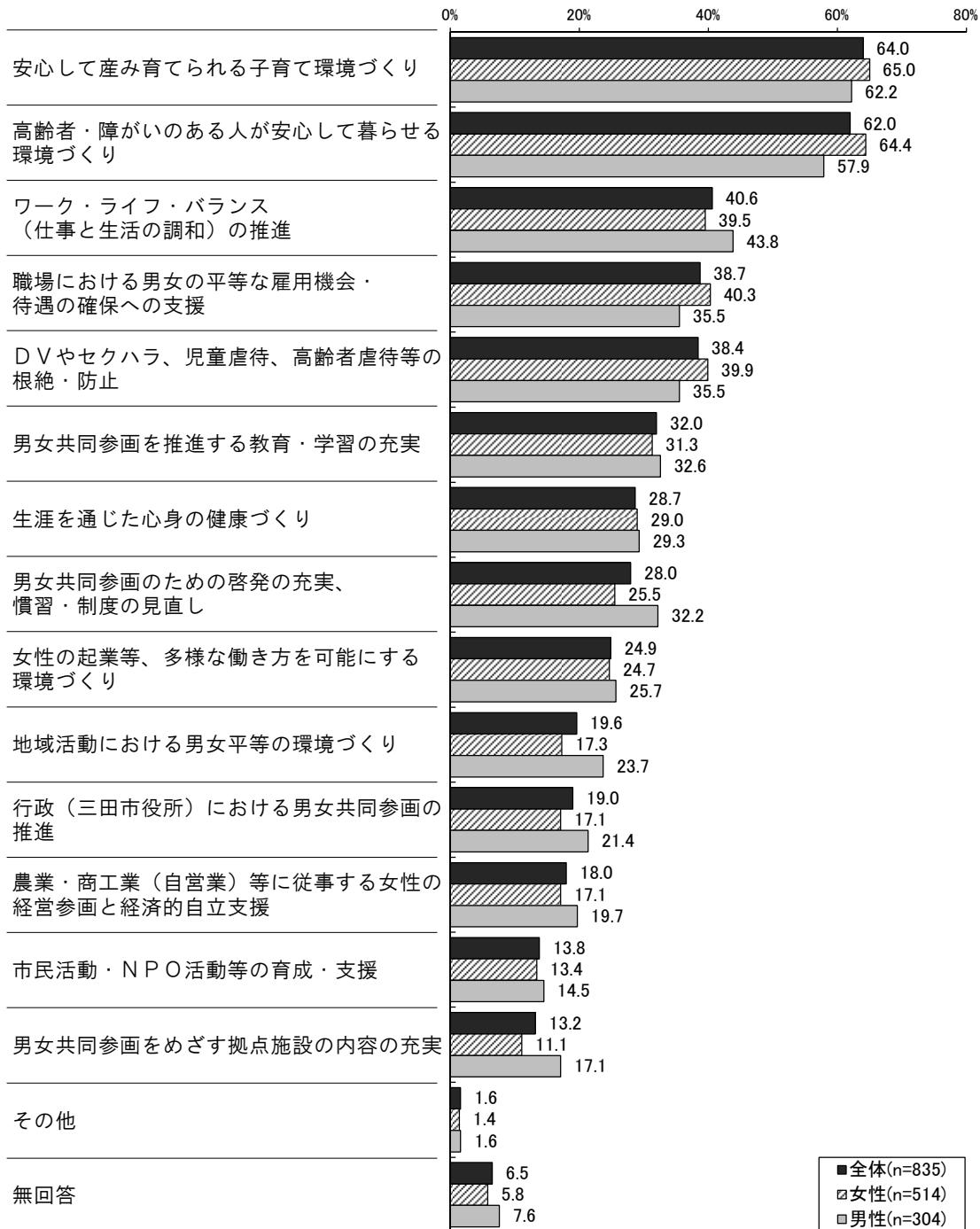


表 年齢別 今後特に力を入れるべき三田市の取り組み

	回答者数(n)	安心して産み育てられる子育て環境づくり	高齢者・障がいのある人が安心して暮らせる環境づくり	ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進	職場における男女の平等な雇用機会・待遇の確保への支援	DVやセクハラ、児童虐待、高齢者虐待等の根絶・防止	男女共同参画を推進する教育・学習の充実	生涯を通じた心身の健康づくり	男女共同参画のための啓発の充実、慣習・制度の見直し	
全体	835	64.0	62.0	40.6	38.7	38.4	32.0	28.7	28.0	
女性	10・20歳代	45	75.6	40.0	53.3	62.2	44.4	42.2	22.2	31.1
	30歳代	64	79.7	53.1	57.8	26.6	26.6	25.0	7.8	17.2
	40歳代	82	64.6	54.9	47.6	45.1	37.8	24.4	28.0	20.7
	50歳代	115	60.0	64.3	38.3	43.5	41.7	34.8	30.4	30.4
	60歳代	115	62.6	75.7	29.6	37.4	45.2	33.0	38.3	28.7
	70歳以上	93	59.1	78.5	26.9	34.4	39.8	30.1	34.4	22.6
	男性	10・20歳代	27	63.0	33.3	63.0	59.3	40.7	37.0	29.6
30歳代		23	82.6	47.8	56.5	30.4	21.7	26.1	39.1	13.0
40歳代		37	73.0	51.4	64.9	32.4	45.9	27.0	29.7	29.7
50歳代		62	62.9	58.1	50.0	37.1	30.6	22.6	14.5	33.9
60歳代		81	60.5	63.0	29.6	30.9	32.1	37.0	37.0	34.6
70歳以上		74	51.4	67.6	32.4	33.8	40.5	39.2	29.7	33.8

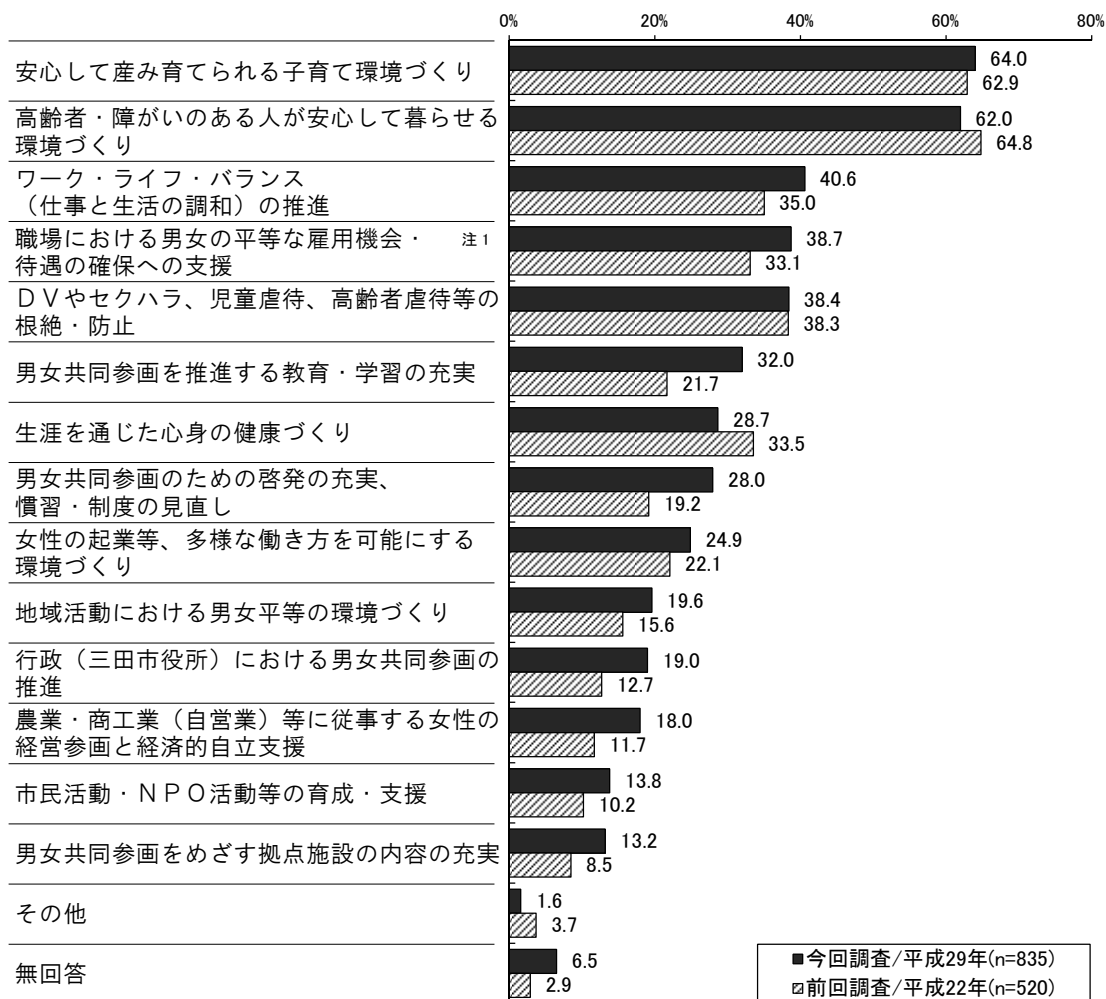
	回答者数(n)	女性の起業等、多様な働き方を可能にする環境づくり	地域活動における男女平等の環境づくり	行政(三田市役所)における男女共同参画の推進	農業・商工業(自営業)等に従事する女性の経営参画と経済的自立支援	市民活動・NPO活動等の育成・支援	男女共同参画をめざす拠点施設の内容の充実	その他	無回答	
全体	835	24.9	19.6	19.0	18.0	13.8	13.2	1.6	6.5	
女性	10・20歳代	45	42.2	15.6	8.9	8.9	6.7	8.9	-	4.4
	30歳代	64	26.6	9.4	10.9	12.5	6.3	-	1.6	6.3
	40歳代	82	25.6	17.1	9.8	13.4	14.6	6.1	3.7	1.2
	50歳代	115	23.5	13.0	20.9	15.7	14.8	13.9	1.7	6.1
	60歳代	115	22.6	20.0	19.1	20.9	11.3	12.2	-	4.3
	70歳以上	93	18.3	25.8	24.7	24.7	21.5	19.4	1.1	11.8
	男性	10・20歳代	27	40.7	25.9	14.8	37.0	18.5	11.1	-
30歳代		23	30.4	21.7	17.4	21.7	17.4	21.7	-	8.7
40歳代		37	24.3	27.0	16.2	16.2	10.8	16.2	2.7	-
50歳代		62	22.6	12.9	14.5	14.5	6.5	9.7	-	3.2
60歳代		81	27.2	25.9	25.9	22.2	12.3	18.5	2.5	7.4
70歳以上		74	20.3	28.4	28.4	16.2	23.0	23.0	2.7	16.2

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示します。

■ 前回調査との比較

前回調査（平成22年）と比較すると、今回調査は前回調査と比べて「男女共同参画を推進する教育・学習の充実」（今回調査32.0%・前回調査21.7%）では10.3ポイント、「男女共同参画のための啓発の充実、慣習・制度の見直し」（今回調査28.0%・前回調査19.2%）では8.8ポイント高くなっています。また、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進」（今回調査40.6%・前回調査35.0%）、「職場における男女の平等な雇用機会・待遇の確保への支援」（今回調査38.7%・前回調査33.1%）、「行政（三田市役所）における男女共同参画の推進」（今回調査19.0%・前回調査12.7%）、「農業・商工業（自営業）等に従事する女性の経営参画と経済的自立支援」（今回調査18.0%・前回調査11.7%）もそれぞれ前回調査より5ポイント以上割合が高くなっています。

図 性別 今後特に力を入れるべき三田市の取り組み — 前回調査との比較



注1) 前回調査では「職場における男女の平等な雇用機会・待遇の確保」

8. 自由意見のまとめ

男女共同参画社会実現のための意見、要望については、154件（女性：96件、男性：54件、性別無回答4件）の自由記述が寄せられました。以下に主な意見を抜粋したものを掲載しています。

<男女共同参画・男女平等について>

- ・みんな同じ人間だし、どんどん進んで社会に進出した方が良いと思う。男の人も女の人もみんな一緒にやれば良い。もう昔の時代は終わったと思う。世の中変わったと思う。これからは男女とも同じであると思う。（男性 50 歳代）
- ・意識の中では、かなり男女平等が広まっている感はあるが、実際に子育てや介護を目の前にすると、やはり、女性の負担が大きくなる。又、それが当然という社会の価値が根強いので、少しずつでも女性だけが負担する環境から男性も含めて全員で関わられるような体制、法律、環境になっていくように望みます。（女性 60 歳代）
- ・男女は平等かと言うと、そうではなくて、まだまだと思っています。一番いいのは、いろんな立場のマイノリティーの人（外国籍の人、LGBT など性的少数者の人などいろいろ）でも生きていきやすくする都会になることでしょうか？東京にあれだけ人がどんどん移住しているのも、地方にはない自由さがあるからですしね。三田市もその意味でニュータウン以外にもいろんなところで生きやすくてできる街になれると思う。（女性 50 歳代）
- ・お互いが思いやることが大切ですが、色々な経験をしていく中で、早く気付く人、気付いても実行できない人等いらっしやると思います。日本に生まれた人は、特に若い人は、初めから環境が整っているので、男女平等の意識は自然とあるのではとも思います。しかし、問題意識を持つにいたる体験とかがないまま、平等云々と言うと、男と女の肉体的差によるものも平等にすることになり、出来ない相談です。平等とは人を均一にならず、相言葉にならない様に本当の人の自由とは何かを掘り下げて考える方が大切だと思っています。男・女の性による違いで苦労している方の体験が実感できるなら問題提起になると思います。（男性 50 歳代）
- ・男女平等にこだわりすぎて、無理が生じる事は好ましくない。得意、不得意、個人の能力をのばしていけると良いと思う。年齢や、世代によっても、男女平等に対しての考え方が違うと思う。高齢になる程、男尊女卑の傾向があるが、今時の人は違う。個人別に適性な生き甲斐が見つかる世の中だと良い。（女性 40 歳代）
- ・男女平等は必要と思いますが、伝統ある文化まで否定するのは不要と思います。平等と共働（協働）をまちがえぬよう、どちらもが生き生きと暮らせる町がいいですね！また、女性や子育てひとり親支援の充実も大切ですが、やはり、理想は男女が手を取り仲良くくらせることではないでしょうか？ひとり親の増えている時勢ですが、出会いや再婚、ステップファミリーへの支援などあるとなかなかステキではないかなと思います。（女性 40 歳代）
- ・男女平等というのは、権利ということでは平等ですが、男女の違いは現実あるので、互いに尊敬し、補い合っていくべきで、権利と主張し過ぎてお互いに対立する事があれば、それは間違いだと思います。（男性 50 歳代）
- ・女性だからとか、男性だからとかを意識しすぎている。行政は、これを改めなければ、不毛の論議と化す。例えば、重たいものは男性が持つ、のではなく、力のある者が持つ。生活費の確保は、確保できる者が確保する、ということ。「男」「女」という文字、言葉を使わないこと。「男」「女」という文字、言葉を行政が使っている限り、男性という人種、女性という人種の人種区別（差別）を意識させることになる。（男性 60 歳代）

<働き方について>

- ・同じ職種で同様の仕事内容なのに男性に比べて女性の方が賃金がかかり安い事に納得がいきません。また、昇進もなかなか女性というだけでできていません。本当に不平等だと日々感じています。(女性 60 歳代)
- ・もっと女性の雇用を増やしてほしいです。元気な高齢者、仕事を少ししてみたい主婦向けにワークシェアで細かい時間で働ける場所があればうれしいです。(女性 40 歳代)
- ・私は、学校管理職です。女性の登用は良いことだと思うが近年登用状況は性急すぎ、覚悟を決めてその道に進まれた方も戸惑われているケースが多い。私の妻も管理職で、家庭の支えは私としても家事を分担してがんばれるが、教育界といえど、男性偏重の風潮は厳しく、妻の職場環境は良好ではない。意識を変える難しさを痛感する。(男性 50 歳代)
- ・男性の保育士に女兒の着がえをさせないでほしいというニュースをきいて、性というものに？となる今日この頃です。男女関係なく仕事のプロとしてやっている人たちを応援できるような国であるべきですよ。(女性 50 歳代)
- ・三田市に本社がある会社に勤務していますが、男女の待遇の格差がものすごくあり、男性のみがとても優遇されています。男性は契約社員で入社しても 1 年後には正社員になれる事が確約されています。それとは反対に女性はどんなに評価が良くても正社員にはなれず、表向きは正社員登用制度ありとうたっていますが、実際には活用されていない制度です。このような実態がある事を市でも調査し、少しでも女性にとって働きやすく男女平等な社会になる様に動いてもらいたいです。(女性 40 歳代)
- ・今私は 28 才で会社員として勤めています。結婚も子育てもちろん考えています。仕事は絶対に続けていきたいし、有難いことに会社は時短制度や女性活躍が充実しているので、共働きは可能だと思っています。私は三田が大好きなので結婚しても三田に住みたいです。ただ、職場が遠く、朝は 6 時 20 分に家を出て、21 時に帰宅する毎日です。もっと近かったらどれだけ楽かと考えます。なので結婚したら三田に住むのは物理的にはほぼ不可能だと感じています。もし、駅前に保育園があったら…とか、大阪までもっと早く行けたら…とか色々思います。将来の事を考えると三田を離れざるを得ないのが辛いです。(女性 20 歳代)

<両立支援・子育て支援について>

- ・希望の保育所に入れず娘を車で 20 分かかる保育所に通わせています。その通学時間のやりくりは基本的に妻である私が行っています。保育所を変わりたくても今の制度では転所はマイナス点がつくと言われました。歩いて 5 分の保育所に変われない。必要とする人が希望する保育所に入れるよう制度の見直しをお願いします。(女性 20 歳代)
- ・保育所の数を増やしてほしい。学童をもう少し短時間パートでも利用できればと思う。幼稚園の預り保育料金の値上がりを考えてほしい。子育てしやすい、女性も働きやすいといいながら預り料金が 4 月から UP とのこと。何のために働きにでるのかわからない。(女性 30 歳代)
- ・子育て、高齢者の介護等、女性に負担が強いられています。独りでかかえきれるものではなく、もっと社会全体で支え合うしくみにしていかなければならないし、ここが解決しなければ女性が社会で能力を生かせない。働きたい女性にとって障壁となっている事に行政も目を向けてほしい。(女性 50 歳代)
- ・保育所も短時間だけ来てもらえる人を増やしたり(忙しい時間帯だけ)医療クラークのように文書を書いて保母さんをサポートする人をいれると(高齢者等)たくさんの子どもを預かれるようにしたらいいと思います。育児は男性でもする人が増えましたが、お手伝いだけでは意味がないです。一日のこと全て一人でできないといけないのに、部分手伝いで「イクメン」だと勘違いしている人が多い。(女性 50 歳代)

- ・やっぱり 1 番気になるのは出産育児が必要な時にどう仕事と両立していけるかです。子供を預けられる場所の確保と、その費用の負担など考えた上で仕事をあきらめ、収入が減るという流れになっている家庭はたくさんあります。(女性 30 歳代)
- ・男女共同参画のために、社会、企業等にもっと働きかけてもらいたい。企業のトップの人間がそういった考えをもち、男性が家庭も大切にできるよう、女性が働きやすくなるよう意識改革してもらえたらと願う。また、もっと女性が働きやすくなるための保育施設の充実、計画的な保育所への入所方法についてより力を入れてほしいと願う。また、男性がより家庭の仕事をできるようになる為の勉強会やワークショップを開催してほしい。共働き家庭でも子どもが安心して伸び伸びと育つためのサービス充実をお願いします。(女性 30 歳代)
- ・夏休みの長期休暇などに子供を預ける場所がないので、パートなどの人はなかなか働きにくいと思います。児童館などがあれば助かります。(女性 40 歳代)
- ・今、ウディタウン地区では保育はおろか、幼稚園にすら入りにくい状況です。子育て世代があまりにも多いのが理由ですが、せめて自分の住む地区の幼稚園には前夜から徹夜で並ばずとも入園願書が受け付けてもらえるようにしていただきたいです。また、出産などを機に退職をよぎなくされた女性が再就職するために保育園が必要となりますが、育休中の人ですら保育園へ入れない状況に再就職をあきらめている人がどれだけいるのかを市は把握しているのでしょうか。保育園が増え、表面的に待機児童が減ったことに慢心しないでいただきたい。隠れ待機児、隠れ学童入所希望児が本当に多くいるのが現状です。制度が整ってないから諦めて、仕事をする事ができない女性は多くいます。(女性 30 歳代)
- ・三田市は子育てに関しては、もう一つという感があります。三田市民病院以外産科がないという現実、公立幼稚園の少なさ、環境を整えるのは困難とは思いますが、少しずつでも考えていただけたらと思います。(女性 50 歳代)
- ・男性の育児休業取得を促す様な働きがけをしてほしい。育児休業から復職して働く母親の負担軽減のためにも男性の育休は欠かせないと思います。(女性 30 歳代)

<高齢化社会・介護について>

- ・高齢者の人達でも健康であれば報酬のある仕事ができる機会を与えていただければやり甲斐、生き甲斐につながり、町全体に活気が出てくると思います。報酬がたとえわずかであってもやり甲斐につながると思う。報酬は額の多少にかかわらず意欲につながる大切なものだと思う。(女性 70 歳代)
- ・老人ホームと保育園、幼稚園を一緒に運営してほしい。ボケ防止にもなるし、収入も得られる。子供もおじいちゃん、おばあちゃんと接する機会が増える。さらに母親の時間ができる。(女性 30 歳代)
- ・高齢者の介護は子育てよりつらい気がします。介護は状況により非常に孤独になります。一人でしていてもです。(女性 50 歳代)

<家庭における役割分担について>

- ・幼稚園の役員、PTA の役員はどうしても母親がしている。三田は専業主婦、パートの人が多く、父親が仕事を夜遅くまでしているからだ。学校や教育のことも、両親で分担できるような社会になっていくよう希望する。(女性 30 歳代)
- ・妻に共働きを望む夫は増えているが、家事や育児を公平に分担しようという積極的意識を持っている夫は少ないのではないかと思う。(女性 60 歳代)
- ・私(男性)が家事のほとんどを行っています。パートナーはフルタイムです。このような環境にある私にとっては、非常にバカにされたような質問ばかりです。問 26⑨は逆の意味で偏った見方だと思います。私も「二重負担」です。(男性 50 歳代)

<地域活動・まちづくりについて>

- ・定年後、ボケ防止のために展示会、勉強家などに時々参加しますが、いずれも参加者の多くは女性で、定年前とは男女平等の考えがちがっていると思う。(男性 60 歳代)
- ・女性の視点からみた、地域の活動や生活の利便性についてもっと色々な意見をくみあげれるシステムを作っていてほしい。(女性 50 歳代)
- ・小さいバスをたくさん通してもらい、高齢者が健康で動きやすく女性が子供を預けたり、働きやすくしたりできないか。地域社会のマイカー依存は、高齢者、女性、子供の活性化にはつながらない。(男性 50 歳代)

<行政の取組について>

- ・言葉で「男女平等」や「男女共同参画」を訴えるだけでなく、実際にそれらを目指す制度や団体をつくったり、行政が社会に介入したり等、具体的に行動を起こさなければ何も変わらないと思います。また、私達市民も「男女共同参画」について考え、意識して男女平等を目指さなければならないと思います。行政と市民が協力して、男女の問題を解決するよう、よりよい三田市にしていきたいです。(女性 18~19 歳)
- ・男女共同参画はすべてにわたり、広範囲に関わると思えます。三田市は子育て環境づくり、高齢者、障害のある人が安心して暮らせる環境づくりの視点から最優先に男女共同参画による事業の育成や支援の推進を強化する。(男性 60 歳代)
- ・三田市の「共同参画計画」のことばは聞いたことがあるが、内容等具体的な事があまり見えないと思います。もう少し推進するための教育や啓発の機会を増やしたらどうかと思います。(男性 60 歳代)
- ・相談窓口があるのかもわかりません。市の広報誌で相談案件などを具体例として載せるようにしたり、窓口があるなら連絡先を公開して、こういう活動をしているというアピールをもっとすべき。(女性 40 歳代)
- ・女性の方がおそらく関心を持ちやすいと思いますが、男性に関心がなければ何も進展しないと思いますので、教育の場や、職場、地域で工夫して男性の興味関心を引いてほしいです。(女性 40 歳代)
- ・まずは「男女共同参画」というネーミングが分かりづらいと思いました。ほとんどの方が聞き慣れないのではないのでしょうか。キッピーモールにあるプラザも学生が多く勉強の場になっていて、図書館かと思いました。(女性 50 歳代)
- ・友人と共に男女共同参画に相談に行きまして大変親切にいただきとても喜んでいました。長い時間話を聞いていただき、行く時は不安顔でしたが、終わった時は明るい表情で話しを聞いてくれる所が一つ増えたとうれしそうでした。又、駅前という交通の便の良い場所にあり、年老いても利用しやすいかと思えます。どうぞ閉めないで長く活動して下さいますようお願いいたします。(女性 60 歳代)

<アンケートについて>

- ・今回のアンケートは 18 才以上 2,000 人を無作為に選んだとありますが、75 才を超えた後期高齢者からこの様なアンケートをとっても意味がないと思う。例えば 18 才~65 才位におさえるべきだと思う。(男性 80 歳以上)
- ・三田市として目指す男女の役割及び就労者等が数値目標として見えない。前回の意識調査の結果報告に於いても、数値分析は定性的にあるが何が目標かが極めてあいまいである。公約である必要はないが三田市として考えるゴールを数値として示すべき。三田市行政サービスとしてできる事と、そうでない事の区別を明確に区分し、アンケートを行うべき。そうでなければアンケートの結果はあいまいで結果、行政としては「啓蒙」という極めてあいまいな「対策」で終わる。(男性 50 歳代)